

日本の文学

堀尾幸平

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本の文学の歴史をふまえながら、代表的な文学作品を紹介し、観賞する。若い世代の文学への関心が薄らいでいるといわれる今、文学への興味と関心を喚起したい。

【授業計画】

1. 明治期の文学
坪内逍遙、二葉亭四迷
三輪弘忠、巖谷小波
押川春浪、立川文庫
2. 大正期の文学
小川未明、鈴木三重吉
『赤い鳥』、『少年倶楽部』
千葉省三、浜田廣介
少女小説、少年詩、童謡
3. 昭和期の文学
プロレタリア文学、佐藤紅緑
佐々木邦、江戸川乱歩
宮澤賢治、新美南吉、坪田譲治
いぬいとみこ、松谷みよ子、
中川李枝子、灰谷健次郎
4. 平成期の文学
5. 創作

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

日本児童文学論(堀尾幸平著 中日文化 2,200円)

【参考書籍】

授業中に適宜紹介する。

英米の文学

小野迪雄

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

文学作品にはそれぞれの国の文化が反映している。主に20世紀の英米の文学の思潮をたどりながら、伝統的な英国文学や移民の国として新しい文化を作った米国文学を中心に考察する。

【授業計画】

本年度はアメリカ文学を中心に講義をする。アメリカは移民の国として、先進国の中では非常に遅い出発をした国であるが、それだけに歴史の古い国にみられる伝統に欠ける面があるものの、他の先進国にみられない文学の活力や著しい特徴がある。アメリカの文学作品には、どんな特質や問題があるのか考えていく。時間の制約上、個々の作品を細かく扱うことが難しいので、中心は作品を生みだした社会的背景や文学思潮におく。話の展開の中でイギリス文学や日本文学にもふれる。

【評価方法】

レポートや受講態度を加味するが、評価の中心は定期試験による。

【テキスト】

未定。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書籍】

授業時に紹介する。

中国の文学

寺尾 剛

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国の歴史と文化は古くかつ深い。日本はその影響を大きく受けてきたが、特に文学は顕著であった。中国の代表的な文学作品を紹介し、鑑賞する。

<主なテーマ>

- ・花木蘭（ムーラン）の物語－中国女性は強い？
- ・王昭君の物語－国際結婚、是か？否か？
- ・西施の物語－中国最大の美人は？
- ・孟姜女の物語－万里の長城と女性悲話
- ・詩仙・李白－酒仙、大いに酒を歌う
- ・詩聖・杜甫－戦争と文学と
- ・南宋最大の詩人・陸游－夫婦と嫁姑戦争
- ・蘇軾－豚の角煮（東坡肉）の自家争い
- ・封神演義はどこまで実話？－中国小説の魅力
- ・中国笑話選－下ネタは下品か？
- ・孔子－中国人の知恵と格言
- ・魯迅・周作人兄弟と日本との深い関係
など

【評価方法】

平常点と試験。

【テキスト】

未定（主としてプリント）。

情報と社会

梅田敏文

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会は情報化社会といわれ、さまざまな情報が送受信されている。日常生活や経済社会の中で「情報」がいかにかわり、有効な活用はどうあるべきかについて考察する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 e－ビジネスの進展
- 第3講 社会の情報システム（事例1）
- 第4講 社会の情報システム（事例2）
- 第5講 社会の情報システム（事例3）
- 第6講 データと情報
- 第7講 インターネット
- 第8講 機械とコンピュータ
- 第9講 システムの概念
- 第10講 情報システムの構築
- 第11講 情報化社会の課題
- 第12講 まとめ

【評価方法】

出席点40%、レポート60%で評価する。

【テキスト】

プリントを適宜、配布する。

情報と社会

沖野皓一

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会は情報化社会といわれ、さまざまな情報が送受信されている。日常生活や経済社会の中で「情報」がいかにかわり、有効な活用はどうあるべきかについて考察する。

【授業計画】

- 第1～2回 歴史に見る情報と社会
情報と文化との関係を軸に、人間社会の歴史を概観する。
- 第3回 情報がモノを造る
モノの生産が、必要性・実用性から嗜好に重点を置くようになってから、生産システムも大きく変わった。いわゆる情報化社会の生産と消費の関係について
- 第4～10回 情報の氾濫がもたらすもの
次々と繰り出される扇情的な情報や、人々の行動を先取りするような情報の氾濫の結果、私たちはかえって情報への関心を失い、情報喪失の状態に陥りかねない。情報過剰の現状について
- 第11回以降 主体性確保のために
ニューメディアは多チャンネルの実現による情報の多元性を売り物にしているが、私たちにとって重要なのは、本当に必要な情報を発信・選択できる双方向性であろう。市民の側からの情報発信、メディアアクセスの現状と可能性について

【評価方法】

出席状況・試験の成績などによって総合的に行う。

【参考書籍】

講義の中で、その都度紹介する。

ジェンダーと社会1

國信潤子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会において女性と男性の社会的関係は変容しつつある。男女がともに社会参画をして初めて社会における平等が確保できる。この視点から現代社会におけるジェンダー（社会・文化的性）のさまざまな問題を指摘し、検討する。

この講座では開発援助という面での国際交流をジェンダーの視点から学ぶ。今日、開発援助が政府及び民間組織によって推進されている。地球規模で物資、情報が流通する現代、先進産業国と非産業国の格差の拡大は顕著である。産業化重視の開発が今、限界にきている。資源有限時代に南北社会対立は深刻化している。この対立関係の解消は可能なのか、21世紀にむけて国際関係でジェンダーに配慮することの意味は何なのかについて考える。開発協力は現在政府間協力、民間組織両者によって推進されている。本講座では開発協力の第一線でジェンダー配慮を理解しつつ活躍する専門家数名を客員講師として招き、多面的考察を行う。開発とは何か、ジェンダー視点で考えるとどのようなことかをまず考え、次いで「開発とジェンダー、理論と実践」（日本福祉大学生江明先生）、「農業にみるイスラム女性の役割」（名古屋大学国際開発研究科 星山幸子先生）、「開発と保健」（アジア保健研修所理事長 川原啓美医師、林かぐみ先生）、「開発と性暴力」（アジア女性資料センター代表 松井やより先生）、「日本における外国人労働者」（名古屋カトリック国際協力委員会 野上幸恵先生）により、各領域における国際開発協力についてジェンダー視点から考察を行う。実践に裏打ちされた国際開発協力理論とは、南北社会対立とは何かについて学生諸氏が学習し、今自分にできる国際協力とは何かを共に考えてゆきたい。

【評価方法】

期末レポート、出席状況、履修態度などの総合評価。

【テキスト】

なし、随時配布資料あり

ジェンダーと社会 2

中島美幸 山下智恵子

オムニバス 1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講座では、ジェンダーの視点で文学作品を分析することによって、〈女/男〉規範がどのようにテキストに織り込まれているかを読み解き、さらに、テキストがどれほど現実の女と男の生を規定してきたかを検証する。それとともに、ジェンダーの呪縛から解放されたいとして、新たな文学表現を試みる作家・作品をできるだけ多く提示する。(オムニバス方式)

(中島美幸兼任講師)「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。なかでも、近代以降の女性表現については、他国の女性文学との比較もまじえつつ、読み解いていく。

(山下智恵子兼任講師)現代の文学作品を中心に、家族、母娘など人間関係をジェンダーの視点から検証する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 〈ことば〉とジェンダー
- 第3回 〈書く女〉の登場①
- 第4回 〈書く女〉の登場②
- 第5回 女性を描く男性作家のまなざし①
- 第6回 女性を描く男性作家のまなざし②
- 第7回 母と娘の物語①
- 第8回 母と娘の物語②
- 第9回 家族の物語
- 第10回 文学の政治性
- 第11回 文学と映像文化
- 第12回 まとめ

*第8、9回は山下智恵子担当。他は中島美幸担当。

【評価方法】

毎回の簡単な感想と、学期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

教科書は使用せず、随時、プリントを配布する。

【参考書籍】

毎回の講義の際に紹介する。

日本国憲法

大嶽 浩

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の経過や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

【授業計画】

<前期>

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 国民の司法参加
5. 憲法の最高法規性 (A)
6. 憲法の改正

<後期>

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 憲法の最高法規性 (B)
5. 直接効力説
6. 憲法裁判所
7. 公共の福祉と義務
8. 人権アラカルト
9. 戦争と平和

【評価方法】

<前期>授業内小テストとレポートによる評価。

<後期>試験による評価。場合によっては、レポートの追加。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

郷土の歴史と文化

秦 達之

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

東海地方は、戦国乱世の時代に織田信長、豊臣秀吉、徳川家康を生んだ土地である。この歴史的風土をふまえ、愛知県を中心に郷土の歴史と文化を講義する。

愛知県は、“三大英傑”以後、一見平穏無事で、パツとしないかみえる。しかし、よくみれば、東西の文化を巧みに織りこんで、波瀾にも富み、歴史上重要な地歩を築いてきた。講義は、尾張と三河とのちがいにも留意しつつ、隣県の三重・岐阜・静岡にも時には視野を拡げ、受験時の暗記の歴史から、考え、楽しみ、生きるための歴史へと飛翔することを目指す。

【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ、内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものにしたが、果してうまくいきますか、どうか？

内容は、「伊勢湾の漂流民たち」「三河加茂一揆」「村方騒動と兼帯庄屋」「東海地方の山車（だし）」「渡辺崋山とその周辺」「お札降りとええじゃないか」「尾張の洋学者たち」「尾張藩草莽隊（そうもうたい）」「モルフィと廃娯運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一時間毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。質疑応答の時間を設けるか、感想を書いて貰うか、受講者の声を聞く工夫をしたい（受講者もぜひご協力を）。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績などによるが、毎時間最後に感想を書いて貰い、それも評価に繰入れることも考慮中（授業を批判したからといって、評価が低くなるわけではない。念のため）。

【参考書籍】

愛知県の百年（塩沢君夫、斎藤勇、近藤哲生共著 山川出版社）

愛知県の歴史（塚本学、新井喜久夫著 山川出版社）

都市と環境

谷口 武

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代の都市は生活と文化の面では便利であり、快適であるが、街の緑や空気汚染など、自然環境には恵まれているとはいえない。都市をとりまく自然環境の問題を中心に講義する。

【授業計画】

- 第1講 概論1：自然環境とは
- 第2講 概論1：自然環境と人間
- 第3講 各論1：農耕の発見による生活形態の変化
- 第4講 各論2：　　〃
- 第5講 各論3：産業革命と都市形成の促進
- 第6講 各論4：　　〃
- 第7講 各論5：現代都市生活の高度化
- 第8講 各論6：　　〃
- 第9講 各論7：都市巨大化と自然環境
- 第10講 各論8：　　〃
- 第11講 各論9：都市環境の改善
- 第12講 各論10：　　〃
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考書籍】

都市の論理（藤田弘夫著 中央公論社）

なにが環境の危機を招いたか（バリー・コモナー著 講談社）

メディアと文化

大西 誠

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報化社会の進展と技術の発達でさまざまなメディアが新しい文化を生み、伝達する。文化の創造と伝達にかかわるメディアのあり方を考察する。

各回の講義では、現代社会の中で、忘れられているメディアそのものと周縁状況との関係性に目を向けながら、メディアとは何か、文化とは何か？を具体的にとりあげていく。特に下記のジャンルに関する物語性に言及したい。

- ・ 絵画・美術
- ・ 写真
- ・ テレビ
- ・ 出版
- ・ 日用品

その他、スポーツやマンガなどにも領域を広げたい。

【授業計画】

各回「読み切り」形式で、テーマとなるメディアや事象とそれに関わった人物・集団などをとりあげ、講義する。

【評価方法】

出席状況、小テスト（数回）と課題レポート

【テキスト】

なし。

【受講上の注意】

自主性、想像力が要求される。歴史に関心のない者は不可。私語厳禁。

メディアと文化

鎌田基子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩でさまざまなメディアが新しい文化を生み、伝達する。文化の創造の伝達とメディアの関わりを考察する。

【授業計画】

- 第1回 どこからどこまでがメディアなのか？
- 第2回 伝達技術と表現手段
- ・ 新しい伝達技術が成熟するとき
- 第3回～6回 「編集」という創造
- ・ 怪物の作り方
 - ・ テーマとコンセプト
 - ・ 人の流れと思考の奥行き
 - ・ 発想の手順
 - ・ WORK SHOP
 - ・ フォトストーリー
 - ・ コラージュ
 - ・ 店内レイアウト
 - ・ 雑誌の企画
- 第7回～10回 現代美術はなぜ分かりにくいのか？
- ・ 作品が持つ言語
 - ・ 素材の力、場の力
 - ・ 感覚解放訓練
 - ・ 作家の生活（ゲスト講師による講演）
 - ・ WORK SHOP
 - ・ 即席インスタレーション
- 第11回～12回 社会が生んだ表現
- ・ 表現の自由と人権
 - ・ 芸術が果たす役割
- 第13回 「見る」「聞く」行為について

【評価方法】

出席状況、レポート等による。

国際情勢

冨江良治

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

国際化の時代とか、地球は一つなどといいながら、つい身近なことにとらわれて、視野を広げる努力を怠りがちです。世界では何が起きているのか、その背景には何があるのか、どの方向へ進むと考えられるのか。こうした問題意識と関心を持った人間が育つよう、つぎつぎと起ころしい動きを手掛かりに分かりやすく、面白く解きほぐしていきます。世界歴史の最先端にふれる興奮と緊張を味わえれば、です。

【授業計画】

日々報じられる新聞の国際記事、解説や特集面、テレビのニュース番組、ドキュメンタリーなどのコピーやビデオを用意し、教室で放映または配布して説明します。発生する出来事の中から興味を引くとみられるものを優先します。したがって政治、経済、社会、文化といった体系的な進め方には必ずしもなりません。

【評価方法】

原則として筆記試験によります。出席状況や意見発表とか質問、問題提起、私語、遅刻など受講態度も参考にします。

【テキスト】

特にありません。

【参考書籍】

そのつど、必要に応じて知らせます。

生活と福祉

山口みほ

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間らしい生活を営むには、今日では福祉は避けられない問題である。しかし、「福祉とは何か」、「福祉はいかにあるべきか」は難しい課題である。障害者福祉や老人介護など、現代的な問題を視野に入れて福祉について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 オリエンテーション：社会福祉とは
- 第2講 生活問題と社会福祉
- 第3講 児童福祉
- 第4講 老人福祉(1)
- 第5講 老人福祉(2)
- 第6講 障害者福祉(1)
- 第7講 障害者福祉(2)
- 第8講 医療福祉
- 第9講 公的扶助
- 第10講 地域福祉
- 第11講 その他の領域における福祉活動
- 第12講 社会福祉の課題と展望
- 第13講 試験

【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

新版現代の社会福祉（竹中哲夫他編著 みらい）

【参考書籍】

講義中に紹介する。

こころの世界

植村勝彦

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

極度の精神的緊張や不安をはらむ高度情報社会の時代にヒトのこころや行動の仕組みについて改めて熟考することは、将来をより豊かに生きてゆくためにも意義深いと思われる。本講義は心理学的観点から人間を理解することをめざす。

人間の社会的な場面での行動を研究するのが社会心理学であるが、それを「実験」という方法によって明らかにしようとする「実験社会心理学」で得られた興味深い知見を数多く紹介することで、心理学の面白さを味わってもらおうことにしたい。

【授業計画】

- 第1講 社会心理学とは何か
- 第2講 同調行動のメカニズム
- 第3講 実験室のナチズム
- 第4講 模擬監獄実験
- 第5講 冷淡な傍観者
- 第6講 社会的手抜き
- 第7講 認知的不協和理論
- 第8講 対人交渉：要請と承諾
- 第9講 類は友を呼ぶ
- 第10講 相互魅力のゲイン・ロス効果
- 第11講 情動二要因理論
- 第12講 偽薬効果と逆偽薬効果
- 第13講 実験社会心理学における倫理的問題

【評価方法】

学期末の単位認定試験の成績で評価する。

【テキスト】

社会心理学ショート・ショート—実験でとく心の謎—
(岡本浩一著 新曜社)

こころの世界

吉崎一人

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の意識的、無意識の情報処理について、心理学からせまる。

【授業計画】

1. 知覚の世界 (1) 視覚
2. 知覚の世界 (2) 聴覚
3. 記憶の世界 (1) 二つの箱の謎
4. 記憶の世界 (2) 情報の精緻化
5. 記憶の世界 (3) 歪む記憶
6. 無意識の情報処理 (1) 潜在記憶
7. 無意識の情報処理 (2) 注意と自動的処理
8. 日常生活での情報処理 (1) 顔、人物に関する情報処理
9. 日常生活での情報処理 (2) 推論過程
10. 脳と心の世界 (1)
11. 脳と心の世界 (2)
12. 脳と心の世界 (3)
13. テスト

【評価方法】

1回以上の心理学実験への参加、並びに調査(アンケート)への回答をノルマとする。

テストと実験、調査への参加を総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。毎回A4の用紙を配布する。

こころの世界

斎藤和志

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

極度の精神的緊張や不安をはらむ高度情報社会の時代にヒトのこころや行動の仕組みについて改めて熟考することは、将来をより豊かに生きてゆくためにも意義深いと思われる。本講義は心理学的観点から人間を理解することをめざす。

心理学（特に、社会心理学的な立場から）のテーマを取り上げ解説する予定であるが、その時々興味・関心に応じた話題も取り上げていきたい。

【授業計画】

1. 序章：心理学入門
2. ものの見え方、見方の心理（その1）
3. ものの見え方、見方の心理（その2）
4. 欲望と喜怒哀楽の心理（その1）
5. 欲望と喜怒哀楽の心理（その2）
6. 学ぶこと、考えることの心理（その1）
7. 学ぶこと、考えることの心理（その2）
8. 自己をとらえる心理（その1）
9. 自己をとらえる心理（その2）
10. 人間関係の心理（その1）
11. 人間関係の心理（その2）
12. 人間関係の心理（その3）
13. 試験

【評価方法】

試験による。

【参考書籍】

図説心理学入門（齊藤勇編 誠信書房）

ことばの世界

松本雄子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日常生活において、ことばによるコミュニケーションは、言語的な意味だけでなく、社会的な意味においても行っている。

ことばによる社会的な意味のちがいを地域、社会的階層、性差、年齢などを軸にして考えてみたい。

【授業計画】

前期は、コミュニケーションの基礎概念や理論を中心に講義する。地域、社会的階層、性別、年齢によるコミュニケーションの違い等に焦点をあてる。

後期は、前期に学んだ概念や理論をもとに、実際にグループで簡単な調査をし、発表してもらう。過去の調査研究や、様々な調査方法等を説明しながら、授業時間も使って調査を進める。

【評価方法】

前期はテスト。後期は、グループ研究の成績によって評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

ことばの世界

山本雅子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日常生活において、ことばによるコミュニケーションは、言語的な意味だけでなく、社会的な意味においても行っている。

ことばによる社会的な意味のちがいを地域、社会的階層、性差、年齢などを軸にして考えてみたい。

【授業計画】

- 第1回 ウチとソト①
- 第2回 ウチとソト②
- 第3回 ことばと心的距離
- 第4回 職業とことば①
- 第5回 職業とことば②
- 第6回 性差とことば①
- 第7回 性差とことば②
- 第8回 世代差とことば①
- 第9回 世代差とことば②
- 第10回 名古屋方言と東京方言①
- 第11回 名古屋方言と東京方言②
- 第12回 ことばのはたらき

【評価方法】

出席状況・プレゼンテーション・レポートなどによる。

【テキスト】

身の回りの“日本語”。日常生活で見聞きする“日本語”に対してたえずアンテナをはっておくこと。

ビジネスの世界

藤井正志

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

21世紀を迎え、いわゆる日本型雇用システムや商慣習は崩壊しつつあるが、ビジネスの世界には、企業を維持・発展させるための企業の倫理や厳しい現実がある。企業での経験をふまえ、ビジネス世界の現実を講義する。

【授業計画】

- 第1講 社会人の心構え(組織人としての意識)
 - 第2講 〃 (組織内のコミュニケーション)
 - 第3講 〃 (海外でのビジネス)
 - 第4講 〃 (異文化とのコミュニケーション)
 - 第5講 主要業種の特徴(銀行・証券・保険)
 - 第6講 〃 (商社・マスコミ)
 - 第7講 〃 (製造業・公務員)
 - 第8講 〃 (シンクタンク他)
 - 第9講 経済金融用語・解説(日本版ビッグバン)
 - 第10講 〃 (グローバルスタンダード)
 - 第11講 〃 (コボレート・ガバナンス)
 - 第12講 〃 (デリバティブ)
- 経済金融用語・解説で取上げるテーマは、変更される場合があります。

【評価方法】

出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

ビジネスの世界

真田幸光

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

21世紀を迎え、いわゆる日本型雇用システムや商慣習は崩壊しつつあるが、ビジネスの世界には、企業を維持・発展させるための企業の倫理や厳しい現実がある。企業での経験をふまえ、ビジネス世界の現実を講義する。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示・オリエンテーション
- 第2回 「働く」ことの意義
- 第3回 日本経済概況
- 第4回 米国経済概況
- 第5回 欧州経済概況
- 第6回 アジア経済概況
- 第7回 国際金融ビジネス
- 第8回 国内金融ビジネス
- 第9回 商社ビジネス
- 第10回 製造業ビジネス
- 第11回 通信とビジネス
- 第12回 試験
- 第13回 試験解説

【評価方法】

単位認定試験の成績による。

【テキスト】

授業中に配布する。

メンタルヘルス

江口昇勇

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

今、子どもから大人まで多くの人が心を病んでいるといわれる。心の病は少年期や青年期特有のものもあれば、時代や社会的要因によるものもある。講義では臨床的事例にふれながらメンタルヘルスについて考える。

【授業計画】

- 1) 事例からこころの不思議と健康を考えること、事例の取り扱いについて。
- 2) 児童期のメンタルヘルス児童期の発達課題と精神病理
- 3) ヒステリー性失立失歩を呈した少年の事例から
- 4) 思春期のメンタルヘルス；思春期の発達課題、性衝動との出会いーグリム童話「かえるの王様」よりー
- 5) 箱庭療法により思春期危機を乗り越えた事例
- 6) 青年期におけるメンタルヘルス；同一性拡散の危機
- 7) 夢分析における同一性獲得の事例
- 8) 影の問題、影への気づきー自分の内なる黒い兄弟の存在、二重人格ー
- 9) 共依存の精神病理、虐待、いじめ、ダブルバインドの深層グリム童話「猫とねずみとおともだち」から
- 10) 女性性と母性性獲得の困難さーグレート・マザーとの直面化ー
- 11) 成人期のメンタルヘルス；自分を引き受けるということーガン告知を引き受けるまでー
- 12) 老年期のメンタルヘルス；「障害者元型と個性化ー自己実現の厳しい道ー」
- 13) まとめ

【評価方法】

レポート課題の成績で評価する。課題レポート以外にも講義に関するレポートやコメントを自発的に提出する受講生が毎年いるが、それらは積極的な受講の態度として評価し、内容のレベルが高いものは講義で紹介する。また受講態度の悪さは当然、成績評価に直結する。

【テキスト】

授業において、随時、資料を配布する。

【参考書籍】

なし。

メンタルヘルス

二宮 昭

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

今、子どもから大人まで多くの人が心を病んでいるといわれます。心の病は少年期や青年期特有のものもあれば、時代や社会的要因によるものもあります。臨床的事例にふれながらメンタルヘルスについて考えます。

【授業計画】

1. 健常と障害（正常と異常）ということについて
 - 1) 健常（正常）とは？ 障害（異常）とは？
 - 2) 「障害者」とは？
 - 3) 「障害者」の受け入れ
2. 「こころ」と「からだ」
 - 1) 世界を捉える場としての「からだ」
 - 2) 現代における「こころ」と「からだ」の問題－「からだ」から切り離されてしまった「こころ」
 - 3) 臨床心理学的視点からの「からだ」の捉え直し
3. 現代人とストレス
 - 1) ストレスとは？
 - 2) ストレスの処理－リラクゼーション

授業は通常の講義形式で行うが、場合によっては実際のリラクゼーションのやり方などの体験実習を行うこともある。

【評価方法】

出席状況およびレポートによる。

【テキスト】

使用しない。適時参考資料を配付する。

メンタルヘルス

西出隆紀

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

今、子どもから大人まで多くの人が心を病んでいるといわれます。心の病は少年期や青年期特有のものもあれば、時代や社会的要因によるものもあります。臨床的事例にふれながらメンタルヘルスについて考えます。

【授業計画】

- | | |
|----------|---|
| 第1回 | 心の正常と異常 |
| 第2～3回 | 心の発達と精神的健康 |
| 第4回 | 自分を見つける |
| 第5回～10回 | 青年期の心の問題
家族関係と不登校
食の病理－拒食と過食
思春期妄想症
対人恐怖
強迫神経症
パニック発作
感情の障害
精神分裂病 |
| 第11回～13回 | 心の援助・治療 |

【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可（コピーを持ち込んだ場合は失格）とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

【テキスト】

使用テキストなし。講義中に参考文献を紹介。

メンタルヘルス

古井 景

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

今、子どもから大人まで多くの人が心を病んでいるといわれます。心の病は少年期や青年期特有のものもあれば、時代や社会的要因によるものもあります。臨床的事例にふれながらメンタルヘルスについて考えます。

【授業計画】

資料配付により講義をすすめていきます。

力動精神医学の立場から、心の働き（自我機能）に目を向け、“心の健康と不健康”について学んでいきます。また、世界保健機関（WHO）の作成した疾病分類「ICD-10」第V章「精神および行動の障害」、および、アメリカ精神医学会の疾病分類「DSM-IV」を紹介し、これに力動精神医学的理解を加えていきます。

I. 精神力動

自我の構造モデルと自我機能・防衛機制

人格構造

情緒発達理論

II. 精神症状学

意識の障害

記憶の障害

幻覚・妄想

精神運動障害

III. ICD-10・DSM-IV

薬物依存障害

精神分裂病、分裂病様障害および妄想性障害

気分（感情）障害

不安障害、身体表現性障害、解離性障害

摂食障害

適応障害

人格障害

IV. その他

【評価方法】

学期末の試験、または、レポートによって判定します。

【テキスト】

使用せず、参考図書はその都度提示します。

暮らしの経済

森下允之

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

生活に密着した経済学の入門。特に今や経済社会もグローバル化しており、国際経済の流れや仕組みにもふれ、日常化している経済用語を解説する。

【授業計画】

第1講 国民所得統計

第2講 バブル崩壊と平成不況

第3講 財政の現状と課題

第4講 金融の基礎知識（銀行、金融市場）

第5講 同上（金融政策、金融自由化）

第6講 貿易と国際収支

第7講 為替相場

第8講 世界各国、地域の経済（アジア、中東）

第9講 同上（ヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカ）

第10講 アジア通貨危機

第11講 欧州統一通貨ユーロ

第12講 地域経済統合vsグローバリズム

第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、小テスト、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

教材はプリントを配布する。復習のためときどき「小テストを行う。

暮らしの経済

村上貴美子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

生活に密着した経済学の入門。特に今や経済社会もグローバル化しており、国際経済の流れや仕組みにもふれ、日常化している経済用語を解説する。

【授業計画】

- 第1回 最近の経済状況と用語解説
生活と経済の関わり
- 第2回 消費者の権利と意思決定
- 第3回 価値観と消費の多様化
- 第4回 生活をとりまく環境変化
- 第5回 本当の「豊かさ」とは何だろうか
- 第6回 「労働」と言う言葉はなぜキライですか
- 第7回 教育と経済
- 第8回 サービスとはタダ（無料）のことでしょか
- 第9回 余暇の為に働く
- 第10回 住宅とまちづくり
- 第11回 国際化と生活
- 第12回 未来を考える

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考書籍】

生活の経済学（井原哲夫著 東洋経済新報社）
賢い消費者—アメリカの消費者教育の教科書
（J.Gボニス、R.ボニスター共著 小林紀之・宮原佑弘
監訳 家政教育社）

外国の言語と文化 1

角田達朗

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国語の初歩を学ぶとともに中国の風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

近年、中国映画は国際的な賞を獲得する作品が続出し、注目を集めている。この授業では、中国映画の中から、主として現代小説を原作とする作品を、題材の年代順に鑑賞することによって、中国の近現代史についての理解を深めて行く。中国の近現代は、辛亥革命・抗日戦争・文化大革命などに象徴される動乱の時代であった。中国映画がこのような動乱の時代をいかに描いているかを、映像表現についての分析も織りまぜながら検証する。

同時に、映画の中の「生きた中国語」に触れることを通じて、中国語に親しみ、言語についての理解を深める契機としたい。

- 第1～2回 張芸謀『紅いコーリャン』
（原作 莫言『紅高粱一族』）
- 第3～4回 張芸謀『菊豆（チュイトウ）』
（原作 劉恒『菊豆』）
- 第5～6回 陳凱歌『黄色い大地』
（原作 柯蘭『深谷回声』）
- 第7～9回 謝晋『芙蓉鎮』
（原作 古華『芙蓉鎮』）
- 第10～11回 陳凱歌『子供たちの王様』
（原作 阿城『孩子王』）
- 第12～13回 孫周『心の香り』
（原作なし）

【評価方法】

レポート

*受講状況によっては、試験に変更することもある。

【テキスト】

なし。

*授業時に鑑賞する映画が、テキストに相当する。

【参考書籍】

随時紹介する。

外国の言語と文化 1

張 勤

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国語の初歩を学ぶとともに中国の風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 現代中国と現代中国語とは
中国語初歩コーナー：声をかけたいとき
- 第2回 中国語の方言と少数民族の言葉
中国語初歩コーナー：感謝をしたとき
- 第3回 中国語の挨拶
中国語初歩コーナー：何かを聞きたいとき
- 第4回 中国人の名前
中国語初歩コーナー：好きな気持ちを表したいとき
- 第5回 食べ物と中国語
中国語初歩コーナー：いやな気持ちを示したいとき
- 第6回 中国語の言葉遊び
中国語初歩コーナー：言い方が分からないとき
- 第7回 中国語と日本語の違い
中国語初歩コーナー：何かしてもらいたいとき
- 第8回 中国語の歴史
中国語初歩コーナー：何かさせてもらいたいとき
- 第9回 中国語の文学
中国語初歩コーナー：私はそう思わないよと言いたいとき
- 第10回 中国語の文字
中国語初歩コーナー：信じられない気持ちを表したいとき
- 第11回 中国語の外来語
中国語初歩コーナー：そうしようと提案したいとき
- 第12回 中国語の現実
中国語初歩コーナー：そうしたいと言いたいとき

【評価方法】

出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

講義中に指示する。

【参考書籍】

講義中に指示する。

外国の言語と文化 2

尹 大辰

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

韓国・朝鮮語の初歩を学ぶとともに、朝鮮半島の風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 訓民正音について
- 第2回 ハングルの文字と発音 (1)
- 第3回 ハングルの文字と発音 (2)
- 第4回 基本的な日常会話 (1)
- 第5回 基本的な日常会話 (2)
- 第6回 基本的な日常会話 (3)
- 第7回 言語と文化 (1) - 衣・食・住
- 第8回 言語と文化 (2) - 社会的構造
- 第9回 言語と文化 (3) - 漢字語比較
- 第10回 朝鮮半島の歴史と文化
- 第11回 朝鮮通信使の意義
- 第12回 まとめ-言語表現から見た文化比較

【評価方法】

期末試験とレポート、出席率を加味して評価する。

【テキスト】

ムクゲと桜-日韓異文化コミュニケーション- (窪田守弘著 銀河文庫)

韓国・朝鮮語の教材はプリントを用意する。

【参考書籍】

韓国 (金両基監修 新潮社)

韓国と日本の比較文化論 (金漢著 明石書店)

外国の言語と文化 3

杉本一直

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ロシア語の初歩を学ぶとともに、ロシアの風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

みなさん、知っていますか？日本の大学になかでロシア語を学ぶことができる場所は本当に少ないですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなかがすいたら…
- g. 自分について話してみよう

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

「パスポートロシア語辞典」(白水社)

外国の言語と文化 3

丹邊文彦

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ロシア語の初歩を学ぶとともに、ロシアの風土・歴史・文化について理解を深める。

1. ロシア語文字への習熟
2. ロシア語発音およびリズム感の養成
3. テキスト(本文)朗読の習慣づけ
4. ロシア民謡などの鑑賞により、風土・歴史・文化を理解させる

【授業計画】

(前期)

第1回 年間計画ガイダンス

第2~5回 下記教科書を使用してロシア語の初歩的文法、表現、語いを習得させる

第6回 筆記体

第7~12回 5回までの学習をさらに断続・発展させる
期末試験実施

(後期)

第1~7回 『ロシア語へのパスポート』(白水社) 終了

第8~12回 Potapova “Learning Russian”(絶版のためプリント使用)のテキストの講読、日常表現の暗誦

期末試験実施

【評価方法】

期末試験成績、日常点(ことに朗読を重視)、出席点の総合評価。

【テキスト】

(前期)『ロシア語へのパスポート』(白水社)

(後期)同上テキストの継続; “Learning Russian”の講読

【参考書籍】

東郷正延『ロシア語のすすめ』(講談社現代新書95)

外国の言語と文化4

藤井たぎる

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ドイツ語の初歩を学ぶとともに、ドイツの風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

ドイツ・オーストリアの生活文化とその言語。現代のドイツ・オーストリア事情の一端を紹介しながら、ドイツ・オーストリアのいろいろな「顔」を発見してもらう。具体的には下記のような日常的なテーマをもとに、ドイツ・オーストリアの事情を日本のそれと比較しながら、両者の類似性と差異をみてゆく。また初歩的なドイツ語会話の練習もあわせておこないたい。

- 1) ドイツ・オーストリアの風土
- 2) ドイツ・オーストリアの近現代史
- 3) ドイツ・オーストリアのマス・メディア
- 4) ドイツ・オーストリアの衣食住
- 5) ドイツ・オーストリアの消費生活
- 6) ドイツ・オーストリアの芸術文化

講義形式ではあるが、授業中にいろいろ意見を求め、各自の考えるところを発言してもらう。必要に応じてプリントを配布する。

【評価方法】

筆記試験。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

外国の言語と文化5

清水ベアトリックス

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ヨーロッパ文明の発祥の国フランスについての理解を深めることはヨーロッパ文化を理解するうえで重要である。フランス語とフランス文化の概要を学ぶことにより、フランスへの関心と理解への動機づけとしたい。

前期

このコースは、受講者の興味を考慮に入れ授業内容を考えたい。現代フランス社会と日常使用されているフランス語を学ぶとともに、担当講師（フランス人）の在日体験談を交え、フランス・日本両国を言語・文化の面から比較検討する。

とにかく、下記のテーマで行う。

- フランスの地理
- フランスの建国
- フランス国民の起源
- フランスの社会問題
- フランスの家族
- 教育制度
- フランスとヨーロッパ
- フランス人と余暇など。

後期

前期と同じ。

【授業計画】

毎回、担当教員が指定したテキストの章について議論し、テレビや新聞で報道されたフランスに関する時事問題の中で特に学生の関心を引くようなものを選んで、解説したい。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題（テキストや映画についての感想文）、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

変貌するフランス（西永良成 日本放送出版協会）

外国の言語と文化 6

木下 登

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

スペイン語の初歩を学ぶとともに、スペインの風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペインの歴史と文化の特色
3. スペイン語を学びましょう
4. アルファベット、音節、アクセント
5. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
6. 人称代名詞、serとestar動詞、hay
7. 否定文、疑問文、関係詞、感嘆文
8. 形容詞（性数の一致）、指示形容詞、所有形容詞
9. 動詞（直説法現在）
10. 再帰動詞
11. 動詞（直説法現在完了）、過去分詞と現在分詞
12. 動詞（直説法過去：点過去と線過去）
13. 動詞（直説法未来と過去未来）
14. 動詞（直説法大過去）
15. 動詞（命令法）、無人称文
16. まとめ

【評価方法】

筆記試験に出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示します。

文章表現論

加藤孝男

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

「自分にしか書けないことを誰にもわかるように書く」ことを目標にして、文章表現に必要な基本的事項を実践例をふまえながら学習する。

【授業計画】

- | | |
|-------|----------|
| 第1講 | はじめに |
| 2～3 | 日記について |
| 4～6 | 名文を読む |
| 7～8 | 表現のレトリック |
| 9～10 | 芸術的表現の手法 |
| 11～12 | 表現の実践 |
| 13～14 | まとめ |

【評価方法】

試験と提出物（表現の実践）との両方で評価します。また、出席・平常点も重視。

【テキスト】

第一回目の講義で指示します。

文章表現論

青木 健

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

「自分にしか書けないことを誰にもわかるように書く」ことを目標にして、文章表現に必要な基本的事項を実践例をふまえながら学習する。

【授業計画】

第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現Ⅰ)

第2回 現実という言葉の織物である。(伝達と表現Ⅱ)

第3回～6回

例文をテキストに、文章の構成、話法、リズム、形容など具体的に講義。

第7回～12回

課題を3回提出し、短文(2～5枚、400字詰)を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

当方にて用意します。参考書籍は授業中に数冊指示します。

比較文化

文 嬉眞

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

世界にはさまざまな国家や民族があり、多様な文化が存在する。文化人類学的な見地から外国の文化や伝統・風俗を学ぶ。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人(見る側)が日本という異文化(見られる側の文化)と直接接触した際、どのように評価(表現方法)・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人(見る側)がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人(見る側)が「異文化」(見られる側の文化)を見るまなざしに関して考察することによって、自文化(見る側の文化)を再認識するだろう。

1. 異文化(異民族)との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人(見る側)における「日本認識」および外国人(見る側)がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人(見る側)における「日本認識」および外国人(見る側)がもつ「文化」に関する考察

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考書籍】

授業中に指示する。

比較文化

田所光男

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

世界にはさまざまな国家や民族があり、多様な文化が存在する。文化人類学的な見地から外国の文化や伝統・風俗を学ぶ。

【授業計画】

ワインとか料理、香水にモード、もう少しアカデミック(?)にルーブルとかオルセー...皆さんのフランス・イメージはどうでしょうか。この授業では、異文化・異民族との関係の中にあるフランスを眺めて行きます。恐らくこれまでのフランス・イメージとはかなり違うフランスの姿にぶつかることになると思います。フランスを少し再発見してみる、ことができるのではないのでしょうか。また、フランスばかりではなく、現代世界に生じている様々な文化摩擦・民族衝突の問題を理解して行くために必要な、いくらかの知的枠組みを自分の中に取り入れることも可能だと思います。

具体的には、まず、異文化・異民族の接触・交渉・衝突についての概論を行います(5回)。次に、フランスの内部にある異文化接触の問題として、ユダヤ人、特に、ジェノサイド以降の、戦後生まれの世代の動向に注目します(4回)。最後に、フランス人による非ヨーロッパ世界の表象を検討します。特に、南太平洋のタヒチを取り上げる予定です(4回)。

こうした検討を通して、同化、植民地化、移民、ヨーロッパ中心主義、反ヨーロッパ主義、文化相対主義、普遍主義、差異への権利、多文化主義など、様々な問題を考えて行きます。

【評価方法】

授業への積極的な参加、及びレポート(大小二回を予定しています)。

【テキスト】

異文化への視線(佐々木英昭編著 名古屋大学出版会)
その他、適宜プリントを配布します。

現代芸術 1

天野節子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「書道」の意義と意味を問い、名筆の鑑賞と書写の実技をする。

【授業計画】

第1回 年間の授業計画として使用する教本の鑑賞の方法を説明する。

第2回～10回
書写の重要なポイントの説明をしながら実技をする。一人一人について添作指導をする。

第11回～最終回
課題に有名な作家又は詩人等の美しい文章等を各自に表現をして作品を作成させる。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

ベン字テキスト・基本編・実務編・応用編(氏田菖軒著 書道教育社)

現代芸術 1

森美恵子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「書道」の意義と意味を問い、名筆の鑑賞と書写の実技をする。

【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。

仮名は、若菜帖の全臨にて習得する。

書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

【テキスト】

書の鑑賞と学び方（上田桑鳩 教育図書研究会）

若菜帖（鳩居堂）

現代芸術 1

小川晃治

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「書道」の意義と意味を問い、名筆の鑑賞と書写の実技をする。

各時代に於ける日本の書美の変相を、他の美術と文学と対比、関連させて探求させる。そして現代社会の中にあつて、書のあり方、価値感を考察し、また生活の中に於ける書文化の諸相を観る。漢字から「かな」を創造した日本人の美意識を追求する。

○他の美術、文学を対比して、書の美学を学ぶ。

○基本的書技を実習する。楷、行、草、篆、隸書、かなの六体を実習する。

○日本の三筆、三蹟の古筆の鑑賞、臨書をする。

○基本的なかなの実技と、古筆を鑑賞する。

○漢字の細字の実技の実習をする。王羲之の蘭亭叙を臨書させる。

○和漢の書道史を通じ、書の美の概要を学ぶ。

○奈良、平安時代の文学、書に於ける、漢字の意義、かなの創成、大成を通じ、上代文化の成立を学ぶ。

○鎌倉時代に於ける禅文化を墨跡にふれ、貴族文化と武家文化の対比をさせる。

○室町、桃山時代の絵画、建築、工芸と書芸の動向を観る。また現代社会に於ける美の淵源を探る。

○江戸時代に於ける庶民文化隆盛の中の美と、和様、唐様の書の諸相を学ぶ。

○現代社会に於ける、文字、書文化の社会生活の中での意義を考えさせる。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

【評価方法】

レポート三種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

現代芸術 2

志水博子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「音楽」の意義と意味を問い、名曲を鑑賞し、歌唱をする。

【授業計画】

- 第1回 世界の名演奏家によるオペラのビデオ鑑賞
- 第2回 声の出るしくみ 講義と演習
- 第3回 やさしい曲で楽しくハーモニー演習
- 第4回 外国の歌曲を原語でうたう
- 第5回 名演奏家の演奏をビデオ鑑賞
- 第6回 名演奏家の演奏をビデオ鑑賞
- 第7回 実技演奏発表のリハーサル
- 第8回 (選曲や演奏法のアドバイス)
- 第9回 混声合唱練習
- 第10回 混声合唱練習
- 第11回 演奏会形式による実技発表
- 第12回 演奏会形式による実技発表

【評価方法】

出席状況、実技演奏—各自の得意とする楽器又は歌唱例、独唱、アンサンブル、連弾、カラオケ等。

【テキスト】

プリント配布。

現代芸術 2

浅田まり子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「音楽」の意義と意味を問い、名曲を鑑賞し、歌唱をする。

【授業計画】

- 第1講～第4講
 - a. 音や曲の聴き分けや効用について
 - b. 発声のしくみと呼吸法
 - c. 音楽理論を活用して読譜し、歌詞の言葉やフレーズを考えながらユニゾンで歌唱
- 第5講～第8講
 - a. リズムの把握と音によるイメージトレーニング
 - b. 腹筋のトレーニング
 - c. 和声、形式などを理解しながら合唱し、グループレッスン
- 第9講～第12講
 - a. 名曲の歴史的背景からの解釈と表現
 - b. 声を楽器として育てるトレーニング
 - c. 表現の工夫や創作をして個人またはグループで演奏を発表(楽器を含む)

毎回、それぞれの講義では、鑑賞、発声、歌唱に重点をおいて進めていく。

【評価方法】

実技、課題レポート、出席状況などで評価。

【テキスト】

MUSIK (浅田まり子編 カワイ出版)

現代芸術 3

横山万里

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「美術」の意義と意味を問い、名画を鑑賞し、作品を作る。

【授業計画】

国宝に指定されている古い絵画あるいは日本の伝統的な絵巻のなかから鳥獣人物戯画をとりあげて日本画の表現、色彩方法を講義する。

また、授業の中で名古屋市内の美術館を訪問し、古画現代画にふれる。

- ・日本画の特徴
- ・鳥獣人物戯画の説明
- ・鳥獣人物戯画における線の強弱と動き
- ・日本画の模写について
- ・日本画の鑑賞

博物館入場料 600円程

美術館入場料 500円程

筆ペン 500円

費用 計 1,600円程度

【評価方法】

出席状況と感想文レポート（6回提出）を総合的に評価。

【テキスト】

日本の絵巻6「鳥獣人物戯画」
コピーした図を見る。

【参考書籍】

なし。

現代芸術 3

川口 果

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「美術」の意義と意味を問い、名画を鑑賞し、作品を作る。特に現代美術には様々な分野がある。絵画・彫刻・工芸・デザイン・書・鑑賞のほかに、最近では映像・コンピューター・建築・環境・都市計画などまでも美術の分野として考えられるようになった。

本講ではそれらの造形美術の概観、実技（課題制作）を通して基礎的な絵画表現・工芸表現・デザイン表現などの創造的能力を養う。（テキストは使用せず。）

〈前期〉

●課題1. 紙による立体造形

われわれの身のまわりには様々な素材があるが、その中でも一番身近で何気なく使っている「紙」から立体造形作品をつくる。

●課題2. 直定規とコンパスを使った平面構成

単紙な構成道具である「直定規とコンパス」を使って画面を平面構成する。

〈後期〉

●課題1. 風景写生

キャンパス内の建物および植物などを、忠実に写生する。

●課題2. 切絵からパズルへ

幾何学的な基本形態である、正方形、長方形、正三角形、円の色紙を直線または曲線で切り、各部品を再構成することによって、具象的な形態をつくる。

●課題3. 一切文字

正方形の紙を何回折ってもよいが、一回だけ直線で切る。（その直線に並行にある幅を持たせて切る。）それを広げるとアルファベット、数字、カタカナの全部および漢字の一部ができる。

【授業計画】

各週とも机間巡視・プロセスのチェックにより、個別に指導・助言をする。

【評価方法】

各課題の制作過程・成果、出席、受講態度等により総合して評価する。

女性学・男性学

伊藤公雄

集中 1~4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代日本社会におけるジェンダー問題について、おもに男性学の視点から考察を加える。

はじめに ジェンダー論入門

1. 女性問題の発展
2. 現代日本の女性問題
3. 男性問題の時代
4. 作られる「男らしさ」「女らしさ」
5. 体験的主夫論／働く主夫の生活と意見
6. ニッポンのお父さん／男性の育児をめぐる
7. 男性学と男性運動の展開
8. 試験

<参考図書> 伊藤公雄・牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社）

【授業計画】

講義を中心に、ビデオ教材なども使用しつつ進める予定である。

【評価方法】

試験によって成績評価を行う。

【テキスト】

男性学入門（伊藤公雄 作品社 1,680円）

女性学・男性学

伊田久美子

集中 1~4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

「フェミニスト」といえば、かつての日本では「女にやさしい男」のことだと思われていたが、今日では「男を敵視する怖い女」というパターン化された偏見のイメージがつきまとっている。この講義では多様に発展し、ゆたかな可能性を持つフェミニズムの実像を概観し、今日の私たちにとって身近な諸問題に触れながら、フェミニズムの意義を明らかにしたい。

フェミニズムの起源

リベラル・フェミニズム

社会主義女性解放論

ラディカル・フェミニズム

マルクス主義フェミニズム

家事労働論

エコロジカル・フェミニズム

その他の様々なフェミニズム

国連を中心とする女性問題への取組とフェミニズム

開発と女性問題

女性の人権

日本のフェミニズム

【授業計画】

毎回配布するプリント等により講義、解説する。ビデオ教材を随時使用する。

【評価方法】

最終授業時の筆記試験により評価する。

【テキスト】

フェミニズム入門（大越愛子 ちくま新書）

【参考書籍】

ワードマップ・フェミニズム（江原由美子、金井淑子編 新曜社）

女性学・男性学

井深淳子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

本授業を通して、私達の生活を、女性学・男性学から点検し、そこに「どういう困難があり、どういう課題があるのかを具体的に知ること」をめざす。

【授業計画】

- 第1回 はじめに
- 第2～4回 家族問題
- 第5～7回 女性が働き続けることについて
- 第8～10回 子育て
- 第11～13回 現代の病巣

【評価方法】

期末試験、講義時に行う課題や、受講態度等、総合的に評価する。

【テキスト】

学んでみたい女性学（中田照子他著 ミネルヴァ書房）
テキストとともに、講義中に適宜配布する関連資料を用いてすすめる。

エコロジー

大島光昭

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

今や地球規模で自然の環境破壊が進んでいる。自然を保護し、環境を守る観点から地球のエコロジーを考える。

エコロジーとは、生物とそれをとりまく外界すなわち環境との関係についての総合科学である。生物の生存は均衡のとれた有機的および無機的環境の上に成り立っており、均衡の崩壊は人類を含む生物界の未来を危うくする。人類の生活および生産活動はこれらの均衡を乱して多くの生物の生存を脅かしつつあり、地球の未来にさまざまな問題を投げかけている。それらの状況について解説するとともに、今後どうあるべきかについて問題提起を行う。

【授業計画】

- 地球環境と生物
 - 生態学的遷移と地質学的遷移
 - 物質の循環
 - 進化と適応
 - 生物の繁殖戦略
- 自然環境の保護と育成
 - 陸地環境
 - 水域環境
 - 流域圏環境
- 化石燃料と環境
 - 地球の温暖化
 - 酸性雨
 - 光化学オキシダント
 - 浮遊粉塵
- 化学物質と環境
 - オゾン層の破壊
 - 生物濃縮と生態系の攪乱
 - ヒトの健康被害

【評価方法】

出席状況と試験成績をもとに評価する。

【参考書籍】

環境白書（環境庁編）

伝統文化

林 和利

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

国際化が進み、さまざまな異文化にふれる機会も多くなったが、日本の伝統文化にも目を向けることが大切だ。伝統文化の中でも芸能・演劇を中心に講義する。舞楽・能・狂言・歌舞伎・文楽など、実際の舞台をビデオ等で確認しつつ、その歴史や演技・作品などについて講じる。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示。
2. 日本芸能演劇史概説。
3. 芸能の発生について
4. 神楽について
5. 舞楽について
6. 能について
7. 狂言について
8. 歌舞伎について
9. 文楽について

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

アジアの生活と文化

楊 衛平

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本は生活も文化もアジアの影響を強く受けている。特に日本と歴史的にも関係の深い近隣の国を中心にアジアの生活と文化を講義する。

【授業計画】

1. 中国の少数民族の構成
2. 仏教と道教の相異
3. 中国の年中行事
4. 南北食文化の比較
5. 中医学と西洋医学
6. 気の文化（気功）
7. 飲茶の文化と歴史
8. 伝統武術と健康
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の姓の色々
12. 中国の名勝物語
13. 中国人と日本人の考え方の相異

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布。

生命の科学

富田 武

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

動物の生命の誕生、生体を構成する物質や生殖と遺伝の仕組みなど、動物の生命の維持のメカニズムについて学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 生命の科学序説
- 第2講 生命誕生と進化
- 第3講 動物細胞の分化
- 第4講 動物体を構成する物質
- 第5講 動物の生殖と発生
- 第6講 動物の遺伝（1）
- 第7講 動物の遺伝（2）
- 第8講 動物の生命維持（1）
- 第9講 動物の生命維持（2）
- 第10講 脳の進化、成長、老化
- 第11講 動物の生殖現象操作
- 第12講 動物の遺伝現象操作
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験で総合的に評価する。

【参考書籍】

生命科学への誘い（大島泰郎他編 東京化学同人）
生物小事典（丘英通、岩波洋造監修 三省堂）

食品の科学

千葉善根

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学との関わり、食品のもつ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や化学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業計画】

1. 現代食生活の問題点
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化食品。
5. 無機質と食品
骨粗鬆症等。
6. ビタミン
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品
食品と酵素・微生物との関係。

【評価方法】

定期試験にて評価。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

生活の化学

八代 有

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

健康で豊かな生活を維持していくには、化学の知識と活用は必要不可欠からざるものである。身近な生活に必要な化学の知識と関係について事例をあげて学ぶ。

【授業計画】

1. 栄養のバランスと健康増進を考える
2. 食品成分の化学と食品の安全性
3. ビタミンの化学的性質と病気のしくみ
4. 生活習慣の改善と疾病予防
5. 薬についての正しい認識
6. 薬が生体に影響を与える因子
7. 尿はからだの健康情報源
8. 食べ物および体内における酵素の働き
9. 話題となった環境公害
10. 生活のなかでの不思議

【評価方法】

テストおよび出席状況により総合的に判定する。

【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布する。

生き物の世界 1

服部 一三

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

地球上には多種多様な植物が生存しているが、これらの植物は食物連鎖の基本を成すものである。植物の生物界における位置付けや植物の成育地について紹介し、植物と人間との関わりについて認識を深める。

【授業計画】

- | | |
|---------|-------------------------------|
| 第1回 | 1. 生物界の分類 |
| | 2. 生物の進化 |
| 第2-6回 | 3. 植物と人の関わり |
| | 1) 農耕の始まり |
| | 2) 世界の農耕文化 |
| | 3) 日本農耕文化の起源と発展 |
| | 4. 人が手を加えた植物-作物 |
| | 1) 作物とは? |
| | 2) 世界の作物の起源 |
| 第7-8回 | 5. 作物改良の原理と方法 |
| | 1) 作物改良の原理 |
| | (1) メンデルの法則-遺伝学 |
| | (2) 遺伝の物質的基礎 |
| 第9回 | 2) 作物の改良方法 |
| 第10回 | |
| 第11-12回 | 6. バイオテクノロジー |
| | 1) バイオテクノロジーとは? |
| | 2) 作物の改良とバイオテクノロジー |
| | (1) 細胞・組織培養 |
| | (2) 遺伝子操作 |
| | (3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか? |
| | (1) 倫理 |
| | (2) 安全性 |

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考書籍】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。

平田豊著『生物的自然と人間』開成出版

生き物の世界 2

石崎宏矩

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

身近に見られる昆虫や鳥などの生態のメカニズムを解説し、生命の進化について学び、動物への関心といたわりを深めたい。

【授業計画】

次のような項目について講義する。○カイコはどうしてクワシか食べないのか○モンシロチョウの雄はどのようにして雌を見分けるか○生物がもっている時計（生物時計）とはどういうものか、時差ボケはどうして起こるか○モンシロチョウの蛹はどのようにして寒い冬をのりこえるか○アヒルのひなは生まれて初めて見た生き物を親として認識し、終生変わらない（刷り込み）。刷り込みの起こる機構は？○生命が地球上に生まれてから40億年、さまざまな生物はどのようにして進化してきたのか、DNAの性質、遺伝子の突然変異、自然淘汰とは。

他に、NHKスペシャル「生命-40億年はるかな旅」他のVTRを放映し、解説を加える。

全体として、生物の進化、近未来における地球上の生命-人間を含めて-の危機について、正しく理解してもらえるようにつとめる。

【評価方法】

出欠、レポート、期末試験によって総合評価する。欠席した時は、友人のノートを書かせてもらって、内容を理解しておくこと。試験問題が、たまたま欠席した日の授業内容だったからといって白紙であれば、特に区別はしない。

【テキスト】

なし。

【参考書籍】

随時、授業で指示する。図書館に備えつけてあるので、自主的に勉強してほしい。

人類と宇宙

安野志津子

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえて、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業計画】

ー地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるためにー

1. 宇宙モデルの変遷
2. 太陽系を探る
3. 星の世界
4. 銀河から宇宙へ
5. 宇宙の歴史と進化
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】

基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】

使用しない。

【参考書籍】

- (1) 宇宙論のすべて 池内 了（新書館）
- (2) 図解雑学 天文学 二間瀬敏史（ナツメ社）
- (3) 星と宇宙の物理学読本 並木雅俊（丸善）
- (4) 図解 SPACE ATLAS 宇宙のすべてがわかる本 三品隆司・河島信樹（PHP）
- (5) 見えてきた宇宙の神秘 野本陽代（草思社）
- (6) 太陽 ーその素顔と地球環境との関わりー ケネス.R.ラング著 渡辺 堯/桜井邦朋訳（シュプリンガー・フェアラー東京）
- (7) 理科年表 国立天文台編（丸善）

数学の世界

仁科浩二郎

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

我々は日常、知らず知らず近代数学の成果を利用している。ここでは初歩的、あるいは基本的な数学の各手法を解説して概念を理解させたあと、各手法について応用例を挙げて、改めてこれらの恩恵を実感する。例としては、計算機における2進法の利用、極限值、微分の概念、対数の利用、保険計算における確率などがある。

【授業計画】

第1回 当講義の目的と計画の提示

第2～11回

以下の各項目に1～2回をかけて解説し、実際に例題を解く。

第12回 まとめ

いろいろな単位と換算

2進法とその利点

グラフの利用

極限値の精神

微分という操作

文字と式の活用

確率

対数を使う利点

平均の手順

【評価方法】

毎回、小プリントを配布して当日の課題を提示し、解説によって授業の最後に答を提出できるようにする。

【テキスト】

プリントを毎回配る。

生命の倫理

加藤太喜子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代の医学の進歩と発達によって今や人間の生命の誕生も医学よりも倫理の問題になった。現代社会が抱えている「生命」を倫理や哲学の面から考察する。この「誕生」という場面では、人工生殖技術にまつわる倫理的問題から人工妊娠中絶にまつわる倫理的問題まで、様々な問題が広がっている。代理母・出生前診断といった技術を通して、私たちが本当に考えるべきは何かを共に探って行きたい。

【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1. オリエンテーション
2. 人工授精
3. 体外受精
4. 代理母
5. 人工妊娠中絶
6. 出生前診断
7. 優生思想とは
8. よりよい自己決定権へ
9. まとめ

【評価方法】

授業への積極的参加を重視し、レポートを課す。

【テキスト】

なし。適宜資料を配布する。

【参考書籍】

『生命誕生をめぐるバイオエシックス』（金城清子著 日本評論社）

『生命観を問いなおす』（森岡正博著 ちくま新書）

『出生前診断』（佐藤孝道著 有斐閣選書1634）

『死の選択』（森下直貴著 窓社）

健康と医学

阪 正和

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本はますます高齢化社会に入り、人生80年の時代になった。しかし、長生きするための健康は自分で管理し、自立自助によって初めて達成される。健康を保ち、命を守り育てるにはどうすればよいか。医学の立場から、病気と健康について講義する。

【授業計画】

出生前からの健康をめざして

- 1) 健康とは何か
健康の定義 健康管理 生命の尊さ
- 2) 母と子の絆
母子相互作用 児童虐待
- 3) 子どもの心と身体
子どもの特徴 発育・発達 しつけ（基本的生活習慣）
- 4) 女性の健康
思春期への対応 ビル 更年期
- 5) 生活習慣病（成人病）とは
その予防は幼児期から KYB運動
- 6) アレルギーの話
アレルギーと免疫 アレルギー病（気管支喘息など）
- 7) 食物と健康
母乳と人工乳 離乳 幼児食 食中毒
- 8) 歯の健康
歯の生理 虫歯と歯周病 高齢者と歯
- 9) 嗜好品と健康
アルコール タバコ
- 10) セクシュアリティに関わる問題
性感染症（クラミジア感染症・B型肝炎）性教育
- 11) 高齢社会の健康問題
ライフスタイルへの介入 介護 死を考える
- 12) インフォームド・コンセントとは
3大要素 ムンテラとの違い 診療情報の提供

【評価方法】

主に筆記試験によるが、時々講義の感想を提出させ評価の参考にする。

【テキスト】

健康と保健の科学（坂口他著 日本小児医事出版社）

健康とくすり

永井慎一

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため薬品の助けがなければ健康の維持が難しい。薬品についての正しい知識を学び、薬品への依存性や副作用について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 受講生に「病気とくすりについて、今最も知りたいこと」をアンケート調査後、くすりとは何か、創薬の歴史から新薬開発まで解説
- 第2～3回 くすりの基礎知識について、くすりのしくみと生体内運命、くすりの効くメカニズムと受容体など2回にわたり解説
- 第4回 くすりの正しい知識をイラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
- 第5～6回 常用される一般用医薬品（OTC）500種と医師がよく処方する医療用医薬品200種を薬効別に解説
- 第7回 頭痛、生理痛の原因と治療薬のメカニズム
- 第8回 受講生の多くが苦しむアトピー性皮膚炎や花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
- 第9回 病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法
- 第10～13回 検診で見つかる生活習慣病を中心に、高血圧、ガン、糖尿病、エイズなどの発症原因、予防法と現在開発中の治療薬を含めた治療薬の作用機作

【評価方法】

配布したプリントからテーマを出題し、レポートの内容で成績評価する。

【テキスト】

家庭でも保存、利用できるようなA3大の両面プリントを毎回配布し（21枚）、講義する。

ライフサイクルと健康

松田秀子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルに合わせた運動と健康の維持について身近な問題をとりあげて講義する。

【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション（理想と現実）
4. 身体意識
5. 肥満とやせ
6. 隠れ肥満
7. 体脂肪
8. 体脂肪を正しく落とす方法
9. 筋肉と運動神経
10. 健康づくりのための運動
11. Walking
12. 学生の性意識
13. 性意識と性行動
14. 性への理解（避妊法）
15. 人間と性

【評価方法】

出席状況とレポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

スポーツ基礎

杉山 和 山本啓子 松田秀子 寺田邦昭 門間 博

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

各種スポーツ（テニス、ゴルフ、バドミントン）をはじめ、ストレッチ体操、トレーニングなどの運動の基礎技術を習得することを目標として行う。

【授業計画】

曜日	限	担当者	種 目	
月	2	杉山	テニス	バドミントン
	3	寺田	バドミントン	ゴルフ
		杉山	テニス	バドミントン
	4	寺田	バドミントン	ゴルフ
火	1	松田	テニス	ゴルフ
	2	松田	テニス	ゴルフ
	3	山本	卓球	バレーボール
		松田	バドミントン	ゴルフ
4	山本	卓球	バレーボール	
水	2	門間	バドミントン	テニス
	3	門間	バドミントン	テニス
		山本	卓球	バレーボール
	4	門間	バドミントン	テニス
		山本	卓球	バレーボール
	木	2	杉山	テニス
3		門間	ソフトボール	テニス
4		門間	ソフトボール	テニス
金	2	杉山	テニス	バドミントン
	3	杉山	テニス	バレーボール
	4	杉山	テニス	バレーボール

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・原則として、半期間に2種目を行います。（天候によって種目を変更する場合があります。）
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

【評価方法】

70点－（欠席回数×2／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

杉山 和

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。また、スクーバダイビング、スキーなどのシーズンスポーツを集中授業として行う。

【授業計画】

曜日	限	種目	
月	2	ゴルフ	・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
	3	ゴルフ	
木	2	ゴルフ	・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
金	2	バレーボール	
	3	バドミントン	
	4	バドミントン	

[ゴルフ]

1. ガイダンス
2. グリップ、スタンス、アドレス
- 3～6. アイアン練習 (ショート・ミドルアイアン)
- 7～8. ウッド練習 (1、3ウッド)
9. 学外のゴルフ練習場にて練習
- 10～12. PW、SW、パッティング練習
- 13～14. ショートコース (グラウンドにて)
15. 学外のゴルフ練習場にて練習

[バレーボール]

1. ガイダンス
2. ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
3. サーブの種類と打ち方
- 4～6. パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム

[バドミントン]

1. ガイダンス
- 2～3. 歴史的ゲームの追体験、ラケットワーク
4. ストローク練習 (アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習 (サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習 (オーバーヘッドを中心に)
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－(欠席回数×2÷授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

杉山 和

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

〈スキー・集中〉

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。また、スクーバダイビング、スキーなどのシーズンスポーツを集中授業として行う。

【授業計画】

【内容】

1. 期日

実習 平成13年2月25日(日)～3月1日(木)
4泊5日の予定

第1回説明会 平成12年11月1日(水) 5限目

第2回説明会 平成13年1月10日(水) 5限目

2. 場所 長野県 信州菅平高原スキー場

3. 宿泊所 福美津屋旅館

4. 実習費 約40,000円

(宿泊費・交通費・食事代・保険料・雑費)

5. その他の費用

リフト券代 約12,000円 (レベルによって異なる)

レンタルスキー (板、ブーツ、ストック) 6,500円

レンタルウェア 4,000円

小物 (帽子、手袋、ゴーグル) 1,500円

6. 定員 約40名

7. オプション企画 (1日体験)

スノーボード (レンタル、講習費) 6,000円

ヘリスキー (ヘリコプターの搭乗費) 5,500円

スキー検定 (検定料) 3,000円

*定員に大きく満たない場合は中止になります。

*実習費及びその他の費用に関する料金は、11年度のものであります、変更になる場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。
2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

スポーツ応用

杉山 和

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

〈スクーバダイビング・集中〉

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。また、スクーバダイビング、スキーなどのシーズンスポーツを集中授業として行う。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

プール実習 平成12年 8月24日(木)～30日(水)

海洋実習 平成12年 9月4日(月)～7日(木)
3泊4日

第1回説明会 平成12年 5月24日(水) 5限目

第2回説明会 平成12年 7月22日(土)午前中

2. 場所

プール実習 ロコダイバーズ 室内プール(一社)

海洋実習 沖縄県 伊江島

3. 諸経費

実習費 約50,000円(講習費、テキスト代、申請料)

用具代 約50,000円(重器材レンタル代、個人器材)

海洋実習費 約40,000円(交通費、宿泊費)

その他 約30,000円(ウェットスーツ)希望者のみ

4. 定員 約20名

*諸経費については、11年度のものでありますので変更になる場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

スポーツ応用

杉山 和

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

〈ボウリング・集中〉

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。また、スクーバダイビング、スキーなどのシーズンスポーツを集中授業として行う。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

実習 平成12年 8月17日(木)・18日(金)・

19日(土)・21日(月)・

22日(火)・23日(水)

計6日間 午前のみ

第1回説明会 平成12年 5月24日(水) 5限目

第2回説明会 平成12年 7月5日(水) 5限目

2. 場所 星が丘ボウル

3. 実習費 約7,000円

4. 募集人数 約40名

*最終説明会にて、現金で徴収します。

*実習費に関しては、11年度のものでありますので変更する場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

スポーツ応用

山本啓子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。また、スクーバダイビング、スキーなどのシーズンスポーツを集中授業として行う。

【授業計画】

曜日	限	種目
火	3	バドミントン
	4	バドミントン
水	3	バドミントン
	4	バドミントン

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験
3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数×2／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

松田秀子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。また、スクーバダイビング、スキーなどのシーズンスポーツを集中授業として行う。

【授業計画】

曜日	限	種目
火	1	バドミントン
	2	バドミントン
	3	テニス

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験
3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

[テニス]

1. ガイダンス
2. ボールとラケットに慣れる
3. グランドストローク（フォアハンドを中心に）
4. グランドストローク（バックハンドを中心に）
5. サービス、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数×2／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

松田秀子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

〈スケート・集中〉

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。また、スクーバダイビング、スキーなどのシーズンスポーツを集中授業として行う。

【授業計画】

〈内容〉

1. 期日 (実習)

実習 平成13年2月8日(木)・9日(金)・
10日(土)・13日(火)・
14日(水)・15日(木)

6日間 午前のみ

第1回説明会 平成12年11月1日(水) 5限目

第2回説明会 平成13年1月10日(水) 5限目

2. 場所 名古屋スポーツセンター (大須)

3. 実習費 約7,200円

4. 定員 約40名

*最終説明会にて、現金徴収します。

*実習費に関しては、11年度のものでありますので変更する場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

スポーツ応用

松田秀子

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

〈マリンスポーツ・集中〉

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。また、スクーバダイビング、スキーなどのシーズンスポーツを集中授業として行う。

【授業計画】

〈内容〉

1. 期日

実習 平成12年8月7日(月)～10日(木)
3泊4日

第1回説明会 平成12年5月24日(水) 5限目

第2回説明会 平成12年7月5日(水) 5限目

2. 場所 ヤマハマリーナ浜名湖 静岡県

3. 実習種目

ウェイクボード、ボードセーリング、
セーリングクルザー等

4. 実習費 約74,000円

5. 定員 約20名

*履修決定後、銀行振込にて徴収します。

*実習費に関しては、11年度のものでありますので変更する場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

スポーツ応用

寺田邦昭

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。また、スクーバダイビング、スキーなどのシーズンスポーツを集中授業として行う。

【授業計画】

曜日	限	種目
月	3	テニス
	4	テニス

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[テニス]

1. ガイダンス
2. ボールとラケットに慣れる
3. グランドストローク（フォアハンドを中心に）
4. グランドストローク（バックハンドを中心に）
5. サービス、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数×2／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

門間博

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。また、スクーバダイビング、スキーなどのシーズンスポーツを集中授業として行う。

【授業計画】

曜日	限	種目
水	2	ソフトボール
	3	サッカー
	4	サッカー
木	2	バドミントン
	4	バドミントン

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[ソフトボール]

1. ガイダンス
2. キャッチボールの基本、練習、ゲーム
- 3～5. バッティングの基本、練習、ゲーム
- 6～8. 守備の基本、練習、ゲーム
- 9～11. リーグ戦 1
- 12～15. リーグ戦 2、まとめ（記録整理・レポート）

[サッカー]

1. ガイダンス
2. 個人技能の確認
- 3～5. ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
- 6～7. 個人技能をもとにチーム編成をし、ミニゲーム
- 8～10. ミニゲームのリーグ戦
- 11～15. リーグ戦、まとめ（記録整理・レポート）

[バドミントン]

1. ガイダンス
- 2～4. 各種ストローク、各種フライト、サービス練習
- 5～7. シングルス、ダブルスの試合方法の理解
- 8～11. シングルス、ダブルスの戦術の理解と練習
- 12～15. リーグ戦、まとめ（記録整理・レポート）

【評価方法】

70点－（欠席回数×2／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ文化論

勝部篤美

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的・社会的事実から論証し、さらにスポーツの生成・発展・衰退に関係する諸要因（政治・経済・産業・社会・教育・科学・宗教・地理的環境等）について考え、現代社会における「人間性復権」への道程を展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレイの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツは地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場合と同じである

【評価方法】

単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書は授業のとき指示する。

スポーツ文化論

松田秀子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的・社会的事実から論証し、さらにスポーツの生成・発展・衰退に関係する諸要因（政治・経済・産業・社会・教育・科学・宗教・地理的環境等）について考え、現代社会における「人間性復権」への道程を展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツ舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

【評価方法】

出席状況とレポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

英語コミュニケーション1

ダグラス・L. ドイル

1年 前期 選択 2単位

【Course Content】

The goal of this class is to use practical English in useful situations. The primary focus of this class will be listening and speaking. Students will speak a lot in this class. Students will work in pairs or small groups.

【Assessment】

Assessment will be based on the following:

attendance
class participation
enthusiasm
homework
tests

【Textbooks】

Text to be advised.

英語コミュニケーション1

ポール・ルイス

1年 前期 選択 2単位

【Course Content】

This course is intended to improve students' skills in listening and speaking, to activate passive knowledge already learned but not used, and to provide a strong foundation of English ability for both future study and practical use (e.g. travel abroad). The course will be presented entirely in English, and students are urged to minimise the amount of Japanese they use in the class.

【Schedule】

Each week, students will practice various activities, in small groups or pairs. The initial focus will be on listening, with speaking activities forming the larger part later in the course.

【Assessment】

Assessment will be according to class participation, attendance, and a listening test given at the end of the semester.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

英語コミュニケーション1

ベヴァリー・F・M. カレン

1年 前期 選択 2単位

【Course Content】

This course offers practice in speaking and understanding English. Students will practice listening to spoken English, learning simple strategies to increase their comprehension and thus gain confidence in their English ability. The teacher will use English exclusively in the classroom, and encourages students to use only English, too.

【Schedule】

In the first four classes, the course will focus on listening. Students will listen to instructions to draw pictures and then practise giving simple instructions to each other. In the next classes, students will use a video script to improve their listening, increase their vocabulary, and to practise speaking English more fluently. Students will then work in small groups and pairs for even more practice.

【Assessment】

Student assessment is ongoing, and based on attendance, effort, and ability. There will be in-class tests. Willingness to speak English in class will be an important indication of a student's effort.

【Textbooks】

No textbook is required.

英語コミュニケーション1

テリー・ワコルツ

1年 前期 選択 2単位

【Course Content】

The aim of the course is to engage students actively in conversation with a partner or in a group. Students will try to express their ideas fully and coherently. The course will begin with exercises aiming to get the students to talk about things they like, dislike and providing simple reasons. The course and textbook will be based on providing examples of how students can express themselves and they will have plenty of chances during class to do so. Some listening will also be done.

【Schedule】

Term 1 will focus on structured discussion with preset topics from the textbook.

Term 2 will focus on structured discussion with preset topics from the textbook.

【Assessment】

Evaluation will be based on attendance, participation and monthly vocabulary tests.

【Textbooks】

Springboard 1

英語コミュニケーション2

ジョナサン・E. ロング

1年 前期 選択 2単位

【Course Content】

The goal of this course is to improve the students ability in reading and to teach them to write coherent essays in English using paragraph form.

Although the students will use and improve their oral and listening skills, the emphasis will be on reading and writing. The reading will be based on recent and I hope interesting topics. They will also be taught how to write essays and to arrange them logically into at least four paragraph essays consisting of the essay topic introduction, a minimum two paragraph explanatory body and finally a concluding and/or summarizing paragraph.

【Schedule】

Classes will consist of readings in English with appropriate exercises, discussion of the readings, and explanations on paragraph and essay writing.

【Assessment】

The students' grades will be based on attendance, class work, essays and a final exam.

【Textbooks】

More True Stories (Sandra Heyer, Longman)

英語コミュニケーション2

ディビッド・C. ダイカス

1年 前期 選択 2単位

【Course Content】

This course will focus on improving students' reading and writing ability. Because the range of student reading ability is so wide, a graded reading system called the SRA Reading Laboratory will be used for reading material. The writing focus will be on paragraph writing.

Reading: When using the SRA Reading Laboratory materials, students will be expected to keep records of their reading time and scores in a record book. Occasionally, other materials may be used.

Writing: The writing section of the course will cover the following points, among others.

1. Proper presentation of a paragraph of written English
2. The parts of a paragraph/essay (introduction, development/discussion, and conclusion)
3. The importance of topic sentences, and how to write them
4. Writing conclusions
5. Identifying irrelevant ideas (those unrelated to the topic)
6. Pre-writing activities
7. Word mapping and outlining
8. Sentence combining
9. Writing using time order
10. Describing a process

【Schedule】

Each 90 minute class will be divided between reading and writing. Instruction in writing will begin with the basics of paragraph writing and move on to writing paragraphs for different purposes.

【Assessment】

Homework assignments are an important part of this course. Those who do not do homework assignments will not pass the course. Students must attend 70% of the classes. Those who attend less will not pass the course. There will also be a test at the end of each semester.

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション2

ディビッド・レヴィ

1年 前期 選択 2単位

【Course Content】

This course aims to develop students' reading and writing skills. The reading materials will be from the multi-level SRA Reading Laboratory.

The writing will focus initially on paragraph writing, and will progress to essay writing using at least four paragraphs.

【Schedule】

Each 90 minute class will ideally spend half the time on reading and half on writing. However, initially it will be necessary to acquaint students with the requirements of the SRA reading program (including record keeping). As students become more proficient at using the SRA materials, the proportion of class time devoted to writing will be increased.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, writing assignments, homework assignments, a test and proper record keeping by students of their SRA reading.

【Textbooks】

"Ready to Write" (Karen Blanchard & Christine Root, Longman)

【References】

Students are expected to bring an English-Japanese and a Japanese-English dictionary (book or electronic) to class.

英語コミュニケーション2

テリー・ワコルツ

1年 前期 選択 2単位

【Course Content】

The aim of the course is to engage students actively in reading and writing. Students will try to express their ideas fully and coherently. The course will begin with exercises aiming to get the students to read and write about things they like, dislike and providing simple reasons. The course and textbook will be based on providing examples of how students can express themselves through writing and will have plenty of chances during class to do so. Some listening will also be done.

【Schedule】

Term 1 will focus on structured discussion with preset topics from the textbook.

Term 2 will focus on structured discussion with preset topics from the textbook.

【Assessment】

Evaluation will be based on attendance, participation interim vocabulary tests.

【Textbooks】

More True Stories.

英語コミュニケーション3

ダグラス・L. ドイル

1年 後期 選択 2単位

【Course Content】

The goal of this class is to use practical English in useful situations. The primary focus of this class will be listening and speaking. Students will speak a lot in this class. Students will work in pairs or small groups.

【Assessment】

Assessment will be based on the following:

attendance
class participation
enthusiasm
homework
tests

【Textbooks】

Text to be advised.

英語コミュニケーション3

ポール・ルイス

1年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course aims to take students beyond “survival” level English and allow them to begin making use of the language to express themselves. During the course, students will practice all four skills of English—speaking, listening, reading, and writing, with particular emphasis on the first two.

The course will be presented entirely in English, and students are urged to minimise the amount of Japanese they use in the class.

【Schedule】

Each week, students will practice various activities, in small groups or pairs.

【Assessment】

Assessment will be on-going, based on class participation, ability, and attendance.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

英語コミュニケーション3

ベヴァリー・F・M. カレン

1年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course offers further practice in speaking and understanding English. Students will continue to practise listening to spoken English, and learn to use simple strategies to increase understanding and thus gain more confidence in their English ability. The teacher will use English exclusively in the classroom, and encourages students to use only English, too.

【Schedule】

In the first four classes, listening to numbers, and accurately exchanging basic information will be the primary focus. In the following classes, students will use a video script to improve their listening, increase their vocabulary, and to practise speaking English more fluently. Students will then work in small groups and pairs for more challenging practice.

【Assessment】

Student assessment is ongoing, and based on attendance, effort, and ability. There will be in-class tests. Ready participation and willingness to speak in English in class will be important indications of a student's effort.

【Textbooks】

No textbook is required.

英語コミュニケーション3

テリー・ワコルツ

1年 後期 選択 2単位

【Course Content】

The aim of the course is to engage students actively in conversation with a partner or in a group. Students will try to express their ideas fully and coherently. The course will begin with exercises aiming to get the students to talk about things they like, dislike and providing simple reasons. The course and textbook will be based on providing examples of how students can express themselves and they will have plenty of chances during class to do so. Some listening will also be done.

【Schedule】

Term 1 will focus on structured discussion with preset topics from the textbook.

Term 2 will focus on structured discussion with preset topics from the textbook.

【Assessment】

Evaluation will be based on attendance, participation and monthly vocabulary tests.

【Textbooks】

Springboard 1

英語コミュニケーション4

ジョナサン・E. ロング

1年 後期 選択 2単位

【Course Content】

The goal of this course is to improve the students ability in reading and to teach them to write coherent essays in English using paragraph form.

Although the students will use and improve their oral and listening skills, the emphasis will be on reading and writing. The reading will be based on recent and I hope interesting topics. They will also be taught how to write essays and to arrange them logically into at least four paragraph essays consisting of the essay topic introduction, a minimum two paragraph explanatory body and finally a concluding and/or summarizing paragraph.

【Schedule】

Classes will consist of readings in English with appropriate exercises, discussion of the readings, and explanations on paragraph and essay writing.

【Assessment】

The students' grades will be based on attendance, class work, essays and a final exam.

【Textbooks】

Even More True Staries (Sandre Heyer, Longman)

英語コミュニケーション4

ディビッド・C. ダイカス

1年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course will continue the first semesters focus on improving students reading and writing ability. The SRA graded reading system will be used for reading material. Writing will focus on Short essays.

Reading: When using the SRA Reading Laboratory materials, students will be expected to keep records of their reading time and scores in a record book. Occasionally, materials may be used.

Writing: Writing activities will include :

1. Review of the proper presentation of a paragraph of written English
2. Review of the parts of a paragraph/essay
3. Continued practice in writing topic sentences
4. Writing conclusions
5. Continued use of pre-writing activities
6. Continued practice in word mapping and outlining
7. Continued practice in sentence combining
8. Describing a process
9. Presenting examples
10. Expressing opinions (argumentation)

【Schedule】

Each 90 minute class will be divided between reading and writing. Instruction in writing will review the basics of paragraph writing while moving on to writing paragraphs for different purposes.

【Assessment】

Homework assignments are an important part of this course, and it is extremely important that students do the assignments. Students must attend 70% of the classes. Those who attend less will not pass the course. There will also be a final test.

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション4

ディビッド・レヴィ

1年 後期 選択 2単位

【Course Content】

The aim of this course is to continue the first semester's development of students' reading and writing skills. The SRA graded reading system will continue to be used for the reading component of the course. Writing will continue to develop student's progression from four paragraph writing to short essay writing.

【Schedule】

Each 90 minute class will ideally spend half the time on reading and half on writing. Reading topics will vary depending on the student's SRA reading level and progress. Writing will be a continuation from the first semester of the topics in the prescribed text.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, writing assignments, homework assignments, a test and proper record keeping by students of their SRA reading.

【Textbooks】

"Ready to Write" (Karen Blanchard & Christine Root, Longman)

【References】

Students are expected to bring an English-Japanese and a Japanese-English dictionary (book or electronic) to class.

英語コミュニケーション4

テリー・ワコルツ

1年 後期 選択 2単位

【Course Content】

The aim of the course is to engage students actively in reading and writing. Students will try to express their ideas fully and coherently. The course will begin with exercises aiming to get the students to read and write about things they like, dislike and providing simple reasons. The course and textbook will be based on providing examples of how students can express themselves through writing and will have plenty of chances during class to do so. Some listening will also be done.

【Schedule】

Term 1 will focus on structured discussion with preset topics from the textbook.

Term 2 will focus on structured discussion with preset topics from the textbook.

【Assessment】

Evaluation will be based on attendance, participation interim vocabulary tests.

【Textbooks】

More True Stories.

英語コミュニケーション5

石橋千鶴子

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

パラグラフ。ライティングを含む英語総合演習。

【授業計画】

英語の4技能、すなわちリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける運用能力の育成を目指し、総合的な英語活動を行う。

授業では英語ビデオ教材を使い、内容把握のための活動を英語で行っていく。また、ライティング学習では、英文の基本であるパラグラフの構成と、その中でいかにしてトピックを展開させるかを学ぶ。与えられたトピックでパラグラフ・ライティング、レター・ライティングなどを行い、ライティングにおける運用能力の育成をはかる。

なお、後期「英語コミュニケーション6」の履修を希望する者は、「英語コミュニケーション5」を履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験及び授業活動により評価を行う。

【テキスト】

Survival Writing for College Students (Yasusada Uechi著
三修社)

英語コミュニケーション6

石橋千鶴子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEIC問題対策を含む英語総合演習。

【授業計画】

英語の4技能、すなわちリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける運用能力の強化を目指し、総合的な英語活動を行う。

前期「英語コミュニケーション5」に引き続き、ビデオ英語教材を使い、内容把握のための活動を英語で行う。また、TOEIC問題の演習を行い、さらなる個人学習を促したい。

なお、本科目履修希望者は、前期「英語コミュニケーション5」を履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験及び授業活動により評価を行う。

【テキスト】

ロングマン直前模試 TOEIC (LONGMAN)

英語コミュニケーション7

中村栄造

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

世界の様々な出来事が国際ニュースとして、われわれの手にすぐ届けられる時代を迎えて久しい。この授業では、日々われわれが接する膨大な情報から必要な情報を的確に入手することを念頭に、主にリスニングとリーディングを中心とした英語運用能力の獲得を目指す。

主にリスニング教材とするのは、VOA (Voice of America) のニュースである。これを毎回、ディクテーションする。リーディングは英字新聞や、雑誌 Newsweek などから幅広く教材を選び、読解を試みる。

【授業計画】

リスニングのトレーニングを60分、リーディングを30分毎回行う。なお、リスニングに関しては、5回ごとに小テストを実施する。

【評価方法】

授業内に行う小テスト2回、およびリーディング教材の読解度、定期試験を総合して判断する。

【テキスト】

使用せず。毎回プリント配布。

英語コミュニケーション8

大鐘洋司郎

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

商社、外資系会社、製造業者、外国為替銀行、海運会社、航空貨物会社、国際運送会社や保険会社などに就職しようとする学生に役に立つ体験から帰納した授業内容。海外からの商品の物流、代金決済方法の理解は一般企業就職希望者にも役に立つ。

授業担当者は全米最大の小売業者シアーズ社などとの取引経験から、教科書の事例を解説し、英語ビジネスコミュニケーションの手法を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 場面を設定して受講生が英文ビジネスレターを作成する。英和・和英辞典を持参すること。
- 第2回 海外取引先紹介依頼及び取引先紹介者への礼状
- 第3回 信用照会及びその返信
- 第4回 取引開始申し込み
- 第5回 ビデオ視聴（内容は下記参照）
- 第6回 一般取引条件協定書の交換
- 第7回 基本貿易価格FOB及びCIF
- 第8回 オファー、価格表及びカウンターオファー
- 第9回 発注及びその確認
- 第10回 注文書、売約書の送付
- 第11回 信用状修正依頼及び受領確認
- 第12回 船積みに関して
- 第13回 ビジネス英会話（時間と受講生数次第で実行）

【評価方法】

出席状況・定期試験・出題・感想又はレポート・その他による。

英語関係の資格（英検・商英検・TOEFL, TOEICなど）は自己研修点として成績に加味する。資格を証明するもの（コピー可）を持参して授業担当者に報告のこと。授業に取り組む積極性も評価する。

【テキスト】

ケーススタディで学ぶ英文ビジネス文書のライティングとプレゼンテーション増補版（大鐘洋司郎他 嵯峨野書院 税込 2,520円）

ビデオ「貿易実務の基礎知識」又は「外国為替について」授業担当者作成資料（プリント教材その他）

英語コミュニケーション9

小野迪雄

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

アーネスト・ヘミングウェイは、20世紀を代表するアメリカの作家であり、多難な激しく変動した時代を生き抜いた作家でもある。『老人と海』でノーベル賞を授賞したが、彼の文学の本質を探ってみると、円環を描いて、初期の作品世界につながっているようにみえる。それ故、初期の短編を読み解くことは重要であり、彼の文学の本質に迫れるかもしれない。

ヘミングウェイの文章は簡潔で引き緊った文体で、現代の標準的な文章の一つの型をもっていて、読みやすい。

【授業計画】

テキストを中心に読み進み、随時プリントを配布して、作者や作品の理解を深めるようにする。

【評価方法】

定期試験の成績を主とするが、日常の授業に対する準備も判断の資料とする。

【テキスト】

Indian Camp and Other Stories (Hemingway)

『ヘミングウェイ短編集』 成美堂

【参考書籍】

授業時に随時紹介する。必要に応じてプリントを配布する。

英語コミュニケーション10

ダグラス・L. ドイル

1~4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

The objective of this course is to revise and augment students' knowledge of English vocabulary and non-verbal features, as well as developing their speaking, listening, reading and writing skills. Students who opt for this course will be expected to be able and highly motivated. Students who are less able will be expected to be extra-highly motivated.

【Assessment】

Assessment will be based on a combination of the following: general classroom performance (continually assessed) general standard of homework (continually assessed) and by examination.

【Textbooks】

Text: To be advised.

英語コミュニケーション11

ジョナサン・E. ロング

1~4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

Students who meet the prerequisites will in the class have to meet the challenges of reading scripts in English, watching the videos without subtitles, discussing them in English and writing reaction papers about them.

Usually, three weeks will be allowed for each video:

Week 1 : script

Week 2 : video

Week 3 : discussion; homework: reaction paper

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, class participation using English and the reaction papers.

【Textbooks】

none.

英語コミュニケーション12

ディビッド・C. ダイカス

1~4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

This course will focus on skills and techniques needed for informative and persuasive writing and presentations, especially for business purposes. An important focus will be on recognizing and understanding the differences in rhetorical patterns between Japanese and English. Students will study how to gather, evaluate, and organize information, and assignments will include writing informative and persuasive essays and making presentations and speeches based on the information gathered.

The course be topic/theme oriented. Students will read about, discuss, research and write about these topics. Written work will provide the basis for presentations. Writing practice will include the study of paragraph organization and effective presentation and support of ideas in written English. Once this level of writing is mastered, we will move on to longer pieces of writing. Presentation skills will be studied as well. These will include techniques for public speaking and the effective use of visual aids.

【Schedule】

As described above, the course will move from basic organization and presentation of ideas in short pieces of writing to essays and presentations based on their content.

【Assessment】

Grading will be based on attendance and participation, homework assignments, and in-class presentations.

【Textbooks】

To be announced

コンピュータ演習 1

梅田敏文

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

パソコンの基本操作やOS活用方法のスキルを習得する。また、WORD、POWERPOINTによる資料作成を通じてサービスプログラムの利用方法を学習する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンスとマシン操作
- 第2講 Windows98の操作（1）
- 第3講 Windows98の操作（2）
- 第4講 WORDの操作（1）
- 第5講 WORDの操作（2）
- 第6講 NETWORK（1）
- 第7講 NETWORK（2）
- 第8講 WORDの操作（3）
- 第9講 POWERPOINTの操作（1）
- 第10講 POWERPOINTの操作（2）
- 第11講 POWERPOINTの操作（3）
- 第12講 まとめ

【評価方法】

ひとつのテーマが終了した時点でミニテストを実施する（2～3回）。出席点40%、ミニテストその他60%で評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中で適宜、資料を配布する。

コンピュータ演習 1

西荒井学

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

コンピュータを情報処理の道具として、効果的に利用していくための必要最小限のコンピュータ基礎知識を学習する。また、高度情報社会の特質や問題点にも触れ、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。

1. ガイダンス、コンピュータの発展と利用分野の拡大
2. コンピュータの基本構成と利用方法
3. 基本ソフトウェアの活用
4. 情報の表現と情報量
5. ネットワークの利用（メールWWW）
6. ソフトウェアの機能と役割
7. 応用ソフトウェアの活用（ドロー機能）
8. 情報処理の変遷と形態
9. ファイルとデータベース
10. まとめ、総合課題

【授業計画】

講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。

コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。また、実習の際にはフロッピー・ディスクならびに情報科学教育センター作成利用ガイドを必ず持参すること。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報リテラシ（大野 豊監修 共立出版）

コンピュータ演習2

西荒井学 杉浦藤虎

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

コンピュータ処理を学習する手始めとして、統合ソフトウェアであるクラリスワークスを利用し、ワープロ機能での日本語文書作成を実習形式にて学習する。また、スプレッド・シート・タイプのソフトウェア機能を利用して、基本的な表計算処理を学習する。

1. ガイダンス
2. コンピュータの起動と基本操作
3. 日本語ワープロソフトウェアの利用
4. 文書作成の基礎
5. 文書作成での特殊機能活用
6. 表計算ソフトウェアの活用
7. 表計算と分析処理
9. 表計算ソフトウェアの作図機能
10. 表計算ソフトウェアにおける種々の機能
11. プレゼンテーション・ソフトの活用
12. まとめ、総合練習問題

【授業計画】

講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。

コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。また、実習の際にはフロッピー・ディスクならびに情報科学教育センター作成利用ガイドを必ず持参すること。

【評価方法】

出席状況、各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。指示された課題は、必ず提出すること。

【テキスト】

テキスト使用せず（プリント配布）。

コンピュータ演習3

塩谷敦子

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

プログラミング言語であるC言語を使用して、基本的なプログラミングの手順を学ぶ。

構造化プログラミングおよび構造化設計の基本として、

- 1) 制御文のアルゴリズム
- 2) データ構造
- 3) 関数による機能分割

についての知識を得た上で、簡単なプログラムの設計とコーディングの技術を実習によって習得する。さらに、C言語で扱うデータ記憶の仕組みを通してコンピュータの内部構造について基礎的な知識を得る。

【授業計画】

1. C言語プログラミングの概要

C言語の基本的なプログラミングスタイルを学習する。

2. 制御文

構造化プログラミングのために用意されているいろいろな制御文を学習する。

3. 配列

C言語の基本的なデータ構造の一つである1次元配列と2次元配列を理解する。

4. 文字列と文字列操作

配列の応用として文字列配列について学習する。

5. 関数の基本

わかりやすく品質の高いプログラムを実現するために、機能単位ごとにプログラムを分割していく設計技法を学習する。そのための基本的な概念である関数の定義方法および呼び出し方法について習得する。

【評価方法】

定期試験1回、出席率および各講義内容の実習課題により評価を行う。

【テキスト】

【入門編 C言語プログラミング】

(山本雅基監修 浅野百代執筆 株式会社デンソークリエイト発行)

コンピュータ演習 4

杉浦藤虎

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

本演習では、前半にデータベースの作成と検索を行い、後半にExcel環境におけるVisual Basic for Applications (VBA)を用いたプログラミング演習を行う。データベースの管理は情報管理において中枢となる役割を持つ。ここでは比較的小規模なデータベースを構築する際に必要な用語、知識と機能について学習する。また、Excel VBAを利用したマクロおよびGraphical User Interface (GUI)の作成などを通してExcelの高度な使用法を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス (授業方針と講義予定の説明)
- 第2回 データベースの構築
- 第3回 データベース構築の実習 1
- 第4回 データベース構築の実習 2
- 第5回 情報検索の方法(オンラインおよびCD-ROM検索)
- 第6回 データベースのまとめ
- 第7回 Excel VBAについて (マクロとVBAの説明)
- 第8回 変数、配列と四則演算
- 第9回 条件判断およびフォームの作成
- 第10回 繰り返しと関数について
- 第11回 セルの読み書きとグラフの描画
- 第12回 Excel VBAのまとめ

【評価方法】

出席状況、実習課題により評価する。欠席2回で評価が1段階下がる。遅刻は3回で欠席1回とみなす。未提出課題が1つあると評価が2段階下がり、2つ以上あると評価は不可となる。実習は操作途中からでは理解できない可能性があるため遅刻しないこと。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて教材用プリントを配布する。

コンピュータ演習 4

梅田敏文

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

データベースの概念、機能、構造の概要を学習し、データベースの作成と、検索の仕組みに関する知識を習得する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンスとデータベース概念の説明
- 第2講 CLARISによるデータベース作成
- 第3講 CLARISによるデータベース変更
- 第4講 CLARISによるデータベース検索 (1)
- 第5講 CLARISによるデータベース検索 (2)
- 第6講 CLARISによるレポート作成 (1)
- 第7講 CLARISによるレポート作成 (2)
- 第8講 EXCELのデータベース管理機能 (1)
- 第9講 EXCELのデータベース管理機能 (2)
- 第10講 EXCELのデータベース管理機能 (3)
- 第11講 EXCELのデータベース管理機能 (4)
- 第12講 まとめ

【評価方法】

ひとつのテーマが終了した時点でミニテストを実施する(2-3回)。出席点40%、ミニテストその他60%で評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中に適宜、資料を配布する。

コンピュータ演習5

三和義秀 太田浩司

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

収集したデータを整理・分類し、それらの性質や状態を数量的に表現して全体としての法則性を見つけ出すための手法を講義で学び、その手法においてどのようにコンピュータを活用するかについて実習を行う。

【授業計画】

- 第1回 統計とは、度数分布表とヒストグラム
- 第2回 Excelのデータ入力、表・グラフの作成
- 第3回 Excelの関数の使い方
- 第4回 統計量の求め方
- 第5回 度数分布表、ヒストグラムの作成
- 第6回 ドットプロット、クロス集計表の作成
- 第7回 平均値、範囲、最頻値、分散と標準偏差等の意味
- 第8回 代表値と散布度を求める
- 第9回 確率分布と正規分布
- 第10回 2項分布と標準正規分布
- 第11回 相関係数の求め方とその意味、回帰分析
- 第12回 散布図の作成、相関係数、回帰分析
- 第13回 検定の仕組みと方法

【評価方法】

定期試験、レポート及び出席にて総合評価する。特に出席回数を重視する。

【テキスト】

Excelで学ぶ“やさしい”統計処理のテクニック
(三和義秀 共立出版株式会社)

コンピュータ演習6

塩谷敦子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報システム開発の概要を学習し、開発実習を行う。コンピュータ演習3で習得したプログラミング言語の知識をベースにして、自らシステム開発を行う能力を養う。そして、開発の計画や要求分析・設計を実施することにより、創造的なシステム開発の醍醐味に触れる。

一般的な開発工程モデルと設計技法を学習し、開発計画→システム分析→要求定義→設計→コーディング→テストの各工程に関する基礎知識を得る。そして、開発工程に沿って、実際にドキュメンテーションとプログラミングを実習する。

※受講上の注意：コンピュータ演習3（プログラミングの基礎知識）を受講していること。

【授業計画】

テキストと資料を基に、講義および実習を行う。実習では、グループによるシステム開発を体験する。開発用ソフトウェアはVisual C++を使い、Windows上で稼働する簡単なシステムを作成する。

1. 情報システムとは・情報の表現
2. アルゴリズムの記述方法・構造化プログラミング
3. アルゴリズムからプログラムへ（C言語復習）
4. ソフトウェアの開発工程・要求分析・システムの検討
5. 外部仕様設計
6. プログラム設計
7. テスト仕様設計
8. コーディング
9. テスト・デバッグ

【評価方法】

各開発工程実習で作成するレポート(開発ドキュメント)と開発したシステムの成果(品質)により評価を行う。

【テキスト】

【入門編 C言語プログラミング】

(山本雅基監修 浅野百代執筆株式会社デンソークリエイト発行) 他

コンピュータ演習7

長谷川達也

2~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

コンピュータネットワークは新しいコミュニケーションの形態を生み出し、あらゆる社会システムに「情報化革命」を起こそうとしています。この講義では、インターネットを中心にして、ネットワークを肌で感じ、少しでも活用できるようになることを目標としています。

1. コンピュータのしくみ

コンピュータの構造（ハードウェア）と動作原理（ソフトウェア）について復習します。またコンピュータネットワークを構成するハードとソフトについても解説します。

2. デジタル画像情報の作成

ネットワークで利用されるデジタル画像情報の特徴と作成手順について説明し、実際に自画像などの画像を作成します。

3. インターネットとは何か

インターネットの生い立ちとしくみ、なにができるのかについて解説します。

4. インターネットの利用

電子メールやWWWの利用法について解説するとともに、実習を行ないます。

5. ホームページの作成

ホームページ記述言語であるHTML言語について解説し、デジタル画像を取り込んだホームページを作成し、ネットワーク上で公開します。

6. インターネットの問題点と将来

インターネットは情報の質、著作権、ネットワーク犯罪などの問題を抱えています。それらの問題について取り上げ、方策や将来像について考えていきます。

【授業計画】

講義だけでなく、マッキントッシュによる実習を多く採り入れてネットワークの利用法を学びます。

【評価方法】

学内LAN利用講習会を受講し、電子メール、WWWの利用の仕方について、事前に講習を受けた学生に限ります。成績は、出席、小テスト、レポート、ホームページのできばえで総合判定します。

【テキスト】

使用せず。

コンピュータ演習8

親松和浩

2~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会のあらゆる分野で必須となったデスクトップパブリッシング（DTP）技術の基礎を学習し、多岐にわたるドキュメントを豊富な表現力と高い品質で作成することをめざす。課題としてポスターやパンフレットを作成し、基本のデザインから編集・印刷までの一連のDTPプロセスを習得する。また、コンピュータの機種に依存せず高品質の文書を配付できるpdf形式や、WWWホームページ作成に利用されるHTML形式など、近年普及の目覚ましいオンラインパブリッシング技術についても学習する。

【授業計画】

コンピュータ実習室における実習を中心に行う。使用パソコンはMacintosh、使用ソフトはPageMakerである。なお、課題提出には授業時間外の作業が必要になる場合もある。

- 1 ガイダンス／MacOSの基本操作1
- 2 MacOSの基本操作2／PageMakerの基本操作
- 3 課題1：レターヘッドの作成
- 4 テキストと画像ファイルの割り付けの技法
- 5 パンフレットの作成
- 6 課題2：複数ページの記事の割り付け1
- 7 課題2：複数ページの記事の割り付け2（ページ番号、柱）
- 8 縦書き文書の作成
- 9 索引、目次、ブック
- 10 オンラインパブリッシング
- 11 最終課題（実習）

【評価方法】

出席状況と提出課題の評価によって決める。

コンピュータ演習9

親松和浩

2~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

コンピュータによる画像・図形処理技術の基礎を学習する。2次元画像の作成・加工プロセスだけでなく、3次元形状のモデリングからレンダリング（陰影・着色）までの一連の処理プロセスを体得する。

【授業計画】

コンピュータ実習室における実習を中心に行う。使用パソコンはMacintosh、ソフトはPhotoShopとPetiteVision 3Dを予定している。なお、課題提出には授業時間外の作業が必要になる場合もある。

- 1 ガイダンス/PhotoShop入門
- 2 OSの基本操作/PhotoShopの基本操作
- 3 フォトレタッチ入門
- 4 合成写真の作成
- 5 レイヤー操作
- 6 課題1：入学案内のポスターの作成
- 7 ペイント
- 8 3次元CGソフトPetiteVision 3D入門
- 9 3次元CGソフト基本操作1
- 10 3次元CGソフトの基本操作2
- 11 課題2：カレンダーの作成（実習）
- 12 自由課題（実習）

コンピュータ実習室における実習を中心に行う。

【評価方法】

出席状況と提出課題の評価によって決める。

コンピュータ演習10

親松和浩

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

コンピュータによるサウンド処理技術の基礎を学習する。音声データの編集・処理、ムービーのサウンドトラックの作成、MIDI形式の音楽ファイル作成の実習を通して、サウンド処理の基本原則と処理プロセスを体得する。

【授業計画】

コンピュータ実習室における実習を中心に行う。使用パソコンはMacintosh、使用ソフトはSoundEdit16とEZ Vision等である。なお、課題提出には授業時間外の作業が必要になる場合もある。

- 1 OSの基本操作1/SoundEdit16入門
- 2 OSの基本操作2/SoundEdit16の基本操作
- 3 課題：目覚まし音の作成
- 4 音のデジタル化の理論とファイル形式
- 5 ムービーのサウンドトラック作成1
- 6 ムービーのサウンドトラック作成2
- 7 MIDI入門/EZ Visionの基本操作
- 8 課題曲のMIDIファイルの作成
- 9 課題曲のMIDIファイルの作成2
- 10 WWWへの応用、CD-R
- 11 最終課題：3分間のサウンドクリップ作成（実習）
- 12 最終課題の講評、サウンド処理技術の将来展望

【評価方法】

出席状況と提出課題の評価によって決める。

コンピュータ演習11

辻 紘良

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

パソコンを用いたデジタル映像処理法の基礎を学習するとともに、映像処理ソフトを用いてビデオ素材の処理・編集技術を体験的に習得する。課題としてビデオ素材の作成からムービー作成まで行うことにより一連のデジタル映像処理プロセスを習得する。

毎回、講義の前半は映像処理理論と操作法の説明、後半はパソコンを用いた映像処理の実習を行う。

【授業計画】

1. デジタル映像処理概論
 2. 8m/mビデオカメラの取り扱いと撮り方
 3. 映像と音声のデジタル化と取り込み
 4. 効果（場面転換）の使用とカスタム効果の作成
 5. フィルムの使用とカスタムフィルタの作成
 6. 映像のモーション設定（回転、移動、変形）
 7. スーパーインポーズ（透過重ね合わせ）の設定
 8. タイトル画面の作成と文字アニメーション
 9. デジタルムービーの作成とビデオテープへの録画
- 毎回、授業の後半は各自の実習の時間にあて、制作結果を提出する。期末には各自小規模なムービーを作成する。それを授業内で発表しかつ期末の課題として提出する。

受講にさいしては「コンピュータ演習9、10」の履修が望ましい。ビデオ・カセット、MO等は各自が用意すること。8m/mビデオ・カメラは貸し出しする。

【評価方法】

毎回の課題の提出状況や期末作品の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

コンピュータ演習12

辻 紘良

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

シミュレーションの基礎を学習するとともに、パソコンソフトを用いて社会・経済システムのモデル化とシミュレーション分析手法を体験的に学習する。これによりシミュレーションのモデル作成から実行・分析までの一連のプロセスを習得する。

【授業計画】

講義の前半は理論と基本的な言語の説明、後半は簡単なシミュレーションモデルの作成と実行・分析を行う。

1. シミュレーション概論
2. シミュレーションの体験
3. ネットワークによるモデル化
4. 窓口と待ち行列の表現
5. 要素の流れの選択や統合・分解
6. 待ちファイルの操作、外部データとのI/F
7. 事象処理ロジックと制御文
8. 外部ソフトを取り入れた離散型シミュレーション
9. シミュレーション例
在庫管理
救急介護システム
臓器移植システム

受講にさいしては「コンピュータ演習4、6」の履修が望ましい。

【評価方法】

授業中の課題の提出や期末試験の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考書籍】

「Visual SLAMによるシステムシミュレーション」(森戸晋他著 共立出版 1998)

言語文化論

小野迪雄

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

<多言語・多民族の複合社会>といわれるアメリカの社会について、考えてみる。植民国家としてスタートしたアメリカには、後に労働力の必要などもあって大量の移民を受容するが、同時に他国にはみられない奴隷制度の後遺症をかかえた、複雑な社会事情がある。講義ではそのうち、主にアメリカの文化地理（人口移動と文化的多様性）、宗教、言語、文学の面から考察する。

上記の四つのテーマを手掛かりとしてアメリカの社会をみていくが、当然、他の諸分野にもふれなければならないが、それはテーマの理解を掘りさげるためのきっかけとしたい。

【授業計画】

講義形式で授業を進めるが、進路に合わせてレポートの提出もある。

【評価方法】

試験及びレポートを中心とし、受講の意欲を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

本間長世『思想としてのアメリカー現代アメリカ社会・文化論』中央公論社。プリントを随時配布。

【参考書籍】

授業中に紹介する。

社会学概論

谷口 茂

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会学は、人間同士の関係に視座を据えて、個人・社会集団・社会事象について研究する学問である。授業では、わが国現代社会を、総合的・実証的・人間志向的観点から、検討・分析することによって、その実像に迫ることとする。

そのさい、わが国現代社会が直面する、4つの大きな潮流を手掛かりとして、その現状を把握し、その問題点にメスを入れ、将来の展望を探りたい。

1. 経済システムの転換
2. 情報化
3. 国際化
4. 少子・高齢化

【授業計画】

講義方式で授業を進めていくが、小テストを数回実施し、これを採点・返却することによって、レポートの書き方を指導する。

【評価方法】

期末試験の成績と小テストの成績にもとづき、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。その代わりに、資料を作成して配布する。

フィールドワーク論

谷沢 明

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

フィールドワークとは、現地調査・野外研究のことである。社会の事象を把握し、実証的に解明する手法として、このフィールドワークはきわめて有効な手段となりえる。フィールドワークの三要素は、「あるく・みる・きく」という行為であろう。まずは資料を探訪するために自らの足で歩く。そして物事を自分の目で深く見つめる。さらに地域で暮らす人々の話に謙虚に耳を傾ける。それがフィールドワークの基本である。このようにモノに对峙し、人間の営為と意志を読み取る作業をとおし、本物を見きわめる目と洞察力を養ってほしいと願っている。

【授業計画】

1. フィールドワークとは何か～あるく・みる・きく～
2. 景観を読む～ムラの姿・マチの風景～
3. 風土と地方色を探る～日本の民家から～
4. 民衆文化を探る～住まいをとおして～
5. 生活文化を探る～居住形式から～
6. 庶民信仰を調べる～石仏・石塔の見方～
7. 庶民信仰を調べる～庚申信仰～
8. 民俗芸能の見方～奥三河の正月行事から～
9. 民俗芸能の見方～奥三河の花から～
10. マチの見方・調べ方～瀬戸内の港町上関・御手洗～
11. マチの見方・調べ方～瀬戸内の港町竹原・柳井～
12. マチの見方・調べ方～瀬戸内の港町下津井・牛窓～
13. 宮本常一のフィールドワーク論～師から学んだもの

【評価方法】

中間レポート及び試験による。

【テキスト】

『フィールドワークで探る民俗と地域文化』

統計学概論

岩橋亮輔

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

関心を持つ集団を母集団という。これに属する個体すべてについて観測可能な各種の指標を変量という。母集団の一部である標本について変量のデータを分類・整理し、利用に供しやすく要約する手順の研究が記述統計学である。さらにこれに基づき母集団全体について変量に関する情報を得る科学的方法の研究が推測統計学である。電卓を用いて記述統計学に習熟することが目的である。

1. 母集団と指標
2. 指標の分類
3. 連続型変数
4. いろいろなグラフ
5. 特性値
6. 位置の尺度
7. 散布の尺度
8. いろいろな平均値
9. 2次元変量
10. 相関分析
11. 回帰分析

【授業計画】

講義と並行してグラフを描いたり、電卓を用いて計算を行なう。毎回、定規と電卓（簡単なものでよい。しかし平方根の計算ができるもの）を持ってくること。

【評価方法】

毎回出席を記入させる。

4回以上欠席したものは失格。

定期試験とレポートとの両方で評価する。

【テキスト】

使用せず。

経済学概論Ⅰ

秦 忠夫

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

大学生もすでに経済社会の一員で、「経済」はみなさんの身近なところで動いています。しかし、漠然としていて奥行きが深いため、どのような仕組みで動いているのか大いに興味はあるが理解を深めるてかきりがつかみにくいと思っている人が多いのではないのでしょうか。経済の動きがわかるようになるためには、まず経済学の基本を一通り勉強し、現実の動きに興味をもってフォローしていくことが大切です。この講義は、経済全体の動きを分析対象とするマクロ経済学の基礎を習得してもらうことを主たるねらいとしています。単に理論の説明に終わらず、できるだけ現実の日本経済の動きと関連づけて解説する方針です。

解説がていねいで入門書として最適と思われる下記のテキストを使用して、マクロ経済学の基礎を一通り幅広く勉強します。必要に応じ補足資料を配付します。

【授業計画】

講義形式。理解を確かめるため時々小テストを実施します。

【評価方法】

期末試験と小テストの結果を総合して評価します。

【テキスト】

マクロ経済学（吉川洋著 岩波書店 2,430円）

【参考書籍】

授業の際、適宜紹介します。

経済学概論Ⅱ

藤瀬浩司

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会を理解するためには、経済学は不可欠な学問です。この授業では、経済学の基礎的知識と現実の日本経済の状況を理解することを目的としています。

次の順序で講義します。

- (1) 経済学とは何か。
- (2) 経済学の歴史。
- (3) 現代社会の経済構造

【授業計画】

詳しい授業概要を講義前に配布します。

【評価方法】

授業への参加状況と期末のテストによって評価します。

【テキスト】

『経済指標のかんどころ』富山県統計課編

社会心理学

石田米和

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

大きく変容する社会経済環境への“適応・不適応”をキーワードにして、人と人、人と社会の間に生ずる様々な現象を解明し、人間や社会の在り方についての洞察力、問題解決能力等を養っていくことを主な目的とする。

【授業計画】

テキストの解説を中心とし、適宜、参考資料、ビデオ等を使用する。

【評価方法】

- ・受講資格は特にない。
- ・評価はレポート提出、定期試験、受講態度により行う。

【テキスト】

未定。

コミュニケーション論

五島幸一

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

私たちの日常生活においてコミュニケーションという言葉がかなり誤解されて使われている。本講義では、そのような誤解を解くためにコミュニケーション研究の領域を概観し、基本的な概念を学ぶ。ここでのコミュニケーションは人間の活動だけに限定し、その様々な形態を見ていくことによって、その特質を考える。

【授業計画】

コミュニケーションの基礎概念を学び、コミュニケーションという学問の見方または考え方の理解を深めることを目的とする。そのために、様々な形態のコミュニケーション—個人内コミュニケーション、対人コミュニケーション、小集団・組織コミュニケーション、異文化コミュニケーション、レトリカル・コミュニケーション、マスコミュニケーションなどを考察して、コミュニケーション全般的な特徴を考察する。

授業の進め方としては、テキストを中心に、随時プリント教材も配付する。

【評価方法】

成績は学期末の試験をとくに参考とするが、出席状況や授業への参加度も考慮する。

【テキスト】

「異文化コミュニケーション」 古田暁 監修 石井敏、岡部朗一、久米昭元 著 有斐閣

政治学概論

西尾林太郎

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

政治体制や政治制度との関わりで政治の動態を概括的に捉える能力を涵養すると共に、戦後日本の政治・外交を国際的視野で考察することを、講義の目的とする。

また、政治との絡みではあるが、時事的な問題についても積極的に取り上げていく。特に、立法過程や外国為替の政治・経済のメカニズム、および政治指導者について重点的に取り上げたい。

【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
 - ①国際社会の変容と政治
 - ②戦後世界における国際関係
 - ③トランスナショナル現象と国家間の相互依存性の増大
 - ④政党、官僚、利益団体、議会とその相互関係
2. 市民社会と大衆社会
 - ①市民社会と古典的デモクラシー
 - ②大衆社会とマス・デモクラシー
 - ③立法国家と行政国家
3. 「55年体制」の成立とその崩壊
 - ①冷戦構造と55年体制との関連
 - ②日本の政治風土—田中角栄の場合—
 - ③連立政権の時代
4. 政治権力
 - ①権力とは何か
 - ②人間はどうして支配関係を受け容れるか
 - ③王権神授説→社会契約論→“人民”の支配
 - ④リーダーシップ
 - ⑤マス・メディア、シンボル

【評価方法】

評価は出席状況と試験による。試験の際、自筆ノートとテキストの持込を許可する。

【テキスト】

現代政治学の基礎 増補改訂版 (西尾林太郎 早稲田経営出版 2,000円)

法学概論

尾崎良康

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

分かりやすい法学入門

- 1) 法と日常生活(やさしい法律、弁護士さんへのお礼、権利の濫用等)
 - 2) 法と常識(内縁問題、一厘事件等)
 - 3) 法と社会規範(社会規範とは何か、社会規範の種類)
 - 4) 法と道徳(正義とは何か、平等に関する裁判例、法と道徳の適用範囲、法と道徳の区別)
 - 5) 法と裁判(紛争解決の方法、昔の裁判の話、法廷の構造と刑事裁判の流れ、法の解釈 等)
- なお、時間に余裕があれば、民法と刑法について、要点を補足して説明したい。

【授業計画】

“やさしい法律”等のプリントや新聞の記事のコピー、「法学教材」所収の具体的裁判事件等を通じて、法とは何かということを出るだけ興味深く説明してみたい。

【評価方法】

試験によって評価する。

【テキスト】

法学教材(尾崎良康編著 自費出版)

教育学概論

梅村敏郎

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

「人間は、教育されなければならない唯一の被造物である。」とは、カントが教育学講義の冒頭で述べた言葉であるが、確かにわれわれの現在は、誕生以来、両親を始めとする多くの人間や自然的、社会的環境からの「教育」なしには考えられない。又、成人した暁には家庭を始めとする諸々の社会的共同体の成員として種々の立場で今度は子どもや若者の教育に参与しなければならない。つまり、教育なしには人間の生活は成立しないのである。このように人間生活に深く浸透している教育の諸々の側面に、できる限り広い視野のなかで光を当てることによってその全体像を明らかにしようとするのがこの概論の目的である。したがって、教育の特定の分野、あるいは特定の問題についての詳細な論述や厳密な考察は、他の特殊講義に譲ることになる。

【授業計画】

- 1 現代社会学部の学生が教育学を学ぶ意義は何か。
- 2 「教育」の語源。
- 3 教育とは何か。
- 4 教育における正しい子ども（人間）の見方。
- 5 近代の教育とジャン・ジャック・ルソー。
- 6 教育学の成立。
- 7 両親と子どもの関係における教育。
- 8 フォーマル・スクーリング。
- 9 社会教育の問題。
- 10 教育を再構築する概念としての生涯教育。

【評価方法】

評価は、最終授業における筆答試験による。試験についての詳細は授業中に発表する。

【テキスト】

特定の著書を教科書として使用することはない。参考書は授業中に適宜紹介する。

都市環境デザイン概論

吉田邦彦 河辺泰宏 吉澤 晋
垂井洋蔵 日色真帆 仁科浩二郎

オムニバス 1年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

都市環境デザインコースにおける教育課程の編成と学習方法を説明する。この講義を通して都市環境デザインの全体像とそのひろがりを理解するとともに、何が今日のテーマとして議論されているのか、その一端にふれる。

一級建築士受験資格の取得を目指している人には、本科目は必修科目であるので、必ず受講すること。

【授業計画】

6名の教員で担当し、それぞれが得意とする分野から、基本的で、興味深い話題を提供する。

街づくり、オフィス、健康概念と居住環境、エネルギー問題と環境、20世紀の都市問題、歴史的建造物の維持・再生、立体的に複雑な都市空間等のトピックスを取り上げる予定である。

講義を中心とするが、テーマによっては、学生からの発表をもとに議論する。

【評価方法】

各担当教員による授業期間中の小レポートと、期末に課題に従って提出するレポートとを総合して評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリント教材を配布する。

下記の科目は、本年度開講しません。

ジェンダー論

國信潤子

1・2年 前・後期 選択 2単位

文化人類学

基礎

【授業の概要】

社会一般で次第にジェンダー (gender) ということが使われるようになってきている。しかしその意味を正確に知っている人は意外に少ない。ジェンダーということばは1970年代末に世界的に隆盛となったフェミニズム (女性解放思想) のなかで、女性役割の限定性が批判され、社会・文化的「性」が問題化されたことから生まれた。こうして生物学的性とは区分してジェンダーということばが使われるようになった。

また、一方フェミニズムとは「女性が主体的に考え、行動すること」である。現代そして歴史的にも男女間の関係性が主従関係化されていることに留意し、心理特性、態度、役割などを流動化し、個性の多様性という側面からとらえなおす思想である。さらに社会における性差別を解消する道を探求するのがフェミニズム思想である。男女共同参画が今、国政の場でも重要政策課題となっている。その社会背景を追求してみる。ジェンダー論では生物学的性とジェンダー (社会文化的性) の異同、また身体自体がジェンダー化されている実態についても考察する。

【授業計画】

大半は講義形式である。時折、ビデオ、グループ討議を挟む。随時資料を配布する。

テキスト、参考文献、随時配布される資料を熟読して、授業に必要な期間持参すること。

【評価方法】

出席態度、出席カード記述内容、期間中に一回提出のレポート、期末レポートの4つの総合評価による。

【テキスト】

「女性学教育・学習ハンドブック」有斐閣 1998年
参考文献として「性の署名」人文書院 は必読書である。
「ジェンダーの社会学」「セクシュアリティの社会学」
(上野千鶴子編著 共に岩波書店) も読むことを勧める。

都市社会論

谷口 茂

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

第2次大戦後、都市化の急速な進展に伴い、都市社会がめざましい発展を遂げた。この都市社会を総合的、実証的に分析・研究する。まず、その現状を正確に把握し、つぎにその問題点について検討を加え、さいごにその対応策について考察したい。なお、名古屋都市圏をモデルとする。

本年度は、『産業』、『環境』、『福祉』に焦点をしばって、研究・分析を進めたい。

- I. 名古屋都市圏の産業構造の現状と問題点、同地域産業の発展の方策の樹立。
- II. 廃棄物処理、土壌汚染、温暖化、環境ホルモンなどの諸問題の検討・分析。
- III. 介護保険、公的年金、医療保険などの諸問題の研究。

【授業計画】

講義方式で進めていくが、小テストを数回実施し、これを採点・返却し、レポートの書き方を指導する。

【評価方法】

期末試験の成績を中心に、これに小テストの成績を加味して、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。その代わりに、資料を作成して配布する。

地域文化論

谷沢 明

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間が自然に対峙し、共存しながら築いてきた暮らしの様式と内容を、地域特性をふまえて考察する。内容は、物質文化と精神文化の両面を対象とし、フィールドワークの成果をもとにビデオ等の映像を用いて、具体的かつ分析的にとらえる。とりわけ、歴史的遺産の継承とまちづくりの観点から、地域文化の振興について重点的に扱い、将来、文化行政などの仕事に携わろうとする者に役立つ内容を目指す。

【授業計画】

1. 地域文化とは～地域文化の概念～
2. 地域文化と地域振興～国の文化振興施策から～
3. 街道の文化～妻籠宿の町並み保存～
4. 街道の文化～奈良井宿の祭礼～
5. 旅の文化史～お伊勢まいり～
6. 名古屋の文化～城下町名古屋の構造～
7. 名古屋の文化～熱田神宮の特殊神事～
8. 奥三河の郷土芸能～鳳来寺田楽～
9. 奥三河の郷土芸能～黒沢田楽～
10. 高度成長と地域社会の変容～得たもの失ったもの～
11. 歴史的遺産の継承～文化を活かしたまちづくり～
12. 宮本常一の地域文化論～師から学んだもの～

【評価方法】

中間レポート及び試験による。

【テキスト】

『フィールドワークで探る民俗と地域文化』

産業社会論

谷口 茂

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

わが国産業社会の現状を把握し、その問題点を摘出し、改革策を探求する。そのさい、「人間適及的」あるいは「個人・集団・社会」という社会学独自の方法论を使用することにより、分析の特色を打ち出したい。

1. わが国労働者の特徴

労働者の質的構成の変化、労働者の需給関係の推移、労働者の生活と意識

2. リーダーシップ

リーダーシップの基礎理論、リーダーシップのタイプ、リーダーシップの事例研究

3. 日本の経営

日本の経営の背景と成立、日本の経営のメリット・デメリット、日本の経営の今後の動向

4. わが国産業社会の特徴

独占・寡占、企業集団、二重構造、産業構造

【授業計画】

講義方式で授業を進めていくが、小テストを数回実施し、これを採点・返却することによって、レポートの書き方を指導する。

【評価方法】

期末試験の成績を中心に、これに小テストの成績を加味して、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。その代わりに、資料を作成して配布する。

食文化論

千葉善根

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間が生活している所には食物があり、その地域、その国において長い歴史を経た独特の食品を作り出した。これらは人間と人間との交わりをとおして生活に結びつき、農耕文化や牧畜文化をつくり、交易・信仰・戦争などのかかわりをもって広がり定着したものである。わが国の食文化としてどのようにして受け入れられ、変化をしてきたか歴史・生活・文化をとおして考えるとともに多様な食文化に対する理解の道を探る。

1. 日本の食文化形成要因と食生活の変化について
2. 米食文化について
3. 麦食文化について
4. 乳食文化について
5. 肉食文化について
6. その他

【授業計画】

講義形式 VTRを数回使用する。

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

使用しない。

消費経済論

石田好江

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

「必要」の限界を超えることができた経済は、いま資源や環境など新しい限界に直面している。経済学の理論が資源・環境制約を理論に組み込まなければならないだけでなく、企業にとっても生き残るために、いまや企業利益と消費者利益の両立が重要な課題になっている。本講では、「消費」という視座で経済を捉え直すことによって、社会経済の変化と方向性をさぐってみたい。

1. 消費経済学の意義：いまなぜ、コンシューマー・サイド・エコノミーが必要なのか
2. 日本経済と消費者：規制緩和を中心に
3. 消費行動決定に関わる経済的要因
価格と消費行動
所得と消費行動
4. 現代の消費経済
内外価格差：日本の高物価をどう考えるか
流通革新
金融の自由化と預金
消費者信用と多重債務問題
PL法と消費者利益
グリーン・マーケティング
5. まとめ

【授業計画】

講義では、フィードバックシートを使用する。一つのテーマが終了した授業の最後に紙を配って、授業についての感想、質問、要望などを自由に書いてもらうものである。次の講義の最初に、その中からいくつかを選んで回答することによって、一方的な授業にならないようコミュニケーションをはかりたい。

【評価方法】

成績評価は定期試験の結果で行う。なお、出席率は受験資格にはしない。

【テキスト】

消費者のための経済学（水谷・呉・塩田編著 同文館 2,800円）

組織コミュニケーション論

榊原國城

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

組織コミュニケーションとは、組織の成員および成員の集団が行うコミュニケーションのことである。これをコミュニケーションの構成要素の観点から整理すれば、組織が、自己に関する情報を、受け手（組織の成員および組織外の人々）のニーズに応える形で体系化し、様々なメディアを通じて伝達する過程であると考えられる。したがって、この講義では、組織コミュニケーションを巡る種々の問題、すなわち、現代社会における組織の機能とコミュニケーションとの関わりの中で生ずる問題を、行動科学をはじめとする隣接諸科学における基礎的な理論に基づいて分析し、考察する。

【授業計画】

1. コミュニケーションの基本過程
2. 組織コミュニケーションのタイプと特色
3. 職場のコミュニケーションと人間関係
4. 組織成因の役割とコミュニケーション
5. 職場におけるストレスとコミュニケーション
6. リーダーシップとコミュニケーション
7. 女性のキャリア形成と組織コミュニケーション

【評価方法】

期末定期試験の成績によって評価する。出席率も成績評価の際に勘案する。また、総授業回数の3分の1以上欠席した場合は定期試験受験資格を喪失したものとみなす。

【テキスト】

人と組織の心理学（榊原國城著 1999 文教資料協会 定価2,048円）

地域開発論

竹村 弘

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

従来の「地方開発」は、主として産業開発・企業誘致により、地方に生産工場を建設し、経済を活性化し、雇用を増やし、所得を増やそうというものであった。戦後の経済復興から高度経済成長時代、日本列島改造時代を通じて、この地方開発が、わが国産業経済の大きな発展に寄与した。しかし、二度のオイルショックおよび円高ショックを経て、①わが国が安定経済成長時代に入り、従来のような産業開発・企業誘致が思うように運ばなくなったこと、および②国民全体が豊かになって、人々の関心が「もの」から「こころ」へ移ってきたことなどから、新しい「地域開発」が提唱されるようになった。

1. 地域開発概論：従来の「地方開発」が果たした歴史的役割を評価し、次いで、新しい「地域開発」が提唱されるようになった背景と、現在における「地域開発」の課題が何であるかを述べる。

2. 地方開発の光と影：地方開発が成功し、大きく発展した地域がある一方で、産業公害の被災地、衰退産業と共に疲弊した地域、農山漁村の過疎化など、暗い影を落とした地域もある。そうした中から、地域住民が自ら手を携えて、「地域づくり運動」に上がった。全国各地の「地域づくり運動」の代表的事例を紹介する。

3. 首都機能移転：首都機能移転は、東京の過大・過密、大規模災害対策、東京一極集中の是正、および、わが国経済社会の閉塞状態打破、人心一新の契機などの観点から、国会・行政を中心にその構想が推進されている。中部地域は移転先の有力候補地のひとつである。

4. 中部圏のビッグ・プロジェクト及び21世紀ビジョン：「愛知国際博」「中部新国際空港」などのビッグ・プロジェクトは地域の重点的な開発整備の大きなチャンスであるが、一方で自然破壊などの批判もある。21世紀中部圏のビジョンがどのようなものであるかを考察する。

【授業計画】

講義。

【評価方法】

毎回提出する『TEN MINUTES PAPER』および期末試験。

【テキスト】

配付プリント。

人口動態論

坂井 貞彦

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

世界人口の動き、人口問題と人口政策、日本の人口構造（年齢別、産業別など）と人口動態（出生、死亡、結婚など）の変化、将来人口の推計などを学ぶ。

【授業計画】

最近のおもな統計資料などをプリントとして配布する。

1. ガイダンス

人口学のあらましとその歩み。人口の変動と地域の発展との関連についての若干の実例。

2. 人口に関する統計調査

日本の統計制度、統計調査の種類、人口基本方程式など。

3. 世界人口の増加

古代から最近までの世界人口の時系列的変化とその分析。

4. 人口問題と人口政策

15世紀以降のヨーロッパ、日本における人口問題。20世紀後半から21世紀へかけての世界の人口問題。

5. 人口の年齢別構造と人口ピラミッド

年少人口比率など年齢別構造に関する基本指標の意義。

6. 死亡に関する統計

死亡率、標準化死亡率、主要死因の変化など。

7. 生命表と平均寿命

生命表の意義、作成方法、平均寿命の年齢別変化など。

8. 結婚と出生

未婚者の増加、出生率の低下についての基礎的な統計。

9. 労働力人口と就業人口

基礎的用語の解説、1920年以降の年次的変化と国際比較。

10. 少子化と高齢化

この問題へ世論、今後の社会経済への影響。

11. 将来人口の推計

国立社会保障・人口問題研究所の将来推計の解説。

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中レポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

【テキスト】

人口統計学（増補改訂版）（岡崎陽一 古今書院）
3,570円（税込）

地域分析論

岩橋亮輔

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会経済活動の主体が活動の拠点として地表のある一部分を占有することを立地という。いくつかの立地の集合体としての地域の研究は統計的データに基づいてなされるのが一般的である。このような研究を地域分析という。テキストを忠実に読みながら地域分析の基本的手法を修得することを目的とする。

【授業計画】

教科書の説明、補足を行ないながら特定地域についての実際の分析の例を挙げ、また自主的学習を促がす。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

地域分析入門（大友篤 東洋経済新報社 ¥3,200）

交通システム論

辻 紘良

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

交通は地域が活動し発展していくためには不可欠な動脈であると同時に、一人ひとりの住民として快適な日常生活を享受していくのに不可欠な手段であることを理解する。このため、地域交通が置かれた現状と課題を事例を通して学習するとともに、交通施設、道路等インフラ整備の現状と課題、ならびに自動車交通に関する安全・環境の諸施設の整備状況と問題点を理解し、それらの諸方策について考察する。

【授業計画】

身近な交通の問題から始め、次第に総合的な交通体系の問題へと論旨を展開する。講義とともにビデオ機器を用いて交通システムの実例や実験例を提示し理解を深める。

1. 地域交通体系の現状と課題
2. 地区交通計画
3. 地区交通の社会実験
4. 短距離交通システム
5. 交通と環境
6. 交通運用計画

この他、交通結節点、交通網の計画、自動車交通需要の推定、交通流制御などから適宜テーマを選択し解説する。

【評価方法】

数回の小テストと期末試験の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】

使用せず。プリント配布。

【参考書籍】

「交通計画学」（樗木・井上共著 共立出版）

日本経済論

竹村 弘

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

わが国は、歴史的には過去長らく、欧米先進国に比べ産業経済の発展が遅れ、国民の生活水準の低い国であった。わが国が世界有数の「経済大国」に成長したのは、高度経済成長を達成した後のことである。

しかし、国民一人ひとりには「豊かさの実感がない」と言われ、従って、これからは国民生活の豊かな国をどのように実現していくかが課題であるが、一方で、バブル経済崩壊以降、わが国産業経済は久しく低迷を脱しきれず、かつ、行・財政改革、金融改革、教育改革等歴史的とも言える大変革を迫られている。

1. 日本の見当識：わが国の経済社会指標を欧米先進5か国と比較することにより、「経済大国・日本」「生活小国・日本」「安心安全大国・日本」の実態を理解する。次いで、日本の経済社会・百年を回顧し、高度経済成長期以降の発展の軌跡を辿ることにより、現在わが国経済社会が大きな転換期にあること認識すると共に、21世紀に向けて今後を展望する。

2. 経済指標の見方：わが国経済を正しく理解するためには、経済指標の理解が必要である。国内総生産、個人消費、家計調査、海外統計、物価、雇用指標、景気動向指数など、主要な経済指標について解説する。

3. バブル経済と平成の『10年大不況』：「バブル経済」の生成は、貿易不均衡・貿易摩擦・円高圧力などに気をとられた極端な金融緩和・低金利政策および目いっぱい財政出動に起因するものであり、その崩壊は慎重さを欠く金融引き締め政策・地価規制政策によるものである。その後も、バブル崩壊の後遺症の認識の甘さから処理が遅れ、更に重なる不適切な政策運営により、建設・不動産、金融・証券業の大型倒産など混迷を深め、平成の『10年大不況』に陥っている。

【授業計画】

講義。

【評価方法】

出席票、期末試験。

【テキスト】

配付プリント。

マーケティング論

村松幸廣

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

マーケティングの基本的概念と仕組みについて理解を深めるとともに、企業・組織におけるマーケティング活動の重要性やマーケティング・マインドについて考える能力を身につけてほしいと考えている。

【授業計画】

1. マーケティングとは
2. 企業・組織の諸活動
3. マーケティングの考え方
4. マーケティングの基本フレーム
5. マーケティング調査
6. プロダクト・プランニング
7. セールスプロモーション
8. マーケティング・チャンネル
9. 消費者行動とマーケティング
10. マーケティング・ミックス
11. マーケティング戦略とプロダクトライフサイクル
12. グローバル化とマーケティング
13. Eコマースの発展

【評価方法】

レポート、発表、定期試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

現代マーケティングと消費者行動（松江宏編 創成社）

産業・組織心理学

榊原國城

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

この講義では、会社や役所、あるいはその他の団体などの組織における人間の職務遂行行動や対人関係に影響を及ぼす心理学的要因を明らかにしていくことを目指す。その際、人間（集団を含む）の行動を、行動主体とそれをとりまく組織的環境との相互依存関係としてとらえる。したがって、この講義では、組織で働く人間の能力や意識・行動が、人間の置かれた外的環境（仕事、他者、集団、組織構造など）との相互作用過程において、主たるテーマになる。以上の視点に基づいて、最近の研究動向を踏まえて、新たな産業社会を展望する。

【授業計画】

1. 産業心理学の発展
2. 科学的管理法とホーソン研究
3. 職業選択と職業適応
4. 適性とパーソナリティ・アセスメント
5. 動機づけと職務満足
6. 組織の機能
7. 組織における職務と組織成員の役割

【評価方法】

期末定期試験の成績によって評価する。出席率も成績評価の際に勘案する。また、総授業回数の3分の1以上欠席した場合は定期試験受験資格を喪失したものとみなす。

【テキスト】

人と組織の心理学（榊原國城著 1999 文教資料協会 定価2,048円）

労働社会論

石田好江

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

労働市場や労働者の就業行動が、人口構成の変化、産業構造、技術革新、国際情勢といった要因からどのような影響を受け、どう変化してきているかを理解する。また、今日大きな課題である「日本的雇用慣行」の問題や「ジェンダーと労働」の問題についても考える

1. 「労働」の系譜
2. 日本の労働市場
3. 労働者の就業行動
4. 日本の雇用慣行
5. ジェンダーと労働
6. 雇用構造の多様化
7. 日本の雇用慣行の変化
8. 高齢社会の労働・労働市場

【授業計画】

一つのテーマが終了した授業の最後にフィードバック・シートを配布し、授業についての感想、質問、要望などを書いてもらう。次の授業の最初に、その中からいくつか選んで回答することによって、一方的な授業にならないようコミュニケーションをはかりたい。

【評価方法】

成績評価は定期試験の結果で行う。なお、出席率は受験資格にはしない。

【テキスト】

新版 労働経済（永山武夫編著 ミネルヴァ書房）

地方自治体論

坂井貞彦

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

前半：地方自治の意義、日本における地方自治制度の変遷、地方自治体に関する法令制度について学ぶ。

後半：愛知県内の最大の市である名古屋市の歴史、現状、将来計画などを概観し、地方自治体への理解を深める。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. 地方自治の意義と法体系、憲法と地方自治法
2. 明治以降の地方自治制度の変遷と現行制度
3. 地方公共団体の種類、区域及び住民
4. 地方公共団体の事務
5. 地方公共団体の議会と法規
6. 地方公共団体の執行機関、議会との関係
7. 地方公共団体の財務（予算、会計、公の施設）
8. 地方公務員
9. 名古屋市の歴史（明治以降）
10. 名古屋市及び区の組織
11. 名古屋市の経済産業
12. 名古屋市の暮らしと文化
13. 名古屋市の将来計画

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。（毎回、出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考書籍】

- 地方自治制度 第5次改訂版（久世公堯 学陽書房）
- 21世紀への名古屋（愛知淑徳大学地域産業研究会 中部日本教育文化会）

（注）地方自治制度 第5次改訂版は 平成12年4月ごろ発行の予定です。

地域福祉論

後藤卓郎

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

今我が国の社会福祉は、少子高齢社会の到来を背景として、全ての分野にわたり、地域福祉の構築を指向して大改革が進められている。そこで本講義は、地域福祉の基本理念を踏まえて、とりわけ緊急課題である老人福祉を中心に、地域福祉の現状と課題を明らかにし、今後の望ましい在り方を考察することを目標に展開したい。

1. 地域福祉を考えるために—今日の社会福祉をめぐる動向—
2. 地域福祉の概念と構成
3. 地域福祉の歴史
4. 地域福祉の方法・展開過程
5. よりよい地域福祉の構築を目指して—地域福祉の担い手の現状と課題—

【授業計画】

各授業時間毎に、レジュメと資料を配付し、それに基づいて講義を行う。

【評価方法】

学期末試験、出席状況及び提出物等を総合して評価を行う。

【テキスト】

地域福祉を学ぶ仮称（後藤卓郎他編・著 （株）みらい）

都市政策論

高橋 肇

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

戦後日本社会は高度経済成長を経て、全国的かつ本格的に都市型社会へと突入した。都市型社会への発展は大量消費型の市場の展開と不可分であった。本講義では、この都市型社会における市民自治・住民自治の問題と課題について考える。官治・集権型社会から自治・分権型社会への転換の展望およびその際の政策課題についても考える。

戦後日本における都市型社会への移行過程およびその中で生じたさまざまな都市問題について歴史的に概観する。都市政策の歴史的展開についても概説しつつ、主として現代都市政策および都市政治をめぐる諸問題について講義する。

【授業計画】

現代の都市政策・都市政治をめぐるトピックスをとりあげながら、現代の都市問題についての考察を進めていく。そうした中で、戦後日本の都市問題・都市政策・都市政治の展開と現状と課題についての基礎的な事項について概説していく。

【評価方法】

学期末試験（またはレポート）及び講義中随時提出を求めるレポート等によって評価する。

【テキスト】

都市政策の思想と現実（宮本憲一 有斐閣）

民俗学

谷沢 明

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折り目にあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 日本民俗学のあゆみ～柳田国男の役割～
11. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

【評価方法】

中間レポート及び試験による。

【テキスト】

『フィールドワークで探る民俗と地域文化』

地域社会演習 I a・b

石田好江

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

前半は、消費・流通経済、生活経済（消費生活に関わる社会・経済政策を含む）、消費行動に関わる理解や問題意識を深めることを目的に、関連する文献や論文を読みあい、ディスカッションを行う。

後半は、前半で学んだことを基礎に各自テーマを設定し、研究する。その成果は順番に発表し、そこでの討議やコメントをふまえ、最終的にレポートとして提出する。

1. オリエンテーション

演習の目的、プレゼンテーションの方法、レジュメ（ハンドアウト）の作成方法など

2. 文献講読

文献は、基礎的でありながら、新しい問題提起、パラダイム（理論の枠組み）の問い直し、通説の批判などを含んだものを選びたい。したがって文献講読を通じて基本的な知識を身につけるとともに、消費経済をめぐる新しい動きの理解をめざしたい。

3. 個人研究・発表

研究方法について
個人研究・発表

【授業計画】

前・後期とも学生の発表とディスカッションを中心に進める。発表者とコメンテーターは予め決めておく。また発表者は事前にレジュメ（ハンドアウト）を提出する。

【評価方法】

前期は発表内容及び演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。後期は個人研究の発表、レポート、演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。

【テキスト】

マーケティング戦略（和田・恩蔵・三浦著 有斐閣）
その他は未定。

地域社会演習 I a・b

岩橋亮輔

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

経済地理、地域分析および立地分析に関心を持つものを対象に経済地理を中心として指導する。

【授業計画】

共通の話題としてテキストを選び、よく熟読した上で毎回報告、または発表を行ない、参加者の学力・知識の均等化を目指す。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

経済地理学入門－地域の経済発展－（山本健児著 大明堂 ¥3,450）

地域社会演習 I a・b

坂井貞彦

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

日本の人口問題である少子化・高齢化、これの社会産業への影響及び人口政策、世界の人口問題である急速な人口増加と各国の人口政策について、統計資料を参考にし分析する。(20世紀、21世紀前半を主な対象とする。)

【授業計画】

①担当教員の講義、②学生の発表と討議を併用する。

前期は①を主とし、後期は②を主とする。

②の場合、テキストの節別に発表担当者をあらかじめ定める。担当者はあらかじめレジュメを作成し、発表のさい全員に配布する。

〈前期〉

1. 人口統計資料の利用・分析手段の学習(テキスト①)
2. 日本の人口の現状について(テキスト②)

〈後期〉

3. 人口問題と人口政策(明治以降現在までと将来人口)(テキスト③)

【評価方法】

発表と討議への参加、別途提出を指示するレポートの内容を総合して行う。

【テキスト】

- ① 人口分析ハンドブック(岡崎陽一 古今書院)
- ② 人口ランキング(藤田峯三 大蔵省印刷局)
- ③ 日本人口論(岡崎陽一 古今書院)

地域社会演習 I a・b

榎原國城

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

この演習の主題は、現代社会における様々な問題に対して、科学的な視点に基づいて対処できる基本的な態度を身につけることである。具体的には、科学的資料の収集法としての調査法と、データ解析手法の習得である。多人数を対象として同一質問に対する回答を求め、それらを分類し、分析して人間理解を進める手法が調査法である。

演習 I aでは、統計パッケージ・プログラム「HALBAU」に基づいて、調査資料の統計的データ解析の概念の理解とデータ解析手法の体得を目指す。演習 I bは、受講学生の設定したテーマに基づく調査票の作成・調査実施・回収・集計・分析・報告書作成までの全過程の演習である。

前期(演習 I a)：データ解析演習

1. オリエンテーション
2. HALBAUの特徴
3. データ・ファイルの作成
4. 質的データの分析
5. 量的データの分析

後期(演習 I b)：質問紙調査法演習

1. オリエンテーション
2. 調査計画立案
3. 調査票作成と調査実施
4. 調査結果の分析
5. 報告書の作成

【授業計画】

前期(演習 I a)は統計解析パッケージ活用法をマスターするためのコンピュータ実習。

後期(演習 I b)は質問紙調査法の実際を体験するグループ作業による実習。

【評価方法】

前期末および後期末にそれぞれレポート提出を課し、その内容によって評価する。なお、演習への参加態度の逐次評価も行う。

【テキスト】

HALBAUによるデータ解析入門(高木廣文・佐伯圭一郎・中井里史著 1989 現代数学社 定価1,854円)

地域社会演習 I a・b

竹村 弘

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

「日本経済と地域開発」の研究を通じ、将来、企業・地方公共団体などにおいて、主体的に事業計画を企画、立案、遂行する能力を養成し、また、一人の市民として地域づくりに発言し、参加し、行動できる実力を身につけることを目的とする。

1. 「文献講読」

広く「日本経済と地域開発」に関する文献を講読することにより、基礎知識から詳細な専門的知識まで広範な知識および方法論を習得する。

輪読、討論、専門家等との意見交換などにより、一層の理解を深めるとともに、自発的思考能力を高め、問題意識の喚起を図る。

最初の段階で、ディベート・EQトレーニングを行う。これは、論理的かつ効果的に組み立て、好感の持てる話術で、穏やかに、辛抱強く、時にユーモアを交えて、自己主張するためのトレーニングである。

2. 「サブゼミ」

春合宿、夏合宿、サブゼミにおいて、少人数のグループによる共同研究、グループ討論、合同発表会、およびレポートの共同作成を行う。互いに切磋琢磨し、グループ活動を遂行する過程でリーダーシップ、協調性、友情を培うとともに、次のステップである個人研究のテーマ発掘につなげる。

グループ研究では自らの問題意識に基づき、自主的に選択したテーマについて、調査分析を行い、「調査レポート」を作成する。夏合宿で「中間報告」の全体討論を行い、学園祭展示、他大学合同ゼミ等で外部との討論を行うにより、内容の一層の充実を図り、かつ、説得力のある説明、質疑・批判に対する明快な応答など、ディベート能力の向上を図る。

【授業計画】

講義、討論、発表、グループ研究。

【評価方法】

討議、グループ研究など総合的に評価。

【テキスト】

文献講読などで数冊。

地域社会演習 I a・b

谷沢 明

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

地域文化や地域の民俗をフィールドワークをとおして学ぶ。フィールドワークとは、実地調査・野外研究のことである。各自が関心を持ったテーマを、「あるく・みる・きく」という行動をとおして追求することを演習の中心とする。データ収集には、理屈をぬきにして「足」をつかう。また、好奇心を持ってなんでも観察し、小さな発見を積み重ねていく。さらに、謙虚な気持ちで土地の人々に接し、そこから学んでいく。この三つを根気よく続け、レポートにまとめ、ゼミ発表をおこなう。

【授業計画】

前期：共通したフィールドで野外研究をおこない、フィールドワークの基礎を学び、レポートのまとめ方の訓練をおこなう。

3月：ゼミ合宿（飛騨地方：2泊3日）

4月：フィールドワーク中山道妻籠宿（日帰り）

5月：フィールドワーク（日帰り）

6月：フィールドワーク（日帰り）

7月：調査研究計画書の作成、及び個別研究指導

8月：ゼミ合宿（木曾地方：2泊3日）

後期：各自がテーマを設定し、その関心に基づいてフィールドワークをおこない、成果を発表する。そして、調査研究論文作成の基礎がためをおこなう。

10月～各自がテーマに基づいてフィールドワークを実施する。

11月：大学祭でプレゼンテーション（パネル展示）

1月：調査研究論文作成に向けての個別研究指導

【評価方法】

フィールドワークへの参加、観察レポート、発表、プレゼンテーション等でおこなう。

【テキスト】

テキストは使用せず。

地域社会演習Ⅰ a・b

千葉善根

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

食べものと文化

「禽獣は喰らい、人間は食べる。教養ある人にしてはじめて食べ方を知る」 『美味礼讃』より

即ち、人間が「食べること」には精神的・社会的な意味が加味されている。こうした動物とは異なる人間独特の食のあり方が食文化である。

各地に数多くある食品（または素材）および話題について、食文化形成要因や他の地域の食とのつながり、食と人間とのかかわりなどを視野に入れて討議し、今後の食文化や食生活について考察する。

【授業計画】

1. 各自、種々の資料をもとに各地の「特色のある食、伝統的な食、地域特有の食、美味しいもの」などからテーマを自主的に選択し要約・発表する。
2. 前半はできるだけおおくのテーマ（食）について幅広い知識を身につける。
3. 各発表に全員が参加し討議する。
4. 必要に応じて見学、調査、試食などを考える。

【評価方法】

発表・討議、レポート、出席など総合して評価。

【テキスト】

使用しない。

地域社会演習Ⅱ a・b

石田好江

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

演習Ⅰにおいて深めた問題意識の上に立ち、各自があたためてきたテーマを、さらに「研究」にふさわしいものにしていく。前半では、そのために必要な方法論を中心に学び、後半では、その成果を発表する。

前期は、演習Ⅰの基礎的な理解の上にならって、消費経済をめぐる周辺領域（社会学心理学など）の文献、あるいは近年の消費行動や購買行動を分析した論文を取りあげ、より消費経済の理解を深めることをめざす。

後期は、個人研究の発表を中心に進める。各自が3年後期から進めてきた個人研究を発表するとともに、2年間の演習の集大成としてレポート（あるいはゼミ論文）の形でまとめる。

【授業計画】

前・後期とも学生の発表とディスカッションを中心に進める。発表者とコメントーターは予め決めておく。また発表者は事前にレジュメ（ハンドアウト）を提出する。

【評価方法】

前期は発表内容及び演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。後期は個人研究の発表、レポート、演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。

【テキスト】

未定。

地域社会演習Ⅱ a・b

岩橋亮輔

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

経済地理、地域分析・立地論の範囲において、各自が最も関心を持つ所について詳しく研究、あるいは調査を行ない、その結果を逐次発表させる。

【授業計画】

必要に応じ、個別指導を行なう。

【評価方法】

報告・発表とレポートによる。

【テキスト】

個別に指示する。

地域社会演習Ⅱ a・b

坂井貞彦

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

古代から最近までの各国の人口政策を学習する。これと演習Ⅰの学習をふまえ、日本人口または世界人口について各人ごとにテーマをきめて、レポートをまとめる。

【授業計画】

前期は、各国の人口政策について、演習Ⅰと同様の方法の「学生の発表と討議」を主に行なう。

後期は、日本人口または世界人口の現状と展望に関して各人ごとにテーマを選択し、レポートを作成し、発表し、全員で討議する。

【評価方法】

成績評価はレポート、発表及び討議への参加を総合して行う。

【テキスト】

現代人口政策論（岡崎陽一 古今書院 3,150円（税込））

【参考書籍】

1. 日本の人口移動（大友篤 大蔵省印刷局 1,937円（税込））
2. 女性のライフサイクルと就業行動（大淵寛編 大蔵省印刷局 1,600円）
3. 職業からみた人口（田辺裕編 大蔵省印刷局 1,600円）
4. 人口高齢化と高齢者（嵯峨座晴夫 大蔵省印刷局 1,600円）

地域社会演習Ⅱ a・b

榊原國城

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

この演習の目的は、学生自身の個人研究活動を通じて、判断力・理解力・総合能力を涵養し、問題に対する客観的、科学的態度を身につけることにある。

- ・原則として、産業・組織心理学および組織コミュニケーション論の領域において、自らの学問的興味や関心によって研究テーマを設定する。
- ・担当者の指導を受けながら、自己のテーマについて積極的に学び、問題を発見し、問題の解決に向け、これまでに身につけた科学的方法を適用していく。
- ・演習を通して行った研究の成果を研究論文としてまとめる。

演習は、学生の研究活動の各段階ごとに、個人発表および討議によって進められる。

1. 講読演習

参考文献 (E. F. ストーン著 鎌田伸一・野中郁次郎訳 1980 組織行動の調査方法 白桃書房) に基づく、問題・仮説、変数、研究デザインなどのテーマについての講読演習。

2. 発表・討議

- ・問題の設定 ・文献研究 ・研究目的の明確化 ・方法の検討 ・データの収集 ・結果の集計・分析・考察

【授業計画】

毎回数名の発表者が、予め用意したレジュメに基づいて発表し、それらに対して他の参加者がコメントするという方式。

【評価方法】

演習への参加態度および期末に提出される研究論文の内容によって評価する。

【テキスト】

HALBAUによるデータ解析入門 (高木廣文・佐伯圭一郎・中井里史著 1989 現代数学社 定価1,854円)
心理学実験レポートの書き方 (B. フィンドレイ著 細江達郎・細越久美子訳 1996 北大路書房 定価1,500円)
組織行動の調査方法 (E.F. ストーン著 鎌田伸一・野中郁次郎 1980 白桃書房 定価2,400円)

地域社会演習Ⅱ a・b

竹村弘

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

目的は、「演習Ⅰ」で述べたように、実社会においてプロジェクトを主体的に立案、遂行する能力を養成し、また、一人の市民として地域づくりに発言し、行動できる実力を身につけることである。「演習Ⅱ」においては、一人ひとりの問題意識に基づき、個人研究として地域活性化プロジェクト等の「事例調査」、「企画提案」、「論文作成」を実施する。地域開発は、本来、地域住民が地域住民のために自ら行うべきものであるから、それぞれ「自立する地域づくり」に向けて、有用な提言を行うことを最終目標とする。

1. 「事例調査」

近年、各地で活発に展開されている地域活性化プロジェクト等について事例調査を行い、その背景、着眼点、プロセス、効果などを分析する。

2. 「企画提案」「論文作成」(ゼミ論)

事例調査・企画提案を統合して論文(ゼミ論)を作成する。中間報告で全体討論、意見交換を行い、論旨展開、実証資料、理論構成等の一層の充実を図る。

【授業計画】

講義、討論、発表。

【評価方法】

討論、「提言論文」など総合的に評価。

【テキスト】

文献講読などで数冊。

地域社会演習Ⅱ a・b

谷沢 明

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

地域文化や地域の民俗をフィールドワークをとおして学ぶ。3年次後期に各自がテーマを設定し、その関心にもとづいておこなった「地域社会演習Ⅰa・b」のフィールドワークの成果を基礎に、そのまとめをおこなう。ゼミでは、学生の発表にもとづき、調査研究論文の作成の指導をおこなう。後期は、文献の講読をおこなう。

【授業計画】

前期：各自が設定したテーマに基づき、それぞれが、発表とそのまとめをおこなう。

4～7月：発表とまとめ

8月：個別研究指導

9月：調査研究論文の提出（これを卒論として提出することができる）

後期：宮本常一『家郷の訓』（岩波文庫）をテキストとして講読をおこなう。

10～12月：『家郷の訓』講読

1月：卒業論文発表会

【評価方法】

発表、調査研究論文の内容等でおこなう。

【テキスト】

前期はテキストは使用せず。後期は宮本常一『家郷の訓』（岩波文庫）をテキストとする。

地域社会演習Ⅱ a・b

千葉善根

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

演習Ⅰにおいて身につけた知識の上に立ってテーマを大きく設定し、多岐にわたる地域特性（例えば気候風土、地形、交通路、都市形成の歴史と背景など）を考慮し、地域間の食文化の比較などさまざまな食と人間とのかわりについて深く調査・研究するとともに将来の望ましい食文化を考える。

【授業計画】

○各自がテーマを自主的に設定、計画的に調査・研究し逐次発表する。

○各発表に全員が参加し討議する。

○随時、個々に指導助言する。

○必要に応じて見学、試食などを考える。

【評価方法】

発表・討議、レポート、出席など総合して評価。

【テキスト】

使用しない。

経済交流史

清水 洋

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義では、19世紀末から現在に至るまでの日本とアジア（とりわけ東南アジア）の経済交流を、移民・通商・金融・直接投資・政府開発援助などの側面から体系的に考察し、アジアに関する理解を深めることを意図する。明治以降、我が国は「脱亜入欧」を重視し、欧米の工業諸国を手本としてきたため、アジアにあまり目を向けてこなかった。しかし、1960年代以降、一部のアジア諸国が積極的な外資の導入によって中進国（NIES）として台頭する一方、中国は78年以降大胆な経済改革と対外開放政策によって急速な経済発展を達成しており、日本でも近年アジアへの関心がとくに高まっている。このような時期に、日本とアジアの経済交流史を学ぶことはとりわけ意義があると思われる。

【授業計画】

講義を主体とするが、ビデオ・OHCなどの視聴覚設備も適宜使用する。

- 1) 東南アジアにおける日本の経済活動ー過去と現在
- 2) 東南アジアにおける初期日本人移民の経済活動
- 3) 蘭印（現・インドネシア）における日本人移民の経済活動ーからゆきさん
- 4) 英領マラヤ（現・シンガポールとマレーシア）における日本人移民の経済活動ーからゆきさん
- 5) 在日華僑商人とアジア内華僑貿易ネットワーク
- 6) 戦前期シンガポールにおける日本人漁業
- 7) 太平洋戦争期の東南アジアにおける日本の経済活動
- 8) 戦争賠償問題と日本の対東南アジア経済回帰
- 9) 東南アジアの経済発展における日本の役割
- 10) その他

【評価方法】

定期試験が主体となるが、レポートも考慮に入れる。

【テキスト】

からゆきさんと経済進出ー世界経済のなかのシンガポール・日本関係史（清水洋・平川均共著 コモンズ）

国際金融論

秦 忠夫

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

国際間の経済取引は経常取引（商品・サービスの輸出入）と資本取引に大別されますが、いずれの面でも取引の自由化が進んで世界経済は相互依存関係を深めています。こうした動きのなかで、世界の共通通貨が存在しない今日、国際経済取引の決済にあたっては異種通貨の交換（例えば円とドル）が必要となり、その交換比率（為替相場）が変動すると個々の取引が影響を受けるのみならず、一国あるいは世界の経済活動全体にも影響が及びます。実際、変動相場制と呼ばれる現在の国際通貨制度のもとでは、為替相場の変動が激しく、世界経済の成長が時として攪乱されています。この授業は、世界経済の結びつきを通貨・金融面から理解するための基礎知識の習得をねらいとしています。

大まかな構成としては、①外国為替取引のしくみと実態（外国為替のしくみと形態、外国為替相場、外国為替市場、為替リスクヘッジの手法）、②マクロ経済分析の視点から通貨問題を理解するための基礎知識（国際収支のしくみ、為替相場と国際収支、為替相場の決定理論）、③国際通貨制度の歴史と現状（国際通貨制度のしくみ、国際通貨制度の変遷、ヨーロッパの通貨統合、国際通貨制度改革、円の国際化）という順序でテーマを展開します。

【授業計画】

講義。節目で小テスト実施。

【評価方法】

期末試験と小テストを総合して評価。

【テキスト】

『国際金融のしくみ』（秦忠夫・本田敬吉著 有斐閣 1,800円）

【参考書籍】

授業の際、適宜紹介。

国際経済論

村主英雄

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現在世界経済のグローバル化の一層の進展とともに、各国経済の相互依存関係が深まり一国の経済改革も他国への影響を顧慮せずには実行できない。このような展開を把握するためには、国際経済を動かす基本モデルを正しく理解する必要がある。そのひとつは、国際マクロ経済の分野でGNPなど国民所得の概念とその開放経済体制のメカニズムであり、ふたつ目は比較優位に代表される国際貿易論である。本講義ではこれら二つに重点をおいて授業を行う。

(前期・後期とも半期で完結)

1. 国民所得の諸概念
マクロの需給均衡とGNPの決定
貯蓄・投資バランス
国際収支表の構成原理
国際通貨制度
為替レートの決定
2. 国際貿易の基礎理論
比較優位と国際貿易
国際貿易の利益
生産要素の賦存と国際貿易
製品差別化と独占的競争
3. 貿易政策の理論
自由貿易主義と保護貿易主義
消費者余剰と生産者余剰
4. 国際貿易システムと地域経済統合
GATTからWTOへの発展
地域経済統合の動き

【授業計画】

基本的にテキストによるが、テーマに応じ随時プリントを配布して補う。

【評価方法】

期末テストおよび出席による。定期試験は穴埋めの形式および択一式併用。

【テキスト】

改訂 現代国際経済論 (I) (II) (村主英雄著 自費出版 各分冊とも400円 計800円)

アジア経済論

清水 洋

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

近年、「北」の先進国と「南」の発展途上国との間の経済格差が一段と拡大し、「南北問題」が深刻化している。しかし、1960年代以降、一部のアジア諸国が急速な工業化を遂げるとともに、70年代には中東産油国などの所得が原油価格の高騰により増大した結果、途上国の間でも大きな格差が見られるようになった。また、今日の複雑な世界経済においては、ヒト・モノ・カネなどが国境を越えて移動し、従来の国際分業論では先進工業国と途上国との経済関係を十分に説明できない。

本講義では、植民地時代および独立後におけるアジア地域(とりわけ東南アジア)の経済発展の内的・外的要因を分析し、域内の諸国間で貧富の差が生じた背景を探ることを意図する。なお、社会的・民族的・文化的・宗教的、政治的要因は非経済的要因であるが、同地域の経済発展と密接な関係があるため併せて検討する。

【授業計画】

講義を主体とするが、ビデオなどの視聴覚機器も適宜使用する。

- 1) 「アジアの貧しい国」、「アジアの豊かな国」
- 2) モノカルチャー経済、国際分業論、開発独裁
- 3) 欧米列強支配化のアジア
- 4) アジア系移民と多文化・多民族国家の形成
- 5) 輸入代替工業化から輸出志向工業化への開発政策の転換
- 6) アジア諸国の開発独裁
- 7) アジアの工業化と進出日系企業の役割
- 8) その他

【評価方法】

定期試験が主体となるが、レポートなども考慮に入れる。

【テキスト】

東南アジアの経済 (鈴木峻著 御茶の水書房)

欧米経済史

藤瀬浩司

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会は資本主義という社会システムからなっています。この講義では、資本主義が西ヨーロッパ社会の中から誕生し、イギリスの産業革命を経て、世界システムとして成立する過程を検討します。

【授業計画】

テキストを中心に進めます。

【評価方法】

授業への参加状況と期末のテストによって評価します。

【テキスト】

欧米経済史—資本主義と世界経済の発展（藤瀬浩司著 放送大学教育振興会 1999）
講義と平行してテキストをよく読むこと。

日本政治外交史

西尾林太郎

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

「19世紀後半から1920年代にかけての日本の政治外交」日本における近代国家の成立とその展開過程について、政治・外交を中心に理解すると共に、現代日本の政治・外交や社会を考察する視点を形成することを目的とする。なお、高等学校で「日本史」を履習している必要はない。

【授業計画】

1. 徳川幕藩体制と幕末維新の政治と外交
 - ①近世の徳川幕藩体制下の政治システムや社会のルール。
 - ②鎖国下における最大の友好国は李氏朝鮮であった。
 - ③政治的・経済的統合を目指して、天皇政府はどのような施策を打ち出したか。
 - ④沖縄の廃藩置県は明治12年＝1879年であった。
2. 明治憲法体制の成立とその外交
 - ①憲法制定に向けての動きが明治1ケタ代にすでに始まっていた。
 - ②大日本帝国憲法と教育勅語。
 - ③朝鮮半島をめぐる日清、日露間の対立。
 - ④政友会の成立。
 - ⑤日露戦争が、明治憲法体制における“民主化”を促進した？
 - ⑥欧米列強の了解のもとで韓国併合がなされた。
3. ワシントン体制と大正デモクラシーの時代
 - ①「満蒙」の権益の確保と拡大。
 - ②第1次大戦後、アメリカは日本を明確に仮想敵国として考えていた。
 - ③原敬の政治的リアリズム。
 - ④関東軍は沸とうしつつある中国ナショナリズムへの恐怖と満蒙問題の“抜本的解決”を目指した。

【評価方法】

評価は出席状況と試験による。試験は自筆ノートと教科書の持込を許可する。コピーは持込不可。

【テキスト】

新詳日本史図説（浜島書店 800円）（P114～209ページを主に使用する）。

国際情勢論

青島 宏

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

第二次大戦後の国際政治の在り方は冷戦終結により激変し、新しい国際秩序はまだ見えてこない。日本人が今後国際的に活躍するためには、現代の国際社会の流れをできるだけつかんでおく必要がある。半世紀続いた冷戦構造の変化をたどりながら、国際連合など国際機関・組織についての基本的知識を身につけさせるとともに、混迷を続ける冷戦後の国際情勢の読み方を考える。

〔ガイダンス〕国際情勢を動かす力は経済、政治、その背後にある文化、民族性などがある。地理、風土や歴史などを含めた地政学視点の重要性を述べる。

〔国民国家とは〕現代の国際情勢を動かす原動力となった国民国家を理解させるために、古代国家から近代の国民国家への成立の歴史でのフランス革命などの意義。

〔冷戦構造の始まり〕現在の国際関係の基本的構造の源は第二次世界大戦にある。いわゆる冷戦構造とは何か、大戦末期のヤルタでの米、英、ソ連の首脳会談など。

〔冷戦構造の変遷〕いわゆるヤルタ体制として冷戦構造が定着する国際情勢の変化を「ブラハの春」やハンガリー動乱などとソ連、米国、西欧政治との関わりを解明する。冷戦構造は不変ではなく、デタントなど様々なバリエーションが現れた。ゴルバチョフソ連共産党書記長の登場で冷戦構造の消滅が始まる。東欧の激動に続くベルリンの壁崩壊で冷戦構造消滅は決定的になり、バルト三国独立、ソ連消滅へとつながる。

〔冷戦後の世界〕冷戦構造消滅により、地域紛争が世界各地で多発している。紛争の性格は地域の歴史的背景によって異なる。湾岸戦争、中東和平への動き、ベルリンの壁崩壊につづいて発生した東欧の変化などを手掛かりに、新しい国際秩序への動きを考察する。

【授業計画】

理解を助けるために地図、スライドを多用する。

【評価方法】

レポート提出による。

【テキスト】

使用せず。

日米外交論

山澤啓造

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

アメリカ合衆国は米西戦争から、日本は日清戦争から、列強の東アジアを舞台とした帝国主義争覇戦に加わる中で、現代国家として成長していった。日米両国ともに発展途上国であった。しかし、それから1世紀後の現在は、社会主義諸国の成立と崩壊・変質（冷戦の終了）や第一次・第二次世界大戦ならびにEUの成立などの画期的な諸史実に遭遇しながら、日米両国ともに世界の指導国家として活躍する状況となった。

この間の日米外交は対立と協調の関係にあったが、「日米外交論」は日米外交を第二次世界大戦開始前後から20世紀末までの現代史まで、アメリカ合衆国（と日本）の政治・外交に焦点をあてながら、現代の冷戦後の激動する国際政治を考え、21世紀の世界と日本を展望しようとするものである。

【授業計画】

- ①アメリカ大統領は、国家元首であり、内政・外交の最高責任者であり、陸海空および海兵隊の最高指揮官である。このアメリカ大統領に焦点をあてながら、第二次世界大戦前後から現在の世界までを考察する。
- ②contemporary historyである。テキストには、図表、現代史を見る眼、第二次世界大戦勃発前後から現代までの11名のアメリカ大統領の略歴と内政・外交、大統領選挙が記されている（第一章～第十一章）。真珠湾攻撃、原水爆投下・核実験問題、北方領土問題、などの諸問題も文章中に取り上げられている。エネルギー問題、環境問題にも触れるはずである。
- ③1990年代の日米外交
- ④テキストに沿って授業を進めるので、予習することが望ましい。学生の質問や討議を歓迎する。

【評価方法】

定期試験と出席などで評価する。

【テキスト】

第二次世界大戦後の世界…FDRからクリントンまで…
(山澤啓造著、平成12年、新訂版、自費出版)

比較政治論

西尾林太郎

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

政治的近代化と議会政治を主軸とした日本、中国、韓国、イギリス等の比較研究と比較政治文化論。

【授業計画】

- ①政治的近代化とは？
- ②中国、韓国、日本の近代化と議会政治
- ③西欧諸国の近代化と日本
- ④イギリスの議会政治
- ⑤フランス、ドイツの議会政治
- ⑥日本の議会政治とイギリス

【評価方法】

試験と出席状況による。

試験は教科書と自筆ノートおよび授業中配布した資料の持込を許可する。

【テキスト】

現代政治学の基礎（西尾林太郎 早稲田経営出版 2,000円）（テーマ1、11、12、19、21、23）。

国際法

初谷良彦

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

国際法は、国と国との関係を定める法である。数百年に及ぶ歴史の展開の中で、現代の国際法は地球社会の大変動を反映して、重大な転換期に入っている。地球環境の保全、難民の保護、人権保障、安全保障などこれまでに見られなかった新しい問題をできるだけ取り上げ、できるだけ身近なものとして国際法を理解してもらいたい。

【授業計画】

- 第1回 国際法の基本
- 第2回 条約（条約の締結、条約の適用、条約の無効と終了）
- 第3回 国家（国家の種類、国家の承認、国家の基本権）
- 第4回 国際組織（国際連合、その他の国際組織）
- 第5回 国家領域（南極、宇宙、日本の領土問題）
- 第6回 外交（外交関係、外交特権、領事関係）
- 第7回 個人・外国人（国籍、難民の保護、犯罪人の引渡し）
- 第8回 国際社会における人権保障（1）（人権法の国際的実施措置、実施のための法と機構）
- 第9回 国際社会における人権保障（2）（女性の人権、子どもの人権）
- 第10回 国際協力（環境の国際規制、経済的国際協力）
- 第11回 紛争の平和的解決（国際裁判）
- 第12回 国際安全保障（国連軍、軍縮）
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

比較教育論

江藤恭二

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

国際化社会の到来に直面した今日、比較教育に対する関心は高まってきている。比較教育学とは、日本を含めた各国の教育の比較研究を通して、わが国の教育の特色や課題を明らかにする研究分野である。できるだけ具体的な問題を取りあげながら、現代の教育課題に迫っていく。

1. 比較教育学の概念と歴史

2. 各国の教育と文化

- アメリカ ●イギリス ●ドイツ
- フランス ●中国 ●韓国 etc.

3. 教育問題の比較

- カリキュラム
- いじめ問題
- 女性と教育
- 教育方法 etc.

4. 世界の中の日本の教育

【評価方法】

試験又はレポート。

【テキスト】

比較国際教育学（石附実編 東信堂 3,500円）

教育交流史

加藤鉦治

2・3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

近代日本の発展は、幅広い外国情報の収集と活用によるところが大きい。教育の領域においても、外国とくに西洋諸国の教育についての情報が、多様な経路をおして、積極的に収集・導入され、近代日本教育の基礎づくりに生かされた。本講義では、日本と出会った西洋の教育がどのようにして移植され、日本の近代化と自立化に寄与するに至ったのかをめぐって講ずる。世界教育のなかの日本教育の位置、近代日本教育の国際環境について、理解が深まることを期待している。

外国、とくに西洋諸国の教育情報が日本に移入される方途としては、とくに次の5点が重要である。本年度は、これらについて、とくに「ヒト」を介した交流の諸相を中心に、講述する。①お雇い教師の招聘、②留学生の派遣、③視察団・調査団の派遣、④万国博覧会への参同、⑤学術文献の輸入・翻訳。

開講時期は後期。

【授業計画】

講義を中心とする。プリント教材を活用する。

【評価方法】

受講状況（出席率、平常点）と、レポートまたは試験による。

【テキスト】

未定。

欧米教育文化史

江藤恭二

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」とは具体的に何を意味するのか、という点に焦点をあて、欧米教育・文化の全体的・構造的な変遷過程に着目しつつ、比較教育史的なアプローチを試みる。

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育・文化
3. ルネサンスと宗教改革
4. 近代教育・文化の生誕と展開
5. 啓蒙思想と教育
6. 市民革命期の教育思想

【授業計画】

講義方式、時折、欧米文化に関するVideo教材を用いる。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

西洋近代教育史（江藤他編 学文社 2,300円）

国際理解教育論

小木曾通男

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

戦後の著しい国際化の中にあつて、中学校、高等学校における国際理解をめざす教育について、さまざまな実践が行なわれている。これらの主要な事例をとりあげて中学校、高等学校の日常的な教科指導、特別教育活動等において、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取について、次の視点から考察する。
 - (1) 海外留学生の派遣と帰国後の活躍
 - (2) 外国人教員の雇用とその教育への影響
 - (3) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化について次の視点から考察する。
 - (1) 教科教育における国際理解教育
 - (2) 特別活動、学校教育における国際理解教育
 - (3) 海外留学生の派遣と海外からの留学生の受け入れ
 - (4) 外国人英語教育の雇用とその役割
3. 現在の日本の国際化の現状を分析し、真の意味での日本の国際化について、教育の視点から考察する。
(授業において、皆さんの体験を踏まえて具体的な事例について、ともに考えて行きたい)

【評価方法】

授業中に課す「感想、意見」の提出及びレポートにより総合評価を行なう。

【テキスト】

「国際理解教育論講義概要」（改訂版）300円予定

【参考書籍】

授業中にその都度紹介する。

国際交流論

榎田勝利

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

戦後から今日までの国際交流の軌跡を振り返りながら、時代とともに変化する国際交流の意義、役割等を考え、さらに、民間の国際交流活動の現状と問題点を考察し、新しい時代の国際交流のあり方を展望する。

- 1) 戦後の国際交流の軌跡
 - ア) 第二次世界大戦前の国際交流
 - イ) 戦後から七十年代までの国際交流
 - ウ) 七十年代以降の国際交流の変化
- 2) 日本の国際交流の現状と課題
 - ア) 多様化、複雑化する国際交流
 - イ) 内なる国際化の進展
 - ウ) 自治体主導の地域の国際化
 - エ) 民間非営利活動の社会的認知
- 3) NGOとボランティア
 - ア) 国連組織とNGO
 - イ) NGOとボランティア
 - ウ) 国際ボランティア
- 4) 国際交流団体・機関を担う専門的な人材育成
 - ア) プログラム・オフィサーとは
 - イ) プログラム・オフィサーに必要とされる能力
- 5) よりよい地球市民社会の形成を目指して
 - ア) 市民社会とボランティア活動
 - イ) 中央集権から地方分権の時代へ
 - ウ) 地球市民の登場

【授業計画】

講義と各学生によるプレゼンテーションにより授業を展開する。各講義のフォローアップのために学生から評価メモを提出してもらう。

【評価方法】

課題研究レポートおよび平常点にて評価する。また、大学内外で開催される国際交流に関係する諸活動への参加レポートも評価の対象にする。

【テキスト】

国際交流入門（榎田勝利監修 アルク）

比較文化論

國信潤子

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

今なぜ比較文化なのか。地球規模で変遷する経済・政治・文化、社会変容の同時進行、環境破壊、資源有限時代などいずれも一国、一社会で解決できる問題ではなくなっている。私たちの日常生活は好むと好まざるとにかかわらず、グローバル化が進んでいる。しかし反面、多様な文化の個性がこうした世界状況のなかでこそ重要であることも認識されるようになってきている。西欧中心主義から脱却し、動的・相対的文化認識の道を探る。

比較文化の認識枠、文化・文明の概念、単系発展説、多文化圏説、動的的文化理解など文化認識枠を検討し、具体的事例として南北社会対立の問題点を検討し、開発途上国における開発をジェンダー分析する。

【授業計画】

大半は講義形式、後半でビデオ視聴をはさみ開発途上国の生活実態を紹介する内容についてジェンダー視点から分析する。グループ討議も取り入れる。

【評価方法】

出席態度、出席カード記述内容、期間中に一回のレポート、期末にレポート提出、以上の4点の総合評価による。

【テキスト】

なし。随時資料を配布する。

国際社会演習 I a・b

青島 宏

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

ベルリンの壁崩壊で始まった冷戦構造の消失で国際情勢は激変し、新しい民族問題が姿を現した。民族とはなにか、国民国家をどのように形成しているのか、現在の文明とどのように関わっているのかなどの理解なしには、西欧、東欧、ロシア、中東、アジアなど至る所で起きている国際情勢の変化をとらえることは出来ない。中東などの地域研究や英文資料講読を手掛かりに国際情勢を読み取る手法を学ぶ。

[民族とは] 民族についてはさまざまな定義が試みられている。古典的な民族観、近代や現代の民族についての考え方を身につけさせるとともに、日本人の思考様式の特異性を考える。

[宗教と民族] 宗教は民族のアイデンティティと密接なつながりを持ち、しばしば国際情勢を読み解くキーワードになる。レバノン内戦でのマロン派キリスト教徒、パレスチナ紛争でのユダヤ教徒、イラン革命でのイスラムなどの分析を通じて、国際情勢の中での宗教を考える。

[地域研究] シオニズムとはなにか、パレスチナ紛争、イラン革命などの歴史的要因、冷戦などの国際情勢とのかわりなどを掘り下げて、中東での国際関係の読み解きを行う。

【授業計画】

理解を助けるために、できるだけスライド、写真、地図などを多用する。

【評価方法】

日常の出席状況とレポート提出による。

【テキスト】

国際関係論 (中嶋嶺雄著 中公新書)

菊と刀 (ルース・ベネディクト著 現代教養文庫)

英字紙の記事など英文資料を読むための意欲が望まれる。
国際情勢論を受講すること。

国際社会演習 I a・b

江藤 恭二

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

従来の比較教育学研究と比較文化の成果に基づきつつ、広く欧米とアジアおよび日本の教育・文化の実態を追究し、さらには現代日本の教育課題を明らかにすることをめざす。

日本、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、中国、韓国等の教育・文化を対象にして、具体的なテーマに迫る。(例、いじめ問題、女性と教育、多文化教育、カリキュラム、教育方法、しつけ・家庭教育、大学教育etc.)各自の主体的意志に従って、テーマを選択し、アプローチしてもらうので、予め内容を記すことはできない。従来、レポートを何回か重ね、その内容を基礎にして、卒業論文を構成したケースが多い。

【授業計画】

最初に参加者各自の課題意識を確認し、各自設定したテーマに基づき、自由に伸びやかに、順次計画的にReportしてもらう。随時、指導と助言を加える。

【評価方法】

小レポート。原則としては、Report内容による平常の評価。

【テキスト】

比較国際教育学 (石附実編 東信堂 3,500円他)

国際社会演習 I a・b

小木曾通男

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

現代社会は国際化社会といわれているが、国際化とは何かを考察する。日本が長い鎖国時代から国際社会の仲間入りをしたのは、今から約130年前のことである。

この130年間における日本の急速な国際化の軌跡を辿り、現代における日本の国際化について改めて問い直してみたい。

この演習を通じて、21世紀に生きる皆さんが国際的視野を広げ、国際人として活躍することを期待する。

【授業計画】

- 幕末の日本開国にともなう国際化について、代表的な人物に視点をあて考察する。
 - 蘭語だけであった日本の洋学の拡大
 - 海外への使節団と留学生の派遣
 - 海外技術の導入（伝習）
- 明治新政府の方針「文明開化」「富国強兵」「殖産興業」による日本の国際化について、代表的な人物に視点をあてて考察する。
 - 海外視察団と海外留学生・伝習生の派遣
 - 貢進生、師範学校制度を中心に明治当初の教育
 - 大量に採用した「お雇い外国人」の役割
- 前期には各人が分担して、幕末から明治にかけて日本の国際化に貢献した人物について、そのプロフィールと活躍の軌跡を辿り、その略歴をまとめる。

後期においては、この「まとめ」を教材にして、日本の国際化に視点をあてて、個別的具体的に研究の内容と方法を深め、「演習Ⅱ」に繋げる。

【評価方法】

前期及び後期ともにレポートにより評価する。

【テキスト】

「国際理解教育論講義概要」（改訂版）300円予定

【参考書籍】

「特命全権大使 欧米回覧実記1」岩波文庫
その他授業中にその都度紹介する。

国際社会演習 I a・b

小野迪雄

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

—アメリカの社会と文化の研究—

アメリカは移民の国であると誰もが認識している。今日、移民のエスニック・グループ（民族集団）は、実のところどんな状況にあるのだろうか。1989年末頃から「多元文化主義」という立場に立った議論が激しくされている。少なくとも、従来の「人種のるつぼ」社会という伝統的な考え方でアメリカの社会を捉え得るのだろうか。「演習Ⅰ」では、幾つかの視点を取りあげて研究し、アメリカの文化や社会の実相に迫りたい。

【授業計画】

講義を中心とし、随時レポートを提出する。当面のテーマによっては意見の交換をする。

【評価方法】

主にレポートによる。授業の取り組み方を重視する。

【テキスト】

未定。

【参考書籍】

授業時に紹介する。

国際社会演習 I a・b

清水 洋

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

近年、日本で働くアジア人の数が急増する一方、数多くの日本企業がアジア諸国に進出しており、日本とアジアとの関係は極めて重要となっている。確かに、97年夏のタイの通貨暴落を引き金としてアジア諸国の経済は約2年間にわたって不況に見舞われたが、現在は回復に向かっている。21世紀の世界経済において、中国やアジアNIESなどは日本とともにより大きな役割を果たすことは間違いないであろう。本演習では、アジア諸国の経済発展の内的・外的要因の分析により諸国間で貧富の差が生じた背景を探るとともに、アジア地域における日本人および日系企業の経済活動の実態を明らかにする。なお、社会的・民族的・文化的・宗教的・政治的要因は非経済的要因であるが、同地域の経済発展と密接な関係があるため併せて検討する。

【授業計画】

テキストの講読や調査・研究の結果の発表・討議を行う。また、ときおりアジアに関する雑誌・新聞記事を読んだり、ビデオを鑑賞し、その内容を討議する。

- 1) アジア諸国の政治・経済発展の特徴
- 2) アジア諸国間で貧富の差が生じた背景
- 3) 多民族・多文化国家形成の背景と民族問題
- 4) 開発独裁と経済発展
- 5) アジアにおける日本人および日系企業の経済活動
- 6) 日本におけるアジア系移民
- 7) その他、興味と意義のあるテーマがあれば取り上げる

【評価方法】

討議への参加度、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

からゆきさんと経済進出—世界経済のなかのシンガポール・日本関係史 (清水洋・平川均共著 コモンズ) 東南アジアの経済 (鈴木峻 御茶の水書房)

国際社会演習 I a・b

西尾林太郎

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

「近・現代における日本人の対外観と外国人の日本観」特に近・現代における日本人の対外観および外国人の日本観について、古代から現代に至るまで幅広く調査・研究し、「国際化」のまっただ中にある今日の日本および日本人について考えてみたい。

【授業計画】

例えばルース・ベネディクト『菊と刀』など外国人の日本人論(日本論)や日本人の対外観に関する文献を逐一検討したり、新聞や雑誌あるいは各種テレビ番組で報じられた外国人の日本観、ないしは日本人の対外観をできる限り収集し、検討したい。また、こうした作業を通じて、調査・研究や発表のやり方あるいは討論(ディベート)の方法を修得する。

また日本近・現代政治史、外交史、社会史の文献講読をし、近・現代日本の姿を歴史的に把握することにも努めたい。

そして、琉球(沖縄)・韓国・台湾・中国等の大学の歴史系や社会科学系のゼミとも交流をしたい。日本とは異質な文化を持つ琉球(沖縄)やこうしたアジア各国の人々との真摯な交流を通じて、日本の歴史や現実に対する理解を深めていきたい。

a 前期:上記のテーマに関して各自の発表、調査研修旅行(国内か東アジア地域又はその両方)

b 後期:日本政治・外交史、日本社会論、日本社会史に関する各自のテーマについて調査・研究と発表

キチンと授業に出席すること。全員参加を原則とするゼミ合宿や研修旅行を実施する。そのための費用も必要である。「日本政治外交史」を履修済みであるか、今後履修予定であること。

【評価方法】

評価は演習およびそれに付随する行事での活動状況と随時に課すレポートの内容による。

【テキスト】

特に定めない。

国際社会演習 I a・b

秦 忠夫

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

日本経済と世界経済の結びつきを重点に、経済をみる眼を養うことを目標とします。スタート時点では参加者の経済学履修状況にはバラツキがあると思われるので、次のような段階的アプローチをとる方針です。第1段階では、マクロ経済入門書で経済学の基礎を勉強します。第2段階では、『世界経済白書』をテキストに世界経済の現状ならびに日本経済の実情と課題を勉強します。この段階では、各自が割り当てられた部分の要旨を報告し、質疑応答する形を基本とします。第3段階では、内外経済の注目されているテーマに関する論文・解説記事を多読し、実践的な理解力を鍛練したいと思います。海外の論文・記事も取り入れて、英文資料の読解力の訓練も重視します。

【授業計画】

第1段階：最初の2カ月。経済学の基礎の勉強。

テキスト：選別中につき追って連絡。

第2段階：6月以降11月まで。内外経済の実情がテーマ。

テキスト：経済企画庁編 『世界経済白書』（平成11年刊）1,500円

第3段階：残りの期間。実践的な理解力の鍛練。

テキスト：内外の論文・解説記事のコピー

なお、前期末には共通テーマにつき、後期末には各自が選んだテーマにつきレポートの提出を求めます。

【評価方法】

レポートと授業への参加態度で評価。

【テキスト】

上記の通り。

【参考書籍】

授業の際、適宜紹介。

国際社会演習 I a・b

藤瀬浩司

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

現代の国際社会がどのような歴史を経て現在のようになったのかを検討します。演習では適当なテキストに従ってヨーロッパやアメリカなどの経済発展を学ぶとともに、各自がいずれかの国を選んで勉強し、卒論を準備します。

経済学と歴史研究の基礎をマスターします。

【授業計画】

ゼミ参加者の報告に従って進めます。

【評価方法】

ゼミへの参加状況によって評価します。

【テキスト】

参考文献は適時指摘しますが、テキストは決りません。

国際社会演習Ⅰ a・b

山澤啓造

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

「20世紀の政治家・外交官」

日米関係のなかで重要な役割を演じた政治家・外交官（アメリカ）などを日米外交の文脈のなかで考察する。日米関係を基盤とするので、日本の政治家・外交官についても触れる。講義「日米外交論」を深めたものである。

【授業計画】

- ①1899年門戸開放宣言について考察する。
- ②アメリカの軍人・政治家・外交官などのうち一名を取り上げ、日米外交の政治的・経済的文脈のなかで考察する。
- ③学生各自がテーマを選択し、研究レポート作成・発表、討論する。

「日米外交論」を受講すること。現代史の演習であるから、学生は新聞を読みテレビを視聴し、常に世界の動きを考える態度を養うように心がけること。

【評価方法】

レポート、発表、討論、出席などにより総合的に評価する。

【テキスト】

プリント、および軍人・政治家・外交官などの文庫本一冊

国際社会演習Ⅱ a・b

青島宏

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

演習Ⅰでの学習を踏まえて、冷戦構造消失後に新しい変化が起きつつある国際情勢のなかなどから、各自の興味あるテーマ追究に取り組む。拡大する欧州連合（EU）や北大西洋条約機構（NATO）などの国際機構の新しい機能や、中東紛争とオスロ合意、バルシャ湾とエネルギー安保など視野にいれたい。

演習Ⅰの学習内容と関連させながら計画する。

【授業計画】

ゼミ生各自が演習Ⅰの学習を通じて国際問題への関心を広げ、興味のあるテーマを選んで、各自で調査発表する。

【評価方法】

日常の出席状況とレポート提出による。

【テキスト】

未定。

国際社会演習Ⅱ a・b

江藤恭二

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

従来の比較教育学研究と比較文化の成果に基づきつつ、広く欧米とアジアおよび日本の教育・文化の実態を追究し、さらには現代日本の教育課題を明らかにすることをめざす。

日本、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、中国、韓国等の教育・文化を対象にして、具体的なテーマに迫る。(例、いじめ問題、女性と教育、多文化教育、カリキュラム、教育方法、しつけ・家庭教育、大学教育etc.)各自の主体的意志に従って、テーマを選択し、アプローチしてもらうので、予め内容を記すことはできない。従来、レポートを何回か重ね、その内容を基礎にして、卒業論文を構成したケースが多い。

【授業計画】

最初に参加者各自の課題意識を確認し、各自設定したテーマに基づき、自由に伸びやかに、順次計画的にReportしてもらう。随時、指導と助言を加える。

【評価方法】

小レポート。原則としては、Report内容による平常の評価。

【テキスト】

比較国際教育学 (石附実編 東信堂 3,500円他)

国際社会演習Ⅱ a・b

小木曾通男

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

第二次世界大戦中日本が世界から孤立し、戦後も連合軍の占領下におかれ、平和条約締結後に再び国際社会に復帰した。経済的に厳しい日本にあって、空白の10年間の後どのように国際化を進め今日の経済大国になったかを学習する。

なお、平行して「演習Ⅰ」で関心をもった人物に焦点をあてて、日本の国際化を検証し、卒業論文に結実するように個別指導を行なう。

この演習を通じて、真の国際人としての視野を広げ、21世紀の国際人として飛躍することを期待する。

【授業計画】

1. 1950年以降の日本の国際化について、教育を中心に産業経済、文化などの国際交流について次の視点から考察する。
 - (1) 戦後の日本の経済復興と日本の国際化との関係
 - (2) 様々な国際交流活動の展開の成果と欠陥
 - (3) 教育の国際化の展開の成果と問題点
2. 現在の日本の国際化の現状について、外国人教員の活用、海外からの留学生の受け入れ、海外留学生の派遣等の分析を行ない、その問題点を明らかにしたい。
3. 「演習Ⅰ」で調べた人物について、さらに文献等によりその活躍の軌跡、背景等の研究を深め前期において中間発表を行なうように指導する。
4. 後期においては、中間発表をもとに、これらの人物に対する評価についてまとめ卒業論文にまとめるよう指導する。

【評価方法】

前期及び後期ともにレポートにより評価する。

【テキスト】

特に使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書籍】

その都度個別的に参考とすべき著書・資料を指示する。

国際社会演習Ⅱ a・b

清水 洋

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

演習Ⅰからの継続。近年、日本で働くアジア人の数が急増する一方、数多くの日本企業がアジア諸国に進出しており、日本とアジアとの関係は極めて重要となっている。確かに、97年夏のタイの通貨暴落を引き金としてアジア諸国の経済は約2年間にわたって不況に見舞われたが、現在は回復に向かっていく。21世紀の世界経済において、中国やアジアNIESなどは日本とともにより大きな役割を果たすことは間違いないであろう。本演習では、アジア諸国の経済発展の内的・外的要因の分析により諸国間で貧富の差が生じた背景を探るとともに、アジア地域における日本人および日系企業の経済活動の実態を明らかにする。なお、社会的・民族的・文化的・宗教的・政治的・経済的要因は非経済的要因であるが、同地域の経済発展と密接な関係があるため併せて検討する。

【授業計画】

テキストの講読や調査・研究の結果の発表・討議を行う。また、ときおりアジアに関する雑誌・新聞記事を読んだり、ビデオを鑑賞し、その内容を討議する。

- 1) アジア諸国の政治・経済発展の特徴
- 2) アジア諸国間で貧富の差が生じた背景
- 3) 多民族・多文化国家形成の背景と民族問題
- 4) 開発独裁と経済発展
- 5) アジアにおける日本人および日系企業の経済活動
- 6) 日本におけるアジア系移民
- 7) その他、興味と意義のあるテーマがあれば取り上げる

【評価方法】

討議への参加度、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

日本人の暮らしのためだったODA
(福家洋介・藤林泰編著 コモンズ)

国際社会演習Ⅱ a・b

西尾林太郎

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

「日本人と日本社会に関する総合的研究」

戦前および戦後の日本の政治・外交・経済・社会・文化を国際的視点に立ちつつ歴史的に捉え、研究を進める。

【授業計画】

たとえ短くても、演習生全員が卒業論文(ワープロ打ちA4 12枚以上。変更されることもある。)作成を目指す。前半は演習生と相談の上で、いくつかの文献を読み、後半は各自の関心やテーマに応じて調査・研究を進め、その成果を演習で発表してもらうこととする。そうした積重ねの上に卒業論文が可能となる。ゼミでは卒論作成の過程で見つけた問題点について発表してもらう。卒論作成を前提とする。

【評価方法】

評価は演習での活動状況と発表、および「卒論」提出の有無による。

【テキスト】

なし。

国際社会演習Ⅱ a・b

秦 忠夫

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

演習Ⅰでは世界および日本の実体経済の動きを主たるテーマとしましたが、演習Ⅱでは国際通貨・金融問題にテーマを広げていきます。「国際金融論」で基礎的な勉強は終わっている筈ですから、「ヨーロッパの通貨統合」、「アジアの通貨危機」、「わが国の金融ビッグバン」など注目されている動きに関する論文や記事を教材にして、討議形式で通貨・金融問題への関心と理解を深めていきたいと思っています。「卒論」は選択科目ですが、学生生活の仕上げに全員卒論に取り組んでもらいたいと考えています。前期の内に卒論につながる各自の研究テーマを定めてもらい、後期はそれぞれの研究の報告（中間報告）につき意見交換する形にしたいと思います。引き続き英文資料の読解力の訓練を重視します。

教材とする論文や記事は原則として私が用意しますが、参加者から提案があればそれ以外の資料も取り入れていきます。前期末には各自の研究テーマの趣旨と研究の進め方につきレポートを提出してもらいます。

【授業計画】

上記の通り。

【評価方法】

レポートと授業への参加態度で評価。

【テキスト】

テキストの使用予定なし。

【参考書籍】

授業の際、適宜紹介。

国際社会演習Ⅱ a・b

藤瀬浩司

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

現代の国際社会がどのような歴史を経て現在のようになったのかを検討します。演習では適当なテキストに従ってヨーロッパやアメリカなどの経済発展を学ぶとともに、各自がいずれかの国、地域あるいは問題を選んで勉強し、卒論を準備します。

経済学と歴史研究の基礎をマスターします。

【授業計画】

ゼミ参加者の報告に従って進めます。

【評価方法】

ゼミへの参加状況によって評価します。

【テキスト】

参考文献は適時指摘しますが、テキストは決めません。

マスコミュニケーション論

板倉達文

集中 2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

マス・コミはいわゆるメディアによって担われる過程であるが、通信内容および形式をめぐるメディア内部の事情、内容を受け取るオーディオレスの事情、加えて、社会的・政治的利害による規定について、総合的に講義する。

【授業計画】

メディア、人間、社会の主部構成で順次講義する。

【評価方法】

筆記試験とする。

【テキスト】

特に設けない。

【参考書籍】

講義の中で随時紹介する。

マスカルチャー論

山田登世子

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

ファッションという日常文化の分析をとおして「現代社会」を考える。

◇ファッションとは何か——その1（身体論的アプローチ） 「見せる」ことと「隠す」こと

◇モードとは何か——その2（時間論的アプローチ） 「流行」とは何か、わたしたちはなぜトレンドに敏感なのか？

◇ブランドって何？

ルイ・ヴィトン、シャネルなどを例に、ブランドの文化史を学ぶ

◇誘惑論——ひとはなぜおしゃれをするのか？

◇モードと性——シャネルなどをめぐって

上記のようなプランにそって、「おしゃれ、何のために？」を考える。

【授業計画】

講義ではありますが、授業に「参加」してもらうため、ぬきうちショート・テストを毎回のようにやります。（このテストをとおして届いた受講生の意見を収録した新書を授業のテキストに使います）

【評価方法】

ショート・テストに代表される平常点を評価しますが、学期末のレポートが成績のわかれ目です。

【テキスト】

ファッションの技法（山田登世子 講談社現代新書 650円）

メディア文化論

石田米和

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

人々の考え方や行動の総体としての文化を創り出し、普及させていく手段としての各種メディア（テレビ、電話、パソコン通信等）を取り上げ、メディアそのものの発展状況、メディアの諸機能、メディアに日常的に接している我々が留意すべき点等について考えていく。

概ね以下のようなテーマに沿って進めていく。

1. 文化とは、文化の担い手
2. メディア（テレビ、パソコン通信、電話等）の進捗状況と特徴
3. メディア環境の変化と影響
4. メディア文化とは、その特質と将来

【授業計画】

テキストの解説を中心とし、適宜、参考資料、ビデオ等を使用する。テキストの十分な理解と関連学習が必須である。

【評価方法】

受講資格は特にない。

評価はリポート提出、定期試験、受講態度により行う。

【テキスト】

未定。

ニューメディア論

高橋 徹

集中 2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

本授業では、情報化社会の進展に極めて大きな関わりを持っている「ニューメディア」の概念を、単に技術的な解説とせず、情報の送り手、受け手、情報内容等の利用上の特徴をとらえて解説し、ニューメディアに関する知識の習得を目的とする。

はじめに本講義を進めていく基本的視点を提示し、ニューメディアが様々な側面と密接な関係にあることを学ぶ。さらに技術的背景、社会・経済・文化的背景が情報通信技術やコミュニケーション活動に与えている様々な現象について知識を深めていく。その上で、情報社会における生活様式や産業活動等がどのように変化してきたかを習得する。

1. ニューメディアの歴史
2. 生活とニューメディア
3. 教育とニューメディア
4. ビジネス社会とニューメディア
5. 行政とニューメディア
6. 地域開発とニューメディア
7. 電気通信産業概説
8. メディア産業とニューメディア
9. 文化の情報化
10. メディアと宗教
11. 情報リテラシー
12. 情報社会の作法・マナー
13. テレコミュニケーションの制度
14. 海外の動き

【授業計画】

テキストを中心に、随時プリント教材、VTRも使用する。

【評価方法】

定期試験、小テスト、出席率等により総合的に評価する。

【テキスト】

未定。

放送メディア論

大西 誠

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

マスメディアの中でもデジタル化の波で、厳しい対応を迫られているのが、放送メディアである。現代社会に欠かせない基幹メディアとしての放送の成立から放送現場の実態までをたどりながら、その機能や問題点を探り、現代社会との関わりを展望する。

1. 放送のなりたちと歴史（電波メディアの発達）
2. 放送の公共性と制作体制（NHKと民放）
3. 放送とコマーシャル（広告媒体としての放送）
4. 放送と人権
5. 放送の自由
6. 放送と政治
7. 制作現場Ⅰ ニュース・ドキュメンタリー
8. 制作現場Ⅱ ドラマ
9. 制作現場Ⅲ 教育・教養
10. 放送とマルチメディア
11. 放送と国際化 など
(内容については、変更になる場合がある)

【授業計画】

講義形式。映像などの素材をもとに質問や意見を聞きながら進めます。

日常のテレビ番組から何かを発見してほしい。授業中は私語厳禁。

【評価方法】

小テストと学期末レポート。

【テキスト】

なし。

学習メディア論

東浦信博

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

わが国の教育においても、従来の視聴覚教育機器からマルチメディア教育機器やネットワークメディア利用の学習まで多様なメディアが活用されている。主要な教育メディアや教育技術の新展開について、その背景となる学習理論やメディア自体のメカニズム・特性、ときには学習事例などもあげて学ぶ。

1. 学習とは（学習とは何か、学習の定義、学習理論、学習条件、主体的学習など）
2. 学習とメディア（学習者－学習素材・教材のコミュニケーションメディア）
3. メディア各論（集団学習と個別学習、音声・映像・音声映像・コンピュータ・マルチメディア）
4. 遠隔地とのコミュニケーション（通信ネットワーク [=インターネット] による学習）
5. メディアリテラシー（21世紀におけるメディア活用の技術は人間生活の基本技術となる。この技術の欠如は文盲にたとえられる時代がくる。）

【授業計画】

講義中心であるが、可能な限り実物を用意する。OHP、ビデオを多用する。

【評価方法】

テキスト・ノート持ち込み可による論述式定期試験。

【テキスト】

なし。

メディアリテラシー論

東浦信博

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

価値観の多様化と行動決定の選択肢が増加した現代社会では、調和や共生が要求される。そのためには社会・人間相互のコミュニケーションの成立が必須の要件となる。またコミュニケーションのためのメディアも多様化している。この多様化したメディアを正しく理解し、操作出来ることが21世紀に生きる人間にとって重要で基本的な生活技術となる。本講義はこのメディアに関するリテラシーについて考察することが目的である。

1. コミュニケーションとメディアについて
2. メディアリテラシーとは
3. メッセージを読み取る (情報の受信)
4. メッセージの作成 (情報の発信)
5. メディアを扱う際の問題点 (留意点)

【授業計画】

講義中心であるが、できるだけ資料・素材を示しながら進めたい。

【評価方法】

論述形式の定期試験を考えている。

【テキスト】

なし。

放送制作論 I (制作基礎)

橋本照雄 大西 誠

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

目まぐるしく変貌する社会、そこに生きていく人間としてのジャーナルな意識の覚醒を試みる。

授業としては放送番組の様々な形式を理解した上で、番組の実際を身近な具体例で示し、一定の理解を図る。

- ・日常の視点からジャーナリズムの目へ
- ・新聞などのパブリシティと併存する放送の現実
- ・番組の分野のディテイル
- ・実習 番組制作 (1カット撮影)
- ・現場取材の実際—取材と撮影
- ・編集の実際—基本と応用
- ・放送番組、ビデオ作品についてグループ討議と発表

【授業計画】

講義を主とするが、適宜ビデオ視聴、実習を中心に制作の基礎を学ぶ。

【評価方法】

課題によるレポート・作品制作、実習時の態度などジャーナルなセンスを基準とする。

【テキスト】

未定。

放送制作論Ⅱ（スタジオ制作）

大西 誠

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

スタジオ機器を使用して、インフォメーション番組を制作する。演出などの理論と機器の使用方法を学習し、放送が個人プレイによるものでなく、集団で作られるものであることを学ぶ。またカメラ、音声、照明など技術的側面とディレクターやアシスタント・ディレクター、出演者など演出面を実地に経験することにより、映像制作能力を身につける。

1. スタジオカメラの操作
2. 照明の役割
3. 音声の基本（音楽、効果音）
4. 台本の書き方
5. 放送素材ロケーションと編集
6. スタジオ収録
7. 鑑賞と評価

以上を目標にグループでトーク番組、インフォメーション番組などを制作する。

【授業計画】

理論と実習を組み合わせる。

メディアプロデューサーコース希望または専攻者が望ましい。実習の積み重ねが大切なのでチームワークを大切にしてほしい。

【評価方法】

実習の態度（チームワーク）と作品で評価する。

【テキスト】

なし。

放送制作論Ⅲ（ドキュメンタリー）

大西 誠

3・4年 前期(集中)・後期(通常授業) 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会をビデオカメラの目を通して見つめることを理論と実習で養成する。カメラによって切り取った現実を新たな編集という作業によって、再構成し、現実世界のとらえ方を認識する。また作品を通じて、新たな現実を映像で作り上げ、伝えていくというドキュメンタリー番組のあり方について考察する。

(放送制作論Ⅰ・旧年度放送制作論を受講済が望ましい)

各回の講義の中で様々な作品を鑑賞・批評することによって、制作手法を学ぶとともに、各自テーマを決め、インタビューとリポートを基本としたドキュメンタリー番組を制作する。

1. ドキュメンタリー番組の企画
2. ドキュメンタリー番組の演出
3. ドキュメンタリー番組の編集
4. ドキュメンタリー番組の評価

以上を目標に個人または少人数のグループの実習を中心に理論を組合せながら番組制作をする。

【授業計画】

理論と実習を組み合わせる。(前期は、集中講義なので、個人の志向に関係なくテーマ・取材先は事前に設定される。)

自ら取材する意欲が求められる。たくさんのドキュメンタリー番組を見てほしい。放送制作論Ⅰの未受講者は、基本指導を行わない。(作品性・メッセージ性のないものは不可、成績評価は厳しくする)

【評価方法】

実習の態度（課題提出）と作品で評価する。

【テキスト】

なし。

情報文化論

橋本照雄

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報文化という言葉の出現の必然性

目に写るもの、耳に入るもの全てが情報である。

では情報文化とは何を指すのか、文化そのものが幅広いだけに情報文化自体も分かるようで捉え難い。

情報文化とは何かを学生諸君とともに考察し、新たな取り組みを試みる。

具体的には情報文化なるものの導入を映像コミュニケーションで図り絵画、陶磁器、現代アート等を素材にしながら取り上げる。

- ・情報の多様性
- ・文化と文明
- ・情報文化
- ・絵画と情報（制作者と受け手）
- ・陶磁器と情報（制作者と受け手）
- ・装飾美術とケルト
- ・現代アート

以上を目標に適時OHC、ビデオなどを利用し、興味をひく話題を提供する。

【授業計画】

講義を主とし、絵画、陶磁器現代アートなどの映像をみながら、具体的な検討を加える。また簡単な絵画、デザインを実習として描いてもらう。

【評価方法】

課題によるレポートと絵画、デザインなどセンス、ヒラメキなどで評価する。

【テキスト】

未定。

映像制作論

坂元 多

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

ビデオや映画の中の表現テクニックを抽出して映像制作方法として一般化、法則化を試みる。

映像制作は高い独創性が要求される。これは説明や講義で学べるものではない。数多くの優れた作品に接しながら、これを理解し、消化する中で制作の手がかりを得る。

【授業計画】

映像作品の試写と解析。

【評価方法】

授業時間内のテストで評価。

【テキスト】

特になし。

ヴァジュアル・コミュニケーション論

石田米和

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

マルチメディアの進展が契機となり、コミュニケーションの場における映像化・ビジュアル化の傾向が顕著になりつつある。このような状況を踏まえて、映像化・ビジュアル化の歴史の変遷を概要しつつ、そのことの社会的影響や認知、理解への影響、文字によるコミュニケーションとの関係、さらにトータル・コミュニケーションの再検討について考えていく予定である。

主として以下のような内容を取り上げる予定である。

映像化・ビジュアル化とは一歴史の変遷、社会的要請
映像化・ビジュアル化の影響—社会経済的、心理的
(認知、理解等)等

映像化・ビジュアル化と文字によるコミュニケーションとの関係

映像化・ビジュアル化と文化

映像化・ビジュアル化の問題点

【授業計画】

テキストの解説を中心とし、適宜、参考資料、ビデオ等の映像資料を使用する。テキストの十分な理解と関連学習が必須である。

【評価方法】

受講資格は特にないが、コミュニケーションに強い関心をもっていることが重要である。

評価はレポート提出、定期試験、受講態度により決める。

【テキスト】

未定。

レトリカル・コミュニケーション論

五島幸一

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

コミュニケーション研究の一領域であるレトリック批評を中心として人間のコミュニケーション活動を考える。レトリック研究そのもの自体はその源を紀元前のローマ・ギリシャ時代に遡るものであるが、本講義では現代の様々な事象に焦点を当てて、レトリックの観点から考察する。

日常生活の多くの影響を及ぼしているコミュニケーションの問題としてしばしば指摘される広告、政治キャンペーン、ニュース報道などを取り上げて、現代社会において人々とのように互いに影響を及ぼしあっているのかを考え、理解を深める。

【授業計画】

基本的な文献を提示しながら進めていくが、グループによる発表も課すことがある。

【評価方法】

成績は学期末の試験をとくに参考とするが、出席状況や授業への参加度も考慮する。

【テキスト】

適時プリントを配布する。

サブ・カルチャー論

太田浩司

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

この授業では現代日本社会における様々なグループ間でのコミュニケーションの現状と特徴について知識を深めることを目標とする。特に社会アイデンティティという立場から異文化、サブカルチャー、共文化などと呼ばれるグループに属する人々間でのコミュニケーションプロセスについて吟味をする。講義での使用言語は日本語。教材は英語及び日本語。詳しい授業の計画は最初の授業で説明するが、以下の内容を授業で扱う予定である。

【授業計画】

- (1) 社会アイデンティティ理論
- (2) 偏見と差別
- (3) コミュニケーション調節理論
- (4) 異文化間コミュニケーション
- (5) スティグマ (Stigma) と対人プロセス
- (6) スティグマと社会グループ

【評価方法】

テスト1回 (期末)、ペーパー2回。

【テキスト】

教科書題名：『異文化間コミュニケーション入門』 出版社：創元社
その他日本語および英語の教材

電子メディア論

太田浩司

3・4年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

我々の日常生活の中でコミュニケーションの果たす役割は計り知れない。コミュニケーション自体が生活と言っても過言ではないだろう。その中でも近年、テクノロジーの発展に伴いface-to-faceのコミュニケーションから、電話、携帯電話、インターネットなどの媒体を介してのいわゆる“mediated communication”に依存する割合が非常に大きくなっている。そこで、この授業ではコミュニケーションにおけるメディアの役割をコミュニケーション、とくに対人コミュニケーション、マスコミュニケーション、グループコミュニケーションなどの観点から考察していく。講義での使用言語は日本語。教材は英語及び日本語。詳しい授業の計画は最初の授業で説明するが、以下の内容を授業で扱う予定である。

【授業計画】

- (1) コミュニケーション概要
- (2) 対人コミュニケーション基本理論
- (3) マスコミュニケーション基本理論
- (4) “Mediated Communication”
- (5) The cultural perspective of the use of internet
- (6) Diffusion of Innovation

【評価方法】

テスト1回 (期末)、short paper 2回。

【テキスト】

- ・未定
- ・日本語および英語の教材

メディアプロデュース演習 I a・b

石田米和

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

人々の意識や行動の総体としての文化に与える各種メディアの影響は、近年日増しに強くなってきている。このような状況のなかで、本演習では、先ずさまざまな基本的な方法論を修得し、メディアと文化に関わる広範な知識を蓄積し、議論し、理解力・洞察力を深めていくことに主眼を置く。なお、演習Ⅱや卒業論文作成への連携を念頭に置いて進めていく。

理解力・洞察力の涵養に必要な方法論の知識を獲得しつつ、メディアや文化の理解を深めていく。概ね、以下のようなテーマを考えている。

1. 社会科学における方法論・手法論
2. 理解力・洞察力・表現力等
3. メディア（環境）の変容とその影響
4. メディア文化の考え方
5. 文化の再検討
6. 関心テーマ（卒業論文）の探索

【授業計画】

徹底的な議論と学生諸君の発表とをベースに進めていく。主体的かつ積極的な態度、十分な学習時間、海外文献のための英語力等が必要である。

【評価方法】

受講資格は特にない。

評価はレポート提出、定期試験、受講態度、出欠・活動状況により行う。

【テキスト】

未定。

メディアプロデュース演習 I a・b

大西 誠

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

現代の情報化社会では、メディアの存在そのものが当然のものとして受けとめられている。この演習では、各種メディアの誕生の歴史に立ち返りながら、多様化する現代のメディアの意義や問題点を探る。具体的には、リアリティを構成する映像等の素材をもとにメディアの送りの意図を解説するとともに主体的な発信者となることを目指す。

<前期>

以下の項目を目標にしつつ写真、映画、テレビ、ビデオなど様々なメディアの映像を読み解くとともに、現代社会のメディアの動向に目を向けて、ジャーナルな感覚を身につける。

- 1) 映像の基本的技術の解析
- 2) 映像の操作と編集の解析
- 3) 映像効果の要素の分析
- 4) 映像の影響力の考察

<後期>

前期の継続とともに、メディアの複合的な表現について検討を加える。例えば、身体と表現、文字・図形と表現、音と表現、絵画と表現などを作品を通じて理解を深めるとともに、自ら作品制作を手がける。

【授業計画】

映像などの素材をもとに発表および討論。

【評価方法】

レポート、討論への参加、グループによる作品制作（後期）など。

【テキスト】

映像論（港千尋 NHK出版）

メディアプロデュース演習 I a・b

五島幸一

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

国際化社会または高度情報化社会と言われて久しいが、現代の国際社会においては、日々接する情報はますます増加している。このような状況下において、情報の獲得および理解については、コミュニケーションが必要になってくる。本演習では、そのような情勢に対処するために、コミュニケーション全般のことを学ぶことによって、現代社会の問題を理解するとともに、何らかの解決策を提示できるような思考能力を養う。

コミュニケーションの基礎概念を学び、コミュニケーションという学問の見方または考え方の理解を深めることを目的とする。そのために、様々な形態のコミュニケーション——個人内コミュニケーション、対人コミュニケーション、小集団・組織コミュニケーション、異文化コミュニケーション、レトリカル・コミュニケーション、マスコミュニケーションなど——を概観して、現代社会における具体的な事象に焦点を当てながら、その特徴を考察する。

【授業計画】

テキストを中心に、随時プリント教材も配付する。学生の発表を主体とする。

【評価方法】

与えられた課題についてのプレゼンテーション、および学期末に提出するターム・ペーパーをもって評価の対象とする。

【テキスト】

論文の書き方（澤田昭夫著 講談社学術文庫）

メディアプロデュース演習 I a・b

坂元多

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

—映像表現のテクニックをさぐる—
テレビ制作の技能を学びとるには、数多くの番組視聴試写がかかせない。映画を含む既成の映像番組の中から具体的にすぐれた表現テクニックを抽出し、整理分析し体系化することでトータルな映像表現の理解を構築する。組織化された教材映像のスクリーニングを媒介として映像表現の知識、技能を習得する。

一枚の絵ハガキ、絵画、写真などスタイルの解析
TV、映画、コマーシャルなど動く映像の解析
ディスプレイ、インスタレーションの解析
ビデオ制作による表現技術の実践と評価

【授業計画】

映像の提示、報告、解析の演習。

【評価方法】

試料となる映像から何をどう読みとるか、各回のとり組み方や自主的研究の深め方を見て常時評価する。

【テキスト】

特になし。

メディアプロデュース演習 I a・b

親松和浩

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

現代に生きる我々は善かれ悪しかれ科学技術を利用していかなければならない。NASAのスペースシャトルやハッブル宇宙望遠鏡が光とすれば、ダイオキシン汚染や地球温暖化という陰もある。この演習では出版物だけでなくインターネット上で公開されている膨大な資料も利用して、科学技術の光と陰が我々の生活とどう関わっているかを調査し、ディスカッションを行う。これにより、調査、分析、プレゼンテーション技術の習得をめざす。宇宙のはじまりや生命の誕生の謎を解こうという夢の話から、我々の身近に存在する環境ホルモン物質という科学技術の陰にいたるまで、幅広い範囲から個人あるいは数人のチームにテーマを与える。調査研究とその成果発表のプレゼンテーションに重点をおく。英文和訳ソフトも駆使してNASA、WHO等でWWW上に公開されている英文資料の利用についても試みる。

【授業計画】

学生の発表を主体とする。資料の配付や収集、レポート提出には電子メールとWWWをフルに活用する。

1. オリエンテーション（自己紹介、テーマの選定のディスカッション）
2. 調査計画立案
3. 資料収集
4. レポート及び発表資料作成
5. 調査報告会
6. ディスカッション

【評価方法】

出席状況と報告レポート等で評価する。

メディアプロデュース演習 I a・b

辻 紘良

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

マルチメディアの要素技術であるCG画像作成、デジタル映像ならびにMIDI音楽について作成方法や編集技術を学び、これらを総合的に活用してデジタル映像作品等を作成する。さらに、構内LANを介してこれらの映像作品の対話型送受信を試みる。これらにより、マルチメディア技術諸相の現在を体得するとともに、マルチメディアの可能性と問題点を具体的に把握する。

【授業計画】

前期はパソコンで行うマルチメディアに関する基礎技術を学ぶ。後期は、修得した技術を総合的に活用して映像作品を作成し、ネットワークに載せ対話型送受信を試みる。

前期：マルチメディアに関する基礎技術

- ・ 2、3次元画像作成（イラスト、高精彩3次元CG）
- ・ デジタル映像作成・編集（対話型2・3次元動画）
- ・ サウンド作成・編集（MIDI音楽）
- ・ ホームページ作成（対話型ネットワーク通信）
- ・ システム開発（プログラミング）

後期：作品作成

- ・ 各自作品（一つのソフトを利用して作成）
- ・ グループ作品（複数のソフトを活用して作成）

7号棟Media Landの設備を使用する。

受講にさいしては「コンピュータ演習9、10、11」の履修が望ましい。また、授業に電子メールを利用するので、学内のネットワーク利用資格を取得しておくこと。

【評価方法】

課題の提出状況や期末試験の結果、ならびに作品の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考書籍】

各ソフトのマニュアル等。

メディアプロデュース演習Ⅰ a・b

東浦信博

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

各種学習メディアの教育特性をおさえた上で、主として単独メディアによる学習教材の研究・制作を行う。

1. 学習メディアにどのようなものがあるか具体的に調べる。
2. 一つのメディアを選択して、モデル教材の分析を行う。
(演習Ⅰではコンピュータ教材は扱わない。)
3. 学生各自が学習教材の試作を行う。

【授業計画】

講義方式はとらない。ガイダンスとアドバイスにより学生自ら調査研究と制作作業を行う。

【評価方法】

演習参加の姿勢とレポート及び制作した作品により評価する。

【テキスト】

なし。

メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

石田米和

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

演習Ⅰでのテーマをより深化させて、関心テーマの絞り込みから卒業論文作成の計画と指導へと繋げていく。

概ね以下の項目についての指導を行っていく。

メディア文化に関する議論、個別研究

関心テーマの絞り込み

卒業論文の作成計画

卒業論文の執筆

【授業計画】

徹底的な議論と学生諸君の発表とをベースに進めていく。主体的かつ積極的な態度、十分な学習時間、海外文献のための英語力等が必要である。

【評価方法】

受講資格は特にない。

評価はレポート提出、定期試験、受講態度、出欠・活動状況により行う。

【テキスト】

未定。

メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

大西 誠

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

演習Ⅰ a・bをさらに発展させる。

メディアプロデュースの実際について、計画から実施までのシミュレーションを作成する。それぞれの感覚や独自性の伸長をはかるため、個別課題にとりくむ。

<前期>

各自の課題を明確にし、映像と理論について理解を深める。

- 1) 映像分析
- 2) 映像批評

<後期>

具体的に成果物の作成にとりくむ。

【授業計画】

研究発表と討論、一部フィールドワーク。課題の深化のため、個別指導を求めることが望ましい。

【評価方法】

レポートの提出。作品制作により総合的に評価。

【テキスト】

特になし。

メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

五島幸一

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

現代社会においてはマスメディアを通して様々なものが伝達されてくる。とくに、テレビ、ラジオ、新聞などのメディアが私たちに与える影響は大きい。そのようなメディアを通して私たちが毎日触れるものには「説得」という要因が必ず入り込んでいる。そこで、この説得の構図がどのようになっているのかをこの授業では検討する。

本演習では、メディアが私たちにどのように影響を与えるのかということばかりでなく、メディアが個人、グループ、政府または政治家によってどのように影響を受けているのかということも考察していく。

ここでの視点は、コミュニケーションの一分野としてのレトリック的な見方であり、マスメディアを通してのニュース報道、広告や政治がどのように現実を形成し、また態度や行動にどういった影響を及ぼすのかを考察する。

【授業計画】

テキストを中心に、随時プリント教材も配付する。学生の発表を主体とする。

【評価方法】

与えられた課題についてのプレゼンテーション、および学期末に提出するターム・ペーパーをもって評価の対象とする。

【テキスト】

未定。

メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

坂元 多

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

演習Ⅰをふまえて、映像試写、映像制作をとおして映像への一層の理解を深める。

課外での自主的映像制作を前提とし、互いに制作者と観賞者の立場から、作品の試写、質疑、討議、評価を行う。

【授業計画】

試写と討議を中心とする演習。

【評価方法】

発表、討議、レポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

親松和浩

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

演習Ⅰをふまえて、各自が具体的なテーマを設定し、科学技術に関する調査研究論文（あるいは製作作品）を完成させる。

【授業計画】

学生の発表、ディスカッションによって調査研究（作品製作）を掘り下げていく。演習Ⅰ同様、資料の配付や収集、レポート提出には電子メールとWWWをフルに活用する。

【評価方法】

出席状況と報告レポート等で評価する。

メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

辻 紘良

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

演習Ⅰで体得した現実のマルチメディア技術諸相の認識を基盤とし、次の研究Ⅰ～Ⅲを並行して進めていく。

(研究Ⅰ) マルチメディア社会に関する調査分析を試みる。例えば、市民インターネットや電子商取引など具体例を取り上げ、それらの現状と将来を調査し、分析を加え、地域社会や産業の活性化、国際化にどのように影響を及ぼすかを考察する。

(研究Ⅱ) 演習Ⅰの延長でマルチメディアを総合的に駆使してデジタル映像等の作品作成を行う。

(研究Ⅲ) マルチメディアに関する要素技術をより深める実験・研究を行う。

【授業計画】

(研究Ⅰ) は前期は調査が主、後期は具対例を対象に分析・考察し、論文にまとめる。前期はマルチメディアに関する技術やシステムの最近の動向、社会への普及の状況等を調査する。後期は具体例を取り上げ、現状の調査に加え、地域産業の活性化や国際化に及ぼす影響等を考察する。調査対象は一人一つを選び、前期に専念して調査する。後期は各自がその結果を用いて現状や将来を考察するとともに、論文を作成する。これらを随時、各自が発表するとともに全員で討議し問題の認識を深める。講義や、クラス討議を通して各技術の位置づけや、関連性を理解する。これらを通して、マルチメディアに関して具体的で幅広い認識を得る。

(研究Ⅱ)、(研究Ⅲ) に関しても上記と同様に前期、後期の段階を追って研究を深める。

受講にさいしては「コンピュータ演習9、10、11」の履修が望ましい。学内ネットワーク利用資格は取得しておくこと。

【評価方法】

中間報告やクラス討議、ならびに論文の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考書籍】

月刊 マルチメディア (日経BP社 1996-1999) 等

メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

東浦信博

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

演習Ⅰに引き続き、Ⅱでは主としてメディアをミックスあるいはマルチ化された教材について研究・制作を行う。

4. メディアミックス・ハイパーメディア・マルチメディアについて調べる。
5. コンピュータ上で扱える教材について研究する(インターネットを含む)。
6. 学生各自が学習教材の試作を行う。

【授業計画】

講義方式はとらない。ガイダンスとアドバイスにより学生自ら調査研究と制作作業を行う。

【評価方法】

演習参加の姿勢とレポート及び制作した作品により評価する。

【テキスト】

なし。

住生活論

渥美正子

1年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

住まいは家庭生活の「器」とあるという視点にたつて、私たちの家庭生活とその空間的表現の場としての住まいとの対応をどのように位置づけるべきかの基本的な考え方を学ぶ。住まいは、人間の生存と生活の基盤であるため、住まいのあり方は生活を大きく規定する。住まいとは、子どもたちが、人格を形成し成長・発達をすると共に、成人が精神を安定していく、豊かな文化の源泉となる空間であることを理解したい。講義を中心に進める。

【授業計画】

1. 住生活とは～住まいと生活
2. 風土と住まい 日本の風土と住宅形式
3. 民家
4. 日本住宅の原型 寝殿造
5. 書院造
6. 日本住宅の封建性
7. 住生活の洋風化
8. 住生活の秩序化
9. 戦後のモダンリビング
10. ポスト・モダンリビング
11. 日本の起居様式
12. 家庭生活を映し出す住まい

【評価方法】

試験とレポートによって行う。

【テキスト】

図解住居学1 住まいと生活 (岸本幸臣他編著 彰国社)
プリント配布

【参考書籍】

日本の住まいⅠ (西山卯三著 勁草書房)
日本の住まいⅡ (西山卯三著 勁草書房)
すまい考今学 (西山卯三著 彰国社)
住まいを考える (住環境の計画編集委員会編 彰国社)

生活環境学

渥美正子

1年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

住まいを取り巻く社会的環境の変化は、住宅・住環境面に対して様々な問題を提起し、従来の住み方を見直す要因となっている。高齢社会の進行、高度情報化社会の到来、人工的室内環境、家族・ライフスタイルの多様化、地域コミュニティへの無関心など、住生活に関わる今日の問題を客観的に把握し、健康で文化的な住まいの実現に向けての問題解決の視点を考察していく。講義を中心に進める。

【授業計画】

次のような構成で進める。

I. 家族・ライフスタイルの多様化と住まい

家族の形態・機能・関係・役割が変容するなかで、住宅・居住地に対して、新たにどのような機能が求められているのかを考える。

II. 高齢社会と住まい

高齢者の多様な居住形態を保障し、高齢者など弱者が健康者と共生しながら、人間らしい生活ができる住まいと住環境のあり方考える。

III. 子どもと住まい

子どもは自らの意思で住環境を選択できないため、健全な発達を保障する住環境を、子どもの視点にたつて整えることは親や大人の責任である。子ども部屋のあり方、高層居住と子どもについて考える。

IV. 健康と住まい

近年、住まいと健康をめぐる議論が活発化してきた背景を探り、住み方の側面から健康的な住まいを考える。

V. 地域生活と住まい

地域、コミュニティのなかで住まいをとらえる。近隣関係の今日的機能、集合住宅の管理問題、新しい集住について考える。

【評価方法】

試験とレポートによって行う。

【テキスト】

図解住居学1 住まいと生活 (岸本幸臣他編 彰国社)
プリント配布。

住宅政策論

渥美正子

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本における住宅問題の発生についての歴史的経緯と、戦後の住宅政策の特性について考える。経済大国でありながら、先進諸国のなかで貧しいといわれるわが国の住宅事情の特徴と背景を探り、人間らしい住まいを実現するための住宅政策の理念について、西欧先進国との比較を交えて考察する。また、住まいの質的向上の原動力となる住教育の実情や、消費者問題について論ずる。

【授業計画】

1. 住宅問題とは何か
2. 住宅政策の考え方
3. 日本の住宅事情
4. 居住水準の実態と問題点
5. 日本の住宅政策 公営
6. 公団
7. 公庫
8. 現行住宅政策の問題点と課題
9. 住宅供給の実績
10. 消費者問題と欠陥住宅
11. 住教育の課題と展望
12. 居住の権利と住居法

【評価方法】

出欠状況とレポート・試験によって総合的に評価する。

【参考書籍】

現代社会とハウジング（巽和夫編 彰国社）

変貌する住宅市場と住宅政策（伊豆宏編 東洋経済新報社）

住宅貧乏物語（早川和男著 岩波新書）

居住福祉（早川和男著 岩波新書）

住教育—未来へのかけ橋（住環境教育研究会編 ドメス出版）

建築計画論 I（住宅）

垂井洋蔵

1年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

建築のデザインを学ぶためにはまず建築で扱う空間がどのような概念であるかを知らなければならない。また建築空間をデザインするということは具体的にどのようなプロセスなのであるかを理解しなければならない。建築を学ぶ第一歩として、住宅という最も人間にとって基本的な建築空間を題材にしながら上記のテーマについてまず解説する。それをふまえて、住まうことに関わる建築を設計するために必要な住要求、建築意図や設計条件の把握、分析の方法、また住宅設計の基本となる構造、設備、材料に関する知識を設計者の立場から総合的に修得することを目的とする。

【授業計画】

- 1 建築とは、建築家とは、建築で扱う空間とは
- 2 住みやすい住宅を作るために 建築計画学
- 3 安全な住宅を作るために 建築構造学
- 4 快適な住宅を作るために 建築環境工学
- 5 美しい住宅と町並みを作るために 建築デザイン
- 6 住宅の設計に関わる法律 建築関連法規
- 7 各室の計画1 招き入れる空間
- 8 各室の計画2 集まる空間
- 9 各室の計画3 私的空間とサービス空間
- 10 近年の住宅作品の実例 計画上の試みとデザイン
- 11 住宅計画の今日的課題 高齢者 健康 省エネ
- 12 まとめと質疑

【評価方法】

講義への出席状況、小レポートの提出、期末試験の結果を総合評価する。

【テキスト】

スライド、OHP等の視覚資料を用い、できるだけ実例を示しながら講義を進める。

講義のはじめに必要な資料をその都度配布する。

建築計画論Ⅱ（計画各論）

垂井洋蔵

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代の施設設計は、従来からの建築種別にとらわれない複雑な複合化、新しい要求や情報メディアの登場、社会構造の変化に直面している。こうした建築設計に関わるさまざまな外的条件の分析や、計画に先立つ建築企画の手法の理解とともに、建築計画上考慮すべき機能上の諸要求、法規、それらに対応する新しい計画上の試み等、施設計画上に必要な諸知識の体系的な修得を目的とする。

【授業計画】

以下の6テーマについて各2週にわたり講義する。

- 1 住居系施設
新しい集住の形態と、集合住宅
- 2 教育系施設
新しい教育方法論に基づく学校計画の試み
- 3 医療・社会福祉系施設
病院、診療所計画の基本と、高齢化社会に対応する医療福祉施設計画
- 4 文化系施設
新しいメディアと情報の共有、発信の場としての複合文化施設計画
- 5 商業系施設
大規模複合施設とオフィス計画の今日的課題
- 6 施設計画の手法
地域活性化施設の企画と、諸提案の実例

【評価方法】

講義への出席状況、小レポートの提出、期末試験の結果を総合評価する。

【テキスト】

講義のはじめに必要な資料をその都度配布する。

【参考書籍】

新建築学体系（彰国社）
建築設計資料集成 コンパクト建築設計資料集成（丸善）
その他講義中に参考図書を紹介する。

建築計画論Ⅲ（環境心理）

日色真帆

3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

建築や都市における人間と環境との関係について、個人や集団の行動、環境の知覚や認知、それらの時間的変化などの視点から学ぶ。スケール、状況、利用者の違いを理解し、人間と環境との関係の質をたかめるデザインのあり方を考える。また、これらを学習する中で環境心理学の基礎的な諸理論と研究方法を習得する。

【授業計画】

- ・文化と空間：パーソナルスペースや人のテリトリーについて述べ、その文化による差異を取り上げる。
- ・環境認知：環境認知やそれを支える空間認知の問題を取り上げ、その構造や発達に関する理論を解説する。
- ・Wayfinding：環境認知の典型として、人の動きと空間の認知を扱う。特にwayfinding（経路探索）における迷いや発見を切り口に理論や研究方法を紹介する。インターネットなどハイパーテキスト上の移動にもふれる。
- ・シークエンスと表記法：建築の内部空間やアプローチ、庭園などの例を取り上げ、人の行動や体験を記述し、分析し、デザインする手法を学ぶ。
- ・居住環境、多様な利用者：居住環境をとりあげ、人間環境系としてとらえる視点を示す。
- ・都市環境のデザインへ：都心と郊外という対照的な環境を取り上げ、総合的な見方を示す。その環境の質を向上する方法として、デザインの意味について述べる。

【評価方法】

評価は、数回のレポートと期末の試験によって行う。

【テキスト】

環境と人間（高橋鷹志・長澤泰・西出和彦編 朝倉書店）

【参考書籍】

建築・都市計画のための空間学事典（日本建築学会編 井上書院）
人間環境学（日本建築学会編 朝倉書店）
建築人間工学事典（日本建築学会編 彰国社）
建築理論の創造（J. ラング著 鹿島出版会）
場所との対話（J. ファーブスタイン他著 TOTO出版）
人間-環境系のデザイン（日本建築学会編 彰国社）

現代デザイン史

河辺泰宏

1年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

19世紀から現在に至るまでの欧米におけるデザイン思潮の流れを概観し、社会状況や生活様式、生産様式の変化との関わりの中で、近代デザインが成立した過程を知るとともに、デザイン分析を通じて近代社会の歩みを理解する。

【授業計画】

- 1) デザインの意味と力
大量消費社会におけるデザインの意味と可能性
- 2) エンジニアの勝利
産業革命による新技術が空間デザインに及ぼした影響
- 3) デザインによる革命
アーツ・アンド・クラフツ運動の歴史的意義
- 4) 世紀末の華燭
世紀末の社会現象としてのアール・ヌーヴォー様式
- 5) アール・ヌーヴォーの光と影
世紀末芸術家達の私的課題と社会的課題との乖離
- 6) ロマンティック・ナショナリズム
世紀末スペインにおける地域性と共通性の問題
- 7) 新世紀の光芒
分離派とマッキントッシュにおける新デザイン原理
- 8) 摩天楼の夢
第一次大戦後の機械文明の成熟とアール・デコ様式
- 9) ポスターの英雄時代
商業化社会におけるグラフィックデザインの歴史
- 10) 産業化された美意識
大量生産システムを前提とした機能主義的デザイン
- 11) 白の時代
バウ・ハウス以後のモダン・デザインの特質
- 12) 新世紀末の回航
多様化した現代のデザイン傾向とポスト・モダン

【評価方法】

レポートを課す。

【テキスト】

世界デザイン史 (阿部公正監修 美術出版社)

建築史 I (西洋)

河辺泰宏

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

建築の様式史を中心に、様々な時代の価値観の移り変わりや建築様式との関わりについて論じる。とくに、社会体制や建設技術の革新と建築造形との結びつきに注目する。

【授業計画】

- 1) 建築に託された人類のメッセージ
古代エジプトにおけるピラミッド建設の意義
- 2) 人と神と王の建築
古代メソポタミアのジグuratとエジプトの神殿建築
- 3) 民族と神々
ギリシアの神殿とペルシアの宮殿に見る民族の表現
- 4) アーチ文化の起源と発展
古代ローマ建築におけるアーチとオーダーの意味
- 5) ローマに生まれた神の館
初期キリスト教時代とビザンティン帝国の教会堂建築
- 6) 世界の終末を越えて
至福千年説とロマネスク建築の興隆
- 7) 地上の天国
ゴシック建築の構造と表現
- 8) 人と神の対話方式
マホメットの帝国とイスラム建築の特質
- 9) 再生という名の創造
ルネサンス建築における科学と芸術の融合
- 10) 不安と成熟のマニエリスム
16世紀イタリア芸術に見る原則性と非原則性
- 11) 建築のドラマツルギー
反宗教改革から生まれたバロック建築の劇的性格
- 12) プロテスタンティズムの顔
建築におけるピューリタニズムと新古典主義建築
- 13) 様式の消費
19世紀リヴァイヴァリズムの時代

【評価方法】

レポートを課す。

【テキスト】

西洋建築史図集 (日本建築学会編 彰国社)

建築史Ⅱ（日本・東洋）

藤田盟児

3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本の建築や都市の歴史を通じて、日本人にとって重要と思われる空間概念や、空間構成について講義する。と、同時に、建築や都市と自然や文化の関係、あるいは木造建築の特質、アジアの他地域の空間文化との関係性についても理解できるように、時代順に講義する。

【授業計画】

第1講

概論1；わが国の単位空間のかたち

第2講

概論2；わが国の複合のかたち ー空間集合規則ー

第3講

概論3；わが国の空間文化論 ー景観と空間概念ー

第4講

各論1；先史時代 アジアの中の先史日本

第5講

各論2；アジア建築と日本の飛鳥・白鳳

第6講

各論3；奈良時代 礎石建建築の構造

第7講

各論4；平安時代 ー古代建築の意匠と技術ー

第8講

各論5；中世1 住宅様式の変化

第9講

各論6；中世2 新しい建築様式

第10講

各論7；中世3 中世建築の意匠と技法

第11講

各論8；近世1 武士の建築と2つの美意識

第12講

各論9；近世2 庶民建築と生産組織

第13講

単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

日本建築様式史（太田博太郎監修 美術出版社）

インテリアデザイン論

高橋敏郎

1年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

近世から現代に至るインテリアデザイン、家具デザインなどの思潮と様式を概観し、これを基盤として、空間を構成する各種エレメント（要素）や素材、造形のそれぞれの機能と意味について学習する。さらに、近未来に向けての、健康や安全を含むインテリアアメニティー高き空間創造について考察する。

現代に至る和、洋のインテリアデザイン、家具デザインなどの思潮と様式について、生活様式との関わり観点から歴史を考察する。次に、空間を構成する床、壁、天井などの各種エレメント（要素）のそれぞれの機能、工法、構成する材料などについての基礎的な知識を修得する。また、そのようにして構成された造形や、空間の意味、造形心理について学習する。さらに、快適環境をつくる基礎となる室内気候、環境設備機器についても基礎的な知識を修得する。

【授業計画】

テキストを中心に、OHC、VTR、スライドなどで学習する。随時プリント教材も配布する。

【評価方法】

学習した各单元ごとに小テスト、レポート課題などを実施、定期試験と合わせて評価する。

【テキスト】

インテリアデザイン教科書（インテリアデザイン教科書研究会編著 彰国社）

建築シンボリズム論

河辺泰宏

3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

建築や都市を時代の思潮を表現する視覚メディアとして捉え、古代から現代および洋の東西に渡る様々な造形様式の特徴と象徴性、あるいは記号論的な意味について考える。(本講義は、建築のメディア性を多角的に捉えなおし、様々な視座を与えるための実験的試みであるため、各授業のテーマはトピックとして独立しており、一回ごとに完結している。)

【授業計画】

- 1) 建築が語るとき
情報伝達手段としての建築デザイン
- 2) 権力とデザイン
絶対的な力の表現法と王のシンボリズム
- 3) 「家」のシンボリズム
日本の伝統的家づくりに見る格式的・封建主義的性格
- 4) 象徴としての洋風建築
近代洋風建築におけるステータスの表現方法
- 5) 象徴としての和風建築
伝統的数寄屋や現代建築における日本的なもの
- 6) 建築と装飾(1)～装飾する建築、しない建築
日欧における建築装飾に対する思い入れの違い
- 7) 建築と装飾(2)～機能と意味の分離
建築と装飾の境界・装飾の敗退と復権・虚構建築
- 8) 建築と装飾(3)～オーダーの誕生と死滅
ギリシア建築の装飾理念と古典主義建築の原理
- 9) 美しさの象徴化
デザインの美しさを保証する形と比例の理論
- 10) 建築の昇華
塔やドームにみるシンボル化と建築的実体の消滅
- 11) 建築の行き着く先
現代マネエリスムとポスト・モダンの諸様相
- 12) 仮想空間のシンボリズム
映画における象徴化と異世界のデザイン変遷史

【評価方法】

レポートを課す。出席重視。

【テキスト】

なし。プリント配布。

色彩計画論

高橋敏郎

3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

空間デザインにおける重要な要素である色彩と、色彩を生み出す根源である光(自然光、人工光)について基礎的知識を修得する。重ねて、色彩が心理に及ぼす影響を学び、これらの知識を基盤として、室内、建築、環境等の色彩計画をいかに行うかについて学習する。実際に色彩計画を行ったデーターを使用して、3D-CADなどを用いて色彩構成、照明シミュレーションやマッピングによる材料のテクスチャーと色彩の関係などについて検証する。

【授業計画】

テキストを中心に、OHC、VTRなどで学習する。随時プリント教材も配布する。CADデーターは支給する。

【評価方法】

期間中に数回の小テストを行う。この結果と、作品、定期試験を合わせて評価する。

【テキスト】

未定。

ファシリティマネジメント論

吉田邦彦

3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

施設を活かすための計画から管理運営までの新しい総合戦略であるファシリティマネジメント（FM：Facility Management）について、その基礎知識と固有技術の理解と修得を目的とする。

【授業計画】

以下の項目について講義形式で授業を進める。

- (1) FMの考え方と目的について概観
- (2) FMの主要な対象であるオフィスについて、歴史、レイアウト、インテリア、室内環境、情報化の現状、今後の動向等
- (3) FM戦略・企画、プロジェクト管理、運営維持などのFM基礎知識
- (4) 企画立案手法、執務空間の計画、施設性能評価法などのFM固有技術
- (5) FMの業務体系と今後の動向

【評価方法】

授業時間中の小レポートと、課題に対する期末のレポートとを総合して評価する。

【テキスト】

変化するオフィス（沖塩莊一郎他 丸善株式会社）。また、授業時間毎に、必要に応じてレジュメ資料を配布する。

都市計画論

瀬口哲夫

3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

都市計画論においては、現代の複雑な社会で生活して行く上での基本的な知識である都市問題を認識させると共に、都市のあり方を理解させる。その上で、都市計画理論や都市計画制度について解説し、都市計画（まちづくり）への市民参加のあり方などを講義する。授業では、具体的な都市や都市計画事例を取上げて、わかりやすく論じる。

【授業計画】

1. 現代都市の課題
空間的な課題
機能的な課題
2. 都市計画制度
総合計画
都市マスタープラン
都市計画
都市計画事業
3. 都市計画の個別的課題
住宅地計画
商業業務地区計画
工業地区計画
4. 都市開発
5. 都市計画行政
6. 欧米の都市計画制度
アメリカ
欧州
7. 欧米の都市開発
8. 現代都市の新しい課題
都市の成長管理
まちづくりへの市民参加
9. まとめ

【評価方法】

出席状況とレポート、さらに単位認定試験によって総合的に評価する。

【参考書籍】

講義中で紹介する。

都市景観論

清水裕二

3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

都市景観は我々にとって非常に身近でありながら、容易な分析を拒む複雑な事象である。この授業では具体的な例をとりあげながら都市景観を読み解くための様々な視点を提示し、都市景観についての理解を深めると共に、景観を形成する活動としての都市デザインの手法を学習する。

主な授業内容は次の通り。

1. 都市論・都市景観論

近代以降の都市論・都市景観論のなかから代表的なものを取りあげ、現代の都市を切り取る視点の多様さを認識する

2. 都市景観の構造

都市景観に潜む構造を抽出し、普段目にしていない都市とは異なる都市像を浮き彫りにする。

・自然：景観を形成する最大の要素である地形と景観の関係性を明らかにする。

・都市基盤（インフラストラクチャー）：インフラストラクチャーと景観の関係性から、現代都市の景観に影響を及ぼしている不可視の営みを捉える。

・郊外：近代都市が生み出した都市周縁の景観と、そこから派生する社会的状況について考察する。

・歴史：都市景観のなかに織り込まれた時間性をもとに現在の都市景観を再検討する。

・法規制、建築・都市計画：都市の景観をコントロールしようとする様々な制度について見てゆく。

3. 景観の視点

都市以外のフィールドから、都市景観を捉え直す

・集落：都市の原型ともいえる伝統的集落を見てゆくことで現代都市の逆照射を試みる。

・芸術：アースワーク、映画、写真、文学等の芸術において描かれた景観を分析する。

【授業計画】

講義を中心とし、いくつかのレポートを出す予定。

【評価方法】

出席状況、レポート及び試験により、総合的に評価を行う。

【テキスト】

特になし。

都市形成史

河辺泰宏

3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

都市の形成される過程と都市造形との関わりについて論じ、歴史的都市の成立過程と産業革命以降の近代都市の変化を明らかにする。また、都市再生や町づくりの様々な試みを紹介し、都市のアイデンティティの確立や機能開発についても考える。

【授業計画】

1) 都市文明をささえるもの

人口暴発と計画不能の巨大スラム都市の出現

2) 名古屋を読む

人工都市名古屋の都市計画の歴史をたどる

3) 格子状都市の履歴

古代文明から現代に至る格子状都市の特質を分析

4) 不整形都市～中世都市の営み

自然に発展した不整形な都市の秩序について分析

5) 放射状都市の論理

権力によってコントロールされた放射状直線街路

6) 水の都の物語

日本と西洋における親水都市の歴史

7) 実験都市ハウステンボスの挑戦

企業が経営する町

8) 近代都市計画の理論と実践

産業革命以降の都市の変化と新しい都市計画理論

9) 都市と広場と祝祭

都市における広場の歴史と役割

10) 歴史的資産による都市再生

環境改善策のための都市財産の保存と活かし方

11) 景観コントロールの意味と手法

景観論争とデザインコントロールの手法

12) 計画なき都市計画

挫折した首都復興計画と都市開発理念の国際比較

【評価方法】

中間試験とレポートによる。

【テキスト】

なし。プリント配布。

都市防災論

太田 裕

3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

近年の都市への人口集中にともなって、自然・人工災害から都市・人間を如何に守るかが、大きな課題となってきた。この問題の大局理解を主眼に前半では多様な災害について講述する。後半は被災から防災に至る一連の学理・計画論について、地震を事例とした系統講述を行う。モデル地区における、学生自身による調査の実施と分析を組み入れることで関連知識体得の促進と確実化を計る。

【授業計画】

- 第1講 都市被災・防災の一般枠組み
- 第2講 災害各論1－水・台風災害
- 第3講 災害各論2－土砂災害
- 第4講 災害各論3－火山災害
- 第5講 災害各論4－火災、人工災害
- 第6講 地震災害－世界・日本の地震
- 第7講 地震災害－1995年阪神震災
- 第8講 地域レベルの防災計画
- 第9講 世帯レベルの防災計画
- 第10講 モデル地区調査・分析（1）
- 第11講 モデル地区調査・分析（2）
- 第12講 モデル地区調査・分析（3）

【評価方法】

出席状況に加えて、モデル地区調査のレポートを重視して評価する。

【テキスト】

特になし。随時、プリントを配布する。

【参考書籍】

- 都市の防災（石井一郎 技術書院）
- 都市防災（吉井博明 講談社現代新書）
- 住まいの安全学（宇野英隆 講談社Blue Backs）

都市環境評価論

仁科浩二郎

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

環境に対する危機感が高まっているが、将来へ向けての対策を検討し、その効果を正しく予想するのはむずかしい。そこで、環境の評価に用いるさまざまな指標を理解することから始める。大気の汚染状況、雨水の酸性度、自然の放射線など、いくつかの指標の測定を通して環境を実感することから始め、初歩的な考察を試みる。

【授業計画】

- クラスの人数にもよるが、
環境指標の導入と解説に 6回程度
環境指標の数値例について 6回程度（測定と解説）
とする。

【評価方法】

2、3回の小レポートで評価。

【テキスト】

講義中に、各項目について挙げる。

建築環境学Ⅰ（熱・空気）

吉澤 晋

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

住居や建築物の内部・周辺における空気の汚れや暖かさなどの実状、そのでき方、工学的・社会的な対応方法等について考察する。

【授業計画】

- 1 空気環境概論
- 2 空気汚染の人体影響
- 3 室内空気汚染濃度
- 4 必要換気量と空気浄化設計
- 5 換気量の計算予測
- 6 風環境問題
- 7 室内熱環境問題
- 8 室内の熱環境はどうできるか
- 9 住宅などの暖冷房はどうしたらよいか
- 10 燃焼器具に起因した種種の問題
- 11 住宅換気
- 12 特殊施設の換気

【評価方法】

試験およびレポートの内容等による。

【テキスト】

なし。

建築環境学Ⅱ（音・光）

久野 寛

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

住居や建築物の内部・周辺における日照・照明などの視環境や音響・騒音などの音環境について、その性状や環境調整法・環境設計法について、講義する。

【授業計画】

1. 日照の意味、太陽の動き、日影
2. 直達日射と天空日射
3. 視覚
4. 光の物理
5. 照明計画
6. 色彩計画
7. 音響物理と聴覚
8. 室内音響学
9. 吸音と遮音
10. 騒音と対策

【評価方法】

試験およびレポート。

【テキスト】

授業中に指示する。

都市環境デザイン演習 I a・b

渥美正子

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

住まいを生活者の観点からとらえる。住生活とは、家庭生活の空間的側面であるとする、豊かな住まいとは、そこで豊かな家庭生活が展開する空間でなければならない。近年生じている家族・ライフスタイルの変容が、住まいにどのような変化や矛盾をもたらしているのかを客観的に見つけ、問題解決に向けての方向を探る。

【授業計画】

(前期)

日本の住様式の特徴を概観し、今日の住生活における問題を把握するための文献を購読する。報告者はレジュメを作成し、要旨・意見を発表し問題提起を行う。全員で討論する。

(後期)

各自で選択したテーマによって、調査、資料収集を行い発表・討論をする。最後にレポートとしてまとめる。

【評価方法】

出席状況と研究発表、討論への参加状況、期末レポートを総合して行う。

【テキスト】

未定。

都市環境デザイン演習 I a・b

河辺泰宏

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

文献講読、資料調査、施設見学、都市観察などの演習を通じて、日欧の都市と建築を中心に造形様式と社会状況との関連について考える。

とくに、建築や都市の歴史、歴史的文化遺産の保存・再生、近現代の建築デザイン等について、フィールドワーク等を行いながら体験的に学ぶことを主な目的としている。

【授業計画】

主な演習課題およびフィールドワークとして下記のような内容を予定しているが、フィールドワークの対象は適宜変更されることがある。

文献講読や見学会、研修旅行等にあたっては、レポート担当者や実行委員を決めて、報告や準備を行う。また、演習の根幹をなす見学会やフィールドワークには、必ず参加することが義務づけられる。

なお、年間を通じて1～2回の国内研修旅行、3～4回のフィールドワークおよび見学会を催すので、参加費用(5～7万円程度)を各自準備する必要がある。さらに、年度末には海外研修旅行を行うことがあるが、これについては有志参加とする。

- 1) 論説文の書き方
- 2) フィールドワークの仕方
- 3) 都市の開発と保存をテーマとしたフィールドワーク
(例) 名古屋市内(四間道から白壁町まで) / 妻籠
高山 / 京都 / 長浜etc.
- 4) 日本の近代建築をテーマとしたフィールドワーク
(例) 明治村 / 神戸etc.
- 5) 文献講読

【評価方法】

授業や見学会等への参加状況とレポート、課題発表の内容によって決める。

【テキスト】

日本近代建築の歴史(村松貞次郎著 NHKブックス)
近代建築史図集(日本建築学会編 彰国社)

都市環境デザイン演習 I a・b

清水裕二

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

建築や都市に関係するテーマであれば、特に限定はしない。建築や都市を通して現代社会の事象や問題について考察し、それらについてアクチュアルな提案を含んだ研究を目指してほしい。

授業の進め方としては、

1. ディスカッション：ふだん興味をもっていることや、問題を感じていることなどをもとに議論し、研究テーマを探り出してゆく。
2. フィールドワーク：テーマについて実際に現場へ出向き、自ら情報を収集する。
3. 調査・分析：フィールドワークで得た情報と、文献等で得た情報から、テーマに沿った分析・立論を行う。
4. 発表・講評：以上の過程を概要にまとめ、数週間ごとにレポートの作成及びプレゼンテーションを行い、講評を加える。プレゼンテーションは、各自のテーマに最も適していると思われるメディアを用いる。
5. 総合講評：前期、後期末に総合講評をおこなう。
6. まとめ：前期、後期末の総合講評にあわせて、それまでの作業経過を基本的な研究論文の形式をふまえながら小論文としてまとめる。

前期はテーマ別に数人のグループをつくって共同で作業を行う。後期は各個人のテーマをより突き詰め、それぞれで作業を進めることとする。

【授業計画】

ゼミ期間中を通して以上1～4の作業を繰り返し、5. 総合講評を経て、最終的に6. 成果物（小論文、図面、模型、映像等）としてまとめる。

【評価方法】

成果物と、その過程の発表、レポート等の提出物、出席状況等を評価の対象とする。

【テキスト】

特になし。

都市環境デザイン演習 I a・b

垂井洋蔵

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

現代の都市や建築をめぐる環境は様々な問題をはらんでいる。都市の個性化とアメニティーを生み出す都市中心部のリフォーム。画一化されつつある都市景観や町並みへの反省。多様化した価値観に対応する住宅デザインの方向性。伝統的デザインや住様式と近代性の関わり等。学生諸君の問題意識に基づくテーマ設定と、問題発見、分析、解決への提案という一連のプロセスを具体的プロジェクトを通して学ぶ。

【授業計画】

個々の学生の主体性に基づく問題の提起を促す。全員の発表によるディスカッションを通して、演習として取り組みうる共通テーマをいくつか設定する。それぞれのテーマについてグループまたは個人で現状分析、既存の取り組みの調査を行いそれをもとに問題解決の為の具体的プロジェクトをまとめる。前期はテーマ設定と分析を通して問題を明確化し、後期にはそれをもとに都市的、あるいは建築的な提案を発表する。既存の都市の具体的場所を設定した提案が望ましい。途中、学生諸君のモチベーションを高める目的で、都市や建築デザイン手法修得の為の作品制作演習や、テーマごとの建築作品の見学、名古屋市内の特定地域を設定した都市観察等を行う。

【評価方法】

最終的な提案だけでなく、各段階での取り組み、発想や分析のユニークさ、討論への参加の積極性等を総合的に評価します。

【テキスト】

使用せず。テーマごとに必読文献を指示します。

都市環境デザイン演習 I a・b

仁科浩二郎

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

都市生活、特にエネルギー供給・消費に関連して生ずる廃棄物・排出物が、自然環境に及ぼす影響に注目する。基本的かつ定量的なデータを調査・検討し、あるべき施策を探る。各種廃棄物処理、リサイクル方式の実働状況などの身近な視点から出発して21世紀の都市並びに地球の環境を考え、提言を目指す。

環境についての議論は多いが、データおよび全体の展望に欠けて断片的な主張・行動に止まることが多い。そこで国内ならびに国際的なデータ類の蓄積を図り、改善目標が個人生活にどのような行動要請となるかを検討し、現在の各種議論の妥当性・現実性を探る。

参考書の例：

○『どうなる地球・どうする21世紀』環境庁企画調査室編、大蔵省印刷局（1996年）。

○『地球温暖化を防ぐ』環境庁地球温暖化問題研究会編、NHKブックスNo. 599（1990年）

○環境白書 総説、および各論（平成9、10、11年度版）環境庁編

【授業計画】

前期：始動段階として、LAN利用能力および語学能力の確認、各種図書館の活用訓練などで学習体勢を整える。各人に共通性のある文献・資料を輪読する一方、エネルギー関係施設、消費財の生産現場、廃棄物関連施設などを学習の進行に応じて見学する。前期末までに各人テーマを設定し、定期的に各自の学習内容を発表する。

後期：各自が選んだテーマに沿って調査と検討を続け、クラスで発表する。消費生活・エネルギー消費と環境影響の因果関係、メカニズムについて、都市、あるいは国家規模で注目する。

【評価方法】

学習発表、討論参加状況、および期末レポートを総括して評価。

【テキスト】

上の「授業の概要」欄参照。

都市環境デザイン演習 I a・b

日色真帆

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

自分たちの居住環境を形成している、室内、建築、都市というそれぞれスケールの異なる空間について、現実の体験や観察の記述、図面やその他の視覚的な表記法、模型、写真、ビデオ、創作的な物語、コンピュータシミュレーションなど、さまざまなメディアを利用して、解読し評価することを学習する。調査や実験の方法についても一連の作業の中で習得する。特に都市住居を見直す視点からアプローチする。

【授業計画】

演習の進め方は、受講者と議論の上具体的に決めることとするが、「目標をたて、調査や実験をし、プレゼンテーションをする」という一連の作業を、数セット行うこととする。大学院生や4年生の研究テーマと関連づけて行うこともある。

- ・イントロダクション：居住空間を解読する視点を概説する。様々な分析手法についても解説する。
- ・見学：対象とする地域について見学をし議論を深める。
- ・調査・実験：各自が関心をもった側面について、それぞれ調査・実験を行う。
- ・中間発表会：調査・実験の経過について発表をし講評を受ける。
- ・調査・実験の追加およびプレゼンテーション作業
- ・講評会
- ・プレゼンテーション追加作業：講評会での批評をもとにプレゼンテーションの追加作業を行う。

【評価方法】

プレゼンテーションと提出されたレポートによって行う。

【テキスト】

特になし。

都市環境デザイン演習 I a・b

吉澤 晋

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

都市における住宅環境の改善を図るために必要なシステムと、環境的な改善技術およびそれに対するニーズを文献調査・討議を通して検討する。

【授業計画】

内容の例として、次のようなものが考えられる。

都市居住のニーズ

都市居住の健康的・社会的問題

住宅環境の改善方法

居住環境のシステムの課題

住環境教育

まず、全体についての概観を講義し、幾つかのグループに分けてそれぞれ課題を選定し、文献調査等によってレポートを作成、それをもとにディスカッションを行って全体のレポートをまとめる。個々の課題は学生の希望と関心、資料の入手可能性などから相談の上決める。

【評価方法】

ゼミへの参加、レポートの内容等による。

【テキスト】

なし。

都市環境デザイン演習 I a・b

吉田邦彦

3年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

学校・図書館・美術館等の公共施設、オフィスあるいは住宅等を対象として、情報化・長寿化が進む状況の中で、それらの施設や建物等のあり方や形態がどのように変化しつつあるかを調査・分析・検討する。その結果をもとに今後の変化の方向あるいは望ましい将来のあり方や形態を考察・提案する。これらの一連の作業を通して、調査・分析・評価のための技術を習得する。

【授業計画】

- (1) テーマ設定とグループ編成：各自が関心を持った側面について発表、討論の上、テーマや方法によって、2～4名でグループを編成する。
- (2) 演習実施計画の作成と発表：取り上げたテーマについて、どのような観点、方法、スケジュールでアプローチするかをとりまとめた実施計画を作成・発表し、討論する。
- (3) 調査・分析の実施：文献調査、現地調査、アンケート調査、ヒヤリング調査など適切な手法で調査し、結果の分析を行う。調査・分析は、各グループで、自主的に行い、その経過を随時報告し、全員で討議する。
- (4) 発表及び講評：各グループ毎に調査・分析の結果についてプレゼンテーションを行い、討議・講評を受ける。講評会での討議をもとに、追加・修正作業を行い、最終報告書のとりまとめを行う。
- (5) 演習に関する連絡等に、E-mailを利用するので、本演習希望者は、学内LAN利用講習会を受講し、学内LANの利用の手続きを完了しておくこと。
- (6) 「ファシリティマネジメント論」の授業を、3年の前期のうちに受講しておくことが望ましい。

【評価方法】

成績評価は、出席状況、討論への参加状況、研究発表の仕方、報告書の内容などを総合して行う。

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリント教材を配布する。

都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

河辺泰宏

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

デザインと建築の歴史、建築と都市の造形、現代のデザイン状況等に関連したテーマを扱った文献のサーヴェイリポートとフィールドワークを中心とした演習を行う。

本年度の主な課題としては、西洋建築史と日本近代建築史に関わる文献講読とデザインサーヴェイを考えている。

このほか、各個人の研究テーマを設定し、これを論文形式にまとめ、年度末に研究報告会を行うことを目標とする。

【授業計画】

文献講読やフィールドワーク等にあたっては、持ち回りで担当者を決めて準備・報告を行う。また、年度末の研究報告会は口頭試問として行うので、必ず参加しなければならない。

主な演習課題としては以下のようなものを予定している。

なお、3年生の演習Ⅰで研修旅行やフィールドワークを行うが、4年生も希望があればその都度、自主的に参加することができる。

- 1) 建築調査の仕方
- 2) サーヴェイリポートの書き方
- 3) 日本の近代建築に関するフィールドワーク
(例) 名古屋市内の近代建築遺産調査etc.
- 4) 各自の選択テーマに基づく調査・研究・発表

【評価方法】

授業・見学会・調査活動等への参加状況とレポート、論文発表の内容と口頭試問の結果によって決める。

【テキスト】

なし。必要に応じて参考資料を配布。

都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

清水裕二

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

都市環境デザイン演習のテーマ（建築や都市を通じた現代社会の事象や問題についての考察）をふまえ、それらを発展、深化させるかたちで卒業論文へとつなげることを目指す。

授業の進め方としては、都市環境デザイン演習に準じる。

【授業計画】

基本的には都市環境デザイン演習に準じる。研究論文としてのルールをふまえたうえで、発表や論文について検討を加えながら作業を進めてゆく。

【評価方法】

最終成果物（卒業論文）と、その過程の発表、レポート等の提出物、出席状況等を評価の対象とする。

【テキスト】

特になし。

都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

垂井洋蔵

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

原則的には演習Ⅰと連続性を持って進める。
本年度は昨年度、演習Ⅰで行った名古屋市に関する各自のテーマ設定に基づいて研究論文としてまとめる為の修正とテーマの絞り込みと、深化をめざす。既存の研究や提案との比較をとおして独自性のある視点を開発する。

【授業計画】

演習Ⅰと同様、以下の7つに大まかに集約された各自のテーマごとの発表と、討論を中心に進める。

- 1 軌道系新都市交通システムについて
名古屋市守山区におけるガイドウェイバス計画
- 2 都心部のアメニティー創出の為の再開発手法
名古屋市栄南地区の再開発
- 3 名古屋市の道路計画の歴史の変遷
- 4 大都市におけるウォーターフロント再開発
名古屋港の将来計画について、他の都市との比較
- 5 中部国際空港について
- 6 名古屋市中心部にのこる神社の組織と由来
現代日本の神社組織について
- 7 2005年愛知万博に伴う都市改造について

【評価方法】

テーマに対する自主的な取り組み、討論に対する参加の積極性を評価します。

【テキスト】

使用せず。テーマの各課題の理解に必要な文献を個別に提示します。

都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

仁科浩二郎

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

全体の学習の範囲・展望は、演習Ⅰとほぼ同じだが、調査対象、データ収集の範囲を広げ、考察を深くして学習を蓄積する。

当演習では特に温暖化、酸性雨、気候変動をエネルギー消費との関連で検討する。また微量有害物質の影響を調査し、これとの関連でリサイクル・システムについても調査を始めた。

地球環境の具体例として都市環境にも注目し、地方自治体の動き、地域的データも調査の対象とする。

参考書はその都度紹介する。例として：

1. 環境庁編、『京都議定書と私たちの挑戦』、(平成10年5月)
2. W.Strunk, Jr., and E.B. White, "The Elements of Style," The McMillan Company, New York (1959) またはその改訂版。これは英語論文に対する心得だが、その中で日本語論文にも当てはまる事項を読みなさい。
3. 沢田昭夫、『論文の書き方』、講談社学術文庫#153 (1977年)。

【授業計画】

演習Ⅰとほぼ同じであるが、学年末に卒業論文へのまとめを可能性として目指す。

【評価方法】

演習Ⅰと同じだが、ここでは、調査内容、およびそれから得た意見を系統的にまとめる能力を重要視する。

【テキスト】

上の「授業の概要」欄参照。

都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

日色真帆

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

建築や都市空間のデザインに関連して、教員と議論の上、学生がそれぞれに選択したテーマについて分析、調査、実験、考察を加え、研究レポートを作成する。デザイン的な提案をまとめる場合もある。この演習を通して各自テーマを絞り込み、卒業論文へと結びつけてもらいたい。

【授業計画】

受講者と議論の上具体的にテーマを決めるが、教員が掲げている最近のテーマは以下のようなものである。

- ・街区内のヴォイド空間の調査と提案
- ・都市空間のオープンスペースについての研究
- ・デパートなど商業空間におけるwayfindingの研究
- ・空間の表記方法「スペースブロック」の開発
- ・出来事の表記方法「イベントアイコン」の開発
- ・場面のデザインの視点から見た各種デザインの比較
- ・映画や演劇における場面デザインの分析
- ・回遊式庭園のwayfindingの分析
- ・ハイパーテキストのwayfindingの分析
- ・建築空間の転用に関する研究
- ・立体的に複雑な建築空間のデザインについて
- ・空間の境界としての建具についての研究
- ・都市空間の緑化についての研究

【評価方法】

評価は、研究レポートとそのプレゼンテーションによって行う。

【テキスト】

特になし。

都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

吉田邦彦

4年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

演習内容については、演習Ⅰを継続し、範囲を拡げるか、あるいは深く調査・検討する。今後の情報化・長寿化の動向と問題点の解決方法について学習する。ユニバーサルデザインの観点からの調査を行うなど、情報化・長寿化と人間との関わりについて体験的に理解することを狙いとする。

【授業計画】

演習の進め方は、演習Ⅰの方法を引き継ぐ。特定テーマについて、グループでの研究あるいは個人単位での研究を行う。研究論文としての形式、内容を重視した視点からの討議、講評を行う。

【評価方法】

成績評価は、出席状況、討論への参加状況、研究発表の仕方、報告書の内容などを総合して行う。

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリント教材を配布する。

下記の科目は、本年度開講しません。

建築計画論Ⅳ（設計方法）

吉田邦彦

哲学概論

河邑光夫

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

哲学を一つの専門学科として限定してみるのではなく、ソクラテスのフィロソフィーの精神をうけ、時代を生きながら真理を探究することと解したい。哲学とは隣人との、時代との真摯な対話である。しかし同時に哲学はプラトン、アリストテレスなどのすぐれた原典をもっている。哲学の原典の根本にあるものを説明するが、受講者はそこに人間に共通なものを見出し、ともに考えるようにしてもらいたい。つまりプラトンを通じて現代を生きる道を探りたい。

1. ガイダンス

日本の最初の哲学者西周を話し、東洋の日本人が西洋のフィロソフィーを学ぶことの意味を考えたい。

2. ギリシア哲学の立場

古代ギリシア文化を世界史的立場で把え、インドの仏教や中国の儒教と比較する。

3. ギリシアの自然の哲学とソクラテス

4. プラトンとアリストテレスの哲学

この二大哲学にその後の哲学の原型をみる。

5. アウグスティヌスのキリスト教哲学

6. デカルトの哲学革命

ガリレイ以来の科学革命とデカルト哲学についてのべる。

7. カントとヘーゲルの哲学

8. ヘーゲル以後の、現代の哲学

【授業計画】

講義はノートをとりながら聞いてほしい。前期にギリシアを終わりたいと思って始めるのですが、プラトンやアリストテレスを現代の我々とつなげて話すようにしているのでつい後期までずれこみ、計画通り進まないことが多い。この点は御容赦ねがいたい。

【評価方法】

哲学は自分で考えないところには存在しない。だから試験はあらかじめ問題を出しておきます。自分で勉強して下さい。哲学的にみてよく書けているかをみます。

【テキスト】

西洋哲学史（岩崎武雄 有斐閣 1,845円）

心理学概論

榊原國城

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

この授業では、個性や自己・他者理解のために、人間のパーソナリティ・発達・学習・動機づけなど、現代心理学の主なテーマを取り上げて解説し、考察していく。心理学が人間の意識と行動を科学的に研究する学問であることを受講者が理解することをこの授業の目的とする。

【授業計画】

I 心理学について

II パーソナリティ

1. パーソナリティとは
2. パーソナリティの理論
3. パーソナリティの形成
4. パーソナリティの測定
5. 知能と創造性

III 人間の発達

1. 発達とは
2. 発達研究の方法
3. 成熟と学習
4. 発達段階
5. 青年期の心理と行動

IV 学習と行動

1. 生得的行動
2. 学習と動機づけ
3. 個人と集団
4. コミュニケーションと相互理解

講義によって授業を進める。

【評価方法】

期末定期試験の成績によって評価する。出席率も成績評価の際に勘案する。また、総授業回数の3分の1以上欠席した場合は定期試験受験資格を喪失したものとみなす。

【テキスト】

心理学を学ぶ（神谷育児編著 1996 文教資料協会 定価 2,242円）

宗教学概論

川口高風

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

21世紀を目前にして情報化、国際化、少子化が進み、取り巻く環境も急速に変貌している今日である。人間の心の豊かさが求められ、生き方が問われている。まさに宗教の時代ともいえよう。本講義では、最初に宗教に関する学説や本質を学び世界の諸宗教を概観する。次に、日本の宗教に焦点をあてて役割や現代の状況などをながめてみる。また、各宗派の祖師の著作より言葉や思想の特徴も考察する。

【授業計画】

- 1：はじめに
- 2：宗教の学問的見方
- 3：宗教教義の構成Ⅰ
- 4：宗教教義の構成Ⅱ
- 5：世界の諸宗教Ⅰ
- 6：世界の諸宗教Ⅱ
- 7：世界の諸宗教Ⅲ
- 8：日本の諸宗教Ⅰ
- 9：日本の諸宗教Ⅱ
- 10：日本の諸宗教Ⅲ
- 11：各宗派祖師の略伝と著作Ⅰ
- 12：各宗派祖師の略伝と著作Ⅱ
- 13：まとめ

【評価方法】

学期末に行う論述式の試験と出席を評価の対象とする。

【テキスト】

特定せず。当方で用意するプリントと必要な場合は講義の時に紹介する。

日本史

岩口和正

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

近年、韓国大統領や中国の国家主席が来日し、あらためて東アジアの中での日本の過去や現在、また将来を考える必要に迫られています。ひるがえって、私たちは、わが国とこれらの国々との永い交渉や葛藤の歴史について、どれほどの知識を持っているでしょうか。くりかえし政治や社会問題ともなり、従って、多くの報道や著作に接することもできる近代のそれについてはともかく、前近代となると、はなはだこころもとないのが現状です。そこで、講義では、とりわけて前近代のわが国と朝鮮半島や中国大陸の諸国との交渉の歴史について概観し、あわせて、現代に至るまで積み残されてきた問題点を考えます。

- 1) 日本国号の成立
- 2) 古代国家の世界観・中国としての「日本」
- 3) 蝦夷・隼人 4) 蕃国としての新羅・渤海
- 5) 皇民と渡来人 6) 中世以降の日本と朝鮮半島の交渉
- 7) 大唐皇帝と日本国王 8) 遣隋使と遣唐使
- 9) 遣唐使派遣中止の歴史的意義
- 10) 日宋貿易と平氏政権
- 11) 蒙古襲来と朝廷・幕府
- 12) 足利義満と日明貿易

【授業計画】

参考史料はプリントとして配布し、講義はこれらの史料を解説しながら進めます。

【評価方法】

学期末テストによって成績評価をおこないます。

【テキスト】

使用しません。

世界史

山澤啓造

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

アメリカ合衆国は建国後わずか200年ほどの若い国であるのに、現代国際政治に占める比重は大きい。この合衆国の歴史を、世界史の中で位置づけた後に、政治・外交中心に第二次世界大戦まで学ぶ。

【授業計画】

テキストにしたがい、次の順序で学ぶ。

- ①世界史概観。高校で学習しなかった観点から考察する。
- ②地政学的観点からアメリカを学ぶ。
- ③新大陸発見、人種・民族・移民、アメリカ独立革命、アメリカ合衆国の成立を考察した後、第二次世界大戦までの著名な10名ほどのアメリカ大統領の略歴と、その間の合衆国の政治・外交の要点を考究する（序章、第一章～第十七章）。最もアメリカ人らしいアメリカ人であるベンジャミン・フランクリンやマニフェスト・デスティニーなどにも文章中で触れる。テキストに沿って授業を進めるので、予習することが望ましい。学生の質問や討議を歓迎する。

【評価方法】

定期試験と出席などで評価する。

【テキスト】

西洋史…アメリカ史点描…（山澤啓造、平成10年、改訂増補版、自費出版）

地理学

小笠原節夫

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

この授業は日本と世界の人口・集落・都市の地理についての理解を深めることを目的としている。

1. 人口の分布と増減
2. 人口の移動
3. 人口の構造
4. 人口問題
5. 集落の立地と形態
6. 都市の構造と都市システム

【授業計画】

テキストとプリントを用いての講義。数回の宿題を課す。

【評価方法】

試験、出席状況、宿題の提出状況による。

【テキスト】

人口地理学入門（小笠原節夫著 大明堂 2,000円）

地誌学

小笠原節夫

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

アメリカ合衆国・イギリスの風土と人々の生活についての理解を深める。

1. アメリカの自然と産業
2. アメリカの人口と農村・都市
3. イギリスの自然と産業
4. イギリスの人口と農村・都市

【授業計画】

テキストを用いての講義。数回の宿題を課す。

【評価方法】

試験、出席状況、宿題の提出状況による。

【テキスト】

イギリスとアメリカ (安藤万寿男・山鹿誠次著 大明堂 2,060円)

生涯学習論

鈴木正幸

集中 2～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

学校教育をも包含した生涯学習理論の構築について考察する。

それと同時に社会の変化とりわけ国際化社会における生涯学習論にも目を向けたい。

1. 「社会教育」から「生涯教育」へ
「教育」と「学習」、「新しい学力観」とかかわって
2. 生涯学習時代における学校
地域と学校の関係を問い直す。
3. 情報化時代と生涯教育
・コンピュータリテラシー
・メディアリテラシー
・高齢者とパソコン (私自身の事例をもとに)
4. 感育の時代
・感性を育む教育
5. 震災から学ぶ

【授業計画】

講義、ビデオ、スライド等により進める。

【評価方法】

集中授業最終時間にテスト (予定)。

【テキスト】

阪神・淡路大震災—その時留学生は— (鈴木正幸編 川島書店 1996)

老年社会学

西下彰俊

2~4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

「古い」(エイジング)の光と影を社会的に分析する！
これまで高齢者問題は老人福祉として論じられることが多かった。高齢者は社会学の客体として位置づけられてきたのである。しかし、すべての高齢者が介護の必要な福祉の対象になっているわけではない。我々の周り的高齢者を見ればそれは明らかである。本講では、社会の主体として的高齢者にも着目し、そうした高齢者が家族、友人、地域社会とどのような社会関係、コミュニケーション関係を形成しているのか、社会学の方法論を駆使しながら分析する。いわば、高齢者の光(プラス)と影(マイナス)の両面にせまり、理解を深めることが目的である。さらに、老人問題を自らの老後の問題として、言い換えれば、エイジング(加齢=老いつつある過程)を現在進行中のプロセスとして感得できる「柔らかなセンス」をお互いに養っていきたい。

1. 高齢者福祉

在宅福祉 施設福祉

新ゴールドプラン 公的介護保険の概要

公的介護保険の問題点 スウェーデンのヒューマンサービス

2. 老年社会学

主要な社会学概念 友人ネットワーク

家族ネットワーク ビデオ『二人だけで生きてかった』の鑑賞

社会参加と生きがい 幸福感と自殺率

新しい老後問題-タイプA型老人-

【授業計画】

教科書とハンドメイドのプリントを併用する。

【評価方法】

テスト80点、平常点が20点の合計100点で評価を行う。
平常点は、出席点と授業態度の合計である。適宜、出席の有無を確認する。

【テキスト】

改訂版 老人福祉論(浅野仁・西下彰俊編 川島書店 2,300円)

社会福祉学

野口定久

2~4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

今、わが国の社会福祉は、介護保険制度の導入や社会福祉基礎構造改革、NPO法の成立、地方分権の推進等これまでの社会保障・社会福祉のあり方に大きな転換を迫る動きが相次いでいます。本講義では、現代社会がかかえる今日的課題を整理しながら、これからの地方自治体の分権化と介護保険、地域福祉の有り様を、特に分権化と計画化、介護保険とNPO、福祉コミュニティの形成、保健・医療・福祉情報システムの確立といった観点から、来るべき21世紀の社会福祉学の方向性を模索します。

1. 現代社会における地域生活・家族の変容と地域福祉
社会福祉のパラダイム(実践的・理論的枠組み)転換を迫っている現実の問題をひとりひとりの人権の問題、家族の問題、地域社会の問題として具体的にとりあげます。

2. 介護保険制度と地域福祉システム

介護保険制度を含む地方自治体及び広域圏における保健医療福祉サービスのマネジメントと地域福祉システムの開発について説明します。

3. 社会福祉サービス供給システムの総合化と連携

市町村自治体レベルでの保健医療福祉の社会的ケア体制の確立、在宅福祉と施設福祉の統合化等政策と実践の諸課題に対応する多様な社会サービス供給主体のマネジメントや地域活性化との関係を理解します。

【授業計画】

テキストを中心に最近の社会福祉の動向と地域福祉の方法等をレジュメやビデオ等によって紹介します。ときどき感想文で講義内容への疑問や講義の仕方などに応えながら、双方向でわかりやすい講義内容に努めます。

【評価方法】

期末試験によって行います。

【テキスト】

地域福祉(野口定久他編 へるす出版)

【参考書籍】

社会福祉入門(岩田正美・上野谷加代子・藤村正之著 有斐閣アルマ)

下記の科目は、本年度開講しません。

人文地理

小木曾通男

2～4年 後期 選択 2単位

家族社会学

自然地理

小木曾通男

【授業の概要】

アジア諸国について、各国の歴史と文化の概要を学習するとともに、アジアの諸地域の人々が、どのように生活しているかについて、特徴的な事例を学習する。

アジア諸国と日本との歴史的な関係、現在における経済的な関係についての学習を通じて、アジア諸国についての認識を深めることを期待する。

【授業計画】

(1) アジア諸国について、各国別に次の基本的事項について学習する。

- ①気候と地形の概要
- ②旧支配国（植民地）と独立
- ③宗教、言語等の文化の概要
- ④民族構成、総人口、都市人口
- ⑤資源、産業、経済（国民所得、通貨）
- ⑥政治形態、教育制度
- ⑦その他の特色

以上の基本的事項について、各自に調べて発表することによって授業を進める。

(2) アジア諸国と日本との関係について、次の基本的事項について学習する。

- ①日本との経済関係（貿易、援助）
- ②人的な交流関係
- ③第2次世界大戦下の日本との関係

(3) 日本とアジアの関係

【評価方法】

授業時間中に指示する課題により評価する。

【テキスト】

授業でプリントを配布する。

中学又は高校で使用した地図帳。

【参考書籍】

東南アジアを知る事典（平凡社）、世界国勢図絵

建築構法

高田豊文

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

地震や風などの外乱に対して建物が安全であるためには、適切な構造形態および構造材料を選択する必要がある。本講義では、建築構造の基礎的概念の理解を目的として、木材・鋼材・コンクリートなどの構造材料、およびラーメン・アーチ・トラスなどの構造形態の特性を概説する。

【授業計画】

- 第1講 各種構造材料の概論
- 第2講 各種構造材料の特徴
- 第3講 各種構造形態の概論
- 第4講 ラーメン構造
- 第5講 壁式構造
- 第6講 アーチン構造
- 第7講 シェル構造
- 第8講 ドーム構造
- 第9講 平面トラス構造
- 第10講 立体トラス構造
- 第11講 テンション構造
- 第12講 テント構造
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

初めての建築構造デザイン (宮元健次著 学芸出版社)

建築構造Ⅰ (力と骨組み)

青木孝義

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

建築構造Ⅰ (力と骨組み) は建物を安全に設計するために、建物に力が作用した場合、建物のどの部分に、どれだけの力が、どのように作用するかを学ぶ分野である。

本講義では、線材の力学を中心に力の釣り合いやエネルギー原理を理解し、荷重や強制変位に対して、トラス、梁、ラーメンなどの構造物がどのように変形し、どのような応力状態となるかを解明し、構造物の強度や剛性や安全性に関する性質を学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 概論、荷重、力と反力、力の釣り合い
- 第2講 骨組、安定と不安定、静定と不静定
- 第3講 トラスの力学 (1)
- 第4講 トラスの力学 (2)
- 第5講 エネルギー原理 (1)
- 第6講 エネルギー原理 (2)
- 第7講 梁の力学 (1)
- 第8講 梁の力学 (2)
- 第9講 梁の力学 (3)
- 第10講 断面の性質
- 第11講 たわみ角法
- 第12講 たわみ角法

【評価方法】

出席状況、レポート、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

適宜プリントを配布して教科書に代えます。

【参考書籍】

- 建築構造力学 (武藤清他著 オーム社)
- 建築構造力学図説・演習Ⅰ、Ⅱ (中村恒善編著 丸善)
- 建築構造力学1、2 (和泉正哲著 培風館)
- 建築構造力学Ⅰ、Ⅱ (山田孝一郎他著 森北出版)
- よくわかる構造力学の整理と演習
- 静定構造編 (伊藤実他著 学隆社)
- 不静定構造編 (伊藤実他著 学隆社)

建築材料

山田和夫

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代の建築構造物を代表する構造形式は、鉄筋コンクリート構造と鉄骨構造である。本授業では、これらの構造物を構成する素材、すなわちコンクリートおよび鉄鋼の製造方法と各種性質について述べるとともに、仕上げ材料として使用される各種の天然素材および人工材料の基本的特性に関する知識も修得できるように講義する。

【授業計画】

- 第1講 建築材料の分類と講義予定の説明
- 第2講 コンクリートの種類と製造方法
- 第3講 フレッシュコンクリートの性質
- 第4講 硬化コンクリートの強度性質
- 第5講 硬化コンクリートの変性性質
- 第6講 鉄鋼の種類と製造方法
- 第7講 鉄鋼の諸性質と鋼材規格
- 第8講 金属系材料
- 第9講 石質・木質系材料
- 第10講 粘土・セラミック系材料
- 第11講 高分子系材料
- 第12講 屋根葺き材料
- 第13講 壁・天井材料
- 第14講 塗料・接着剤・シーリング材

【評価方法】

出席状況と定期試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

建築材料（第2版）（小阪義夫他著 理工学社）

建築材料実験

山田和夫

2年 後期 選択 1単位

【授業の概要】

現代の建築構造物に使用されている主用構造材料は、木材、鉄鋼およびコンクリートである。これらのうち、木材と鋼については、建築技術者がこれらの材料の製造を担当することは殆どないため、専ら材料または構造物としての性能を評価するための実験が重要となるが、コンクリートについては、その製法と性質に関する実験が重要となることが多い。そのため本授業では、これらの点を十分に考慮して半期で修得すべき重要な実験項目を厳選した。

【授業計画】

- 第1講 各種実験方法および実験予定の説明
- 第2講 測定方法および実験値の整理方法の説明
- 第3講 骨材・セメントの試験
- 第4講 コンクリートの調査設計
- 第5講 コンクリートの打設
- 第6講 コンクリートの強度試験
- 第7講 鉄筋コンクリートはり・柱の製作
- 第8講 鉄筋コンクリートはりの曲げ実験
- 第9講 鉄筋コンクリート柱の圧縮実験
- 第10講 木材の引張・曲げ実験
- 第11講 鋼材の引張・曲げ実験
- 第12講 鋼部材の曲げ実験
- 第13講 鋼部材の圧縮実験
- 第14講 鋼構造の実験

【評価方法】

出席状況とレポートの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

構造材料実験法<第2版>（谷川恭雄他著 森北出版）

空間設計Ⅰ（設計基礎）

清水裕二 伊藤恭行 小林聡

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

与えられた条件から導き出される建築的解答はひとつではない。この授業では、ある与条件からコンセプト（概念）を整理しつつ空間を構築してゆく訓練を行い、より複雑な建築を設計するための基礎体力を養うことを目標とする。ここでは、人と同じものを作ることよりも、自分なりの答えをみつけることが期待される。

授業の進め方としては

1. 課題の提出：条件の提示。
 2. コンセプト：与条件に対して自分はどのような考え方で空間を構成してゆくのかを言葉やダイアグラムを用いて練る。
 3. プレゼンテーション：スケッチ、図面等によるプレゼンテーションを行う。
 4. エスキース：議論を通じて案をリファインしてゆく。
 5. 図面化：最終的な案を平・立・断面図、パース等を用いて表現する。
 6. 講評会：図面を用いての最終プレゼンテーションを行い、講評を受ける。
- という流れとなる。

【授業計画】

いくつかの課題を出題し、数週間製図作業とエスキース（2～4）を繰り返した後、課題を提出し、最後に講評会を行う。

【評価方法】

出席状況と提出された課題をもとに評価。

【テキスト】

特になし。

空間設計Ⅱ（小規模施設）

日色真帆 小林聡

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

空間設計Ⅰをふまえて、周辺環境も考慮した小規模な施設の設計を行う。現地調査、資料収集、事例研究などをふまえて、図面、模型、CAD、写真、スケッチ、文章など、さまざまな表現手段を使って、案をまとめあげるトレーニングを行う。プレゼンテーションの仕方についても学習する。

【授業計画】

- ・出された課題に対して、エスキースを作成し、教員の指導を受けながら案をまとめる。
- ・最終的に図面や模型で表現し、講評会でプレゼンテーションを行い講評を受ける。
- ・課題は2～3課題出される予定である。
- ・具体的な課題は、講義の中で説明する。
- ・グループ分けを行い、2名の教員で分担して指導する。

【評価方法】

提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

【テキスト】

特になし。

計画演習Ⅰ（図面表現）

清水裕二 渡辺 達

1年 前期(集中)・後期(通常授業) 選択 2単位

【授業の概要】

建築は設計者、施工者、その他多くの人々の共働によってつくられる。建築設計製図は、それら建築に携わる人々を結ぶコミュニケーション手段であり、基本言語であるともいえよう。計画設計演習Ⅰでは、構想⇄平面⇄立体といったプロセスを通じて設計に必要な空間把握力や、図面から立体的な空間がイメージできる能力を修得するとともに、建築設計製図作成上に必要な諸々の製図記号、表現方法を演習を通して学び、設計意図の有効なプレゼンテーション技法を身につけることを目的とする。

1. 平面と立体：立体をいかにして平面上に表現するのか。正投影法、透視図法など、いくつかの図法を通じて学んでゆく。
2. 建築設計図面の基礎：製図記号などの基本的言語を身につけ、平面図、立面図、断面図など、建築設計図面の読み方、描き方を修得する。
3. 様々な図面表現：必要なことを過不足なしに伝える図面から、アピールする図面をめざし、建築家の図面などを中心に様々な図面表現を紹介し、プレゼンテーションの幅を広げる。

<受講上の注意>

- ・一級建築士受験資格の取得を目指している人は、必ず受講すること。
- ・基本的製図用具（三角スケール、三角定規、製図用シャープペンシル、テンプレート等）が必要。詳細は授業のガイダンスで説明する。学内での販売も行う予定。

【授業計画】

1. 製図法や図面表現に関する解説を行った後、課題を出題する。
2. 数週間製図作業を行い、課題を提出する。
3. 授業中作業する課題以外に、いくつか宿題を出す予定。

【評価方法】

出席状況と提出された課題、宿題をもとに評価を行う。

【テキスト】

「建築設計演習 基礎編 建築デザインの製図法から簡単な設計まで」武者英二+永瀬克己（彰国社）

「コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善）

計画演習Ⅱ（都市観察）

日色真帆

集中 2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

特定の都市空間を対象として、観察、調査、分析を行い、それらの結果をプレゼンテーションするまでの一連のプロセスを経験する。特に物理的な空間と、そこでの人間の行動や出来事との関係という視点から考察を行い、空間デザインの効果と影響、さらに可能性について具体的に明らかにする。

【授業計画】

- ・集中授業として行い、短期間で調査から発表までまとめるトレーニングをする。
- ・プレゼンテーションは、大判の用紙を用いることを原則とするが、コンピュータによるプレゼンテーションも可とする。
- ・原則的に個人で行うが、調査に関してはグループ作業を行う場合もある。
- ・具体的な対象空間は授業の中で発表するが、名古屋近辺とする予定である。

【評価方法】

プレゼンテーションの結果で評価する。

【テキスト】

特になし。

計画演習Ⅳ (CAD基礎)

垂井洋蔵

2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

建築設計、デザイン、設計図の作成等の諸場面におけるCADシステムのもつハード、ソフト面の基礎的な概念を理解する。CADの持つ積極的側面、限界を正しく把握することによって、計画、デザインのプロセスにコンピュータを有効に利用する能力を開発することを目的とする。演習を通してCADシステム利用の基本的操作をマスターし、より高度な設計、プレゼンテーション手法としてのコンピュータ利用の為の基礎を修得する。

【授業計画】

- 1 CADシステムの概要。本学のシステム構成と、機器の説明及び演習の進め方の諸注意
- 2 実社会で使われているCADソフトウェア体系の概観と本演習で使用するソフトウェア (VectorWorks) の基本操作の解説と実習

以下各演習課題に基づいて簡単なデザイン課題を完成させる。課題の各段階で必要な操作上の解説を行う。

- 演習課題1 簡単な建築的要素による造形。二次元図面の作成と三次元化によるデザイン上の評価。
- 演習課題2 小規模建築物のコンピュータ上での設計。
- 演習課題3 各自の作品を題材にしたプレゼンテーション手法の修得。
- レンダリングソフト (FORM-Z) による立体加工と表現。

【受講上の注意】

CAD教室の時間外使用を含め、施設使用上の諸注意を行うので第1回目の演習に必ず出席すること。

【評価方法】

演習への出席。各ステップごとの課題の提出。作品の内容を総合的に評価する。

【テキスト】

演習の各段階で解説資料を配布する。操作上のマニュアルはCAD教室に備え付ける。

下記の科目は、本年度開講しません。

建築環境学実験

吉澤 晋

計画演習 V (CAD応用)

佐野友紀

建築設備学

横山浩一

建築構造 II (地盤と建物)

太田 裕

建築法規

角岡照一

建築生産システム

鈴木直人

空間設計 III (中規模施設)

垂井洋蔵

空間設計 IV (複雑な施設)

清水裕二

空間設計 V (都市複合施設)

日色真帆

計画演習 III (調査実測)

清水裕二

教育心理学

西出隆紀

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

教育心理学は教育目標・教育方法・教育内容の検討や、教育対象である児童・生徒の理解、教師の理解、教育環境における対人関係の理解などに貢献する学問である。そして、もう少し広く「教育場面」をとらえれば、人と人とかかわる状況全てが教育に関係してくることになり、そういう意味では「人と人のかかわり」の心理学であるとも言える。そこで今回は「人と人のかかわり」を中心テーマに、教育に携わる者として最低限必要な心理学的知識の獲得を目指す。

この講義は後期の発達心理学とリンクしているので、より深く理解したい方はそちらも受講することが望ましい。

【授業計画】

1. 教育と教育心理学 教育心理学の課題、教育心理学の歴史、教育心理学の研究手法
2. 学習と学習指導 学習理論、学習の要因、学習指導法、教科の心理学
3. 人格形成 人格の定義と理論、人格形成の規定因、人格の査定
4. 学級における人間関係 学級集団の形成、学級内の対人関係、集団学習と人間関係
5. 教育と測定・評価 教育測定・評価の歴史と領域、心理測定の特徴、教育評価の視点、的機能の測定・評価
6. 教育における精神保健 精神保健の意義と歴史、精神的不適応発見のための技術、精神的不適応の治療、教師の精神保健

【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可（コピーを持ち込んだ場合は失格）とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

【テキスト】

未定（おそらく使用しない）。

発達心理学

富安玲子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

前期の教育心理学に続き、本講では、教育の対象者への理解を深めていくことを目的としたい。教職課程の中で発達心理学を学ぶ意味を通して、人間を発達可能性をもつ存在として捉える視点を学ぶ。認知の発達と自我意識の発達を中心に乳幼児期からのプロセスを辿り、それぞれの段階での心理的特徴と発達課題について考えていきたい。

【授業計画】〈月曜日1時限〉

テキストと配付する補助資料を中心に講義を行う。

1. 教職課程の中での発達心理学
—発達心理学を学ぶ／発達心理学から学ぶ—
教育の対象者への理解
教育対象の理解から自己理解へ
発達可能性への信頼
2. 「発達」を考える —生涯発達の視点から—
発達の意味と発達課題 発達を規定する要因
成熟と学習 発達の個人差 発達と教育
3. 認知の発達
乳幼児期から青年期までの知的発達の各段階の特徴を把握し、教育的働きかけとの関わりを考える。
4. 自我意識の発達
自我形成過程を乳幼児期の自我のめばえから青年期のアイデンティティの確立、そしてその後の自我の統合へと辿り、各段階での特徴と発達課題を学ぶ。そして、自我形成のあり方と教育的働きかけの関わりを考え、今日の問題への理解を深める。

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

『発達と教育の心理学』神谷・酒井・杉江・富安編 協同出版

【参考書籍】

授業の中で紹介する。

発達心理学

西出隆紀

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

発達心理学とは、加齢に伴う心身の形態・機能の変化を見つめていく学問である。発達に関する理論は様々な立場から様々な領域について論じられているが、今回はまず、それらの理論のいくつかを紹介することから始めて、次に乳幼児期から老年期までの各発達期について細かく見ていきたい。教職を志す者にとって人間発達の知識は特に重要であり、児童・生徒の正しい理解につながる内容にしていきたいと考えている。

【授業計画】

1. 成長と発達

「発達」とは、発達の規定因、発達の段階、発達課題

2. 発達の理論

Freud, S. の精神性発達理論

Erikson, E. H. の心理社会的発達論

Piaget, J. の認知発達論

3. 乳幼児期の発達

4. 児童期の発達

5. 青年期

6. 成人・老年期

7. 発達上の問題

発達の障害、精神発達遅滞、広汎性発達障害、特異性発達障害、情緒障害

講義形式で進める。適宜質問を受け付け、興味深い内容について掘り下げる場合もある。

【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可（コピーを持ち込んだ場合は失格）とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

【テキスト】

未定（おそらく使用しない）。

教科教育法 a・b（社会）

望月太海

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

自立に向おうとする中学生にとっては、外に向って自分を主張しようとする能力と、内に向って自分の生活を内省し、自己抑制の能力を同時にバランスよく身につけることが必要だと思います。

学習指導要領に基づいた、基本的な学習項目を、現代社会に起きている新鮮な社会現象を取り上げながら学習して欲しいと思います。応用力のある豊かな知識と「社会」のセンスを育てたい。

【授業計画】

前期

1. アンケート（学生の意識調査）
2. 世界の人口問題と食糧・エネルギー・雇用
3. 中国の「1人っ子政策」はどうなったか。
4. 国家と民族——「ユーゴスラビアの分裂と内戦
5. ソールズ・ベリーの「中国」（VTR）150分
6. EECからEUまで。

後期

1. EUの未来
2. 三内丸山遺跡と縄文の見直し。
3. 「軍事」を何時まで避けて通れるか。
4. 解釈改憲と憲法改正と自衛隊とガイドライン
5. 経済の学習に必要な基本原理の学習
6. 不登校・学級崩壊に対する学習と対策

【評価方法】

テストは実施せず、授業参加の積極性、ディベートでの論理構築力、社会科教員としての知識量とセンス、出席数などにより決定する。

【テキスト】

中学校は、地理・歴史・公民に亘るので、「EU」のような地理の分解については、教科書をコピーして配布し、あとは教員の私の作成するプリントと、VTRやOHCを使用して授業を行います。

教科教育法 a・b (公民)

小林春治

3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

わが国における公民教育の意義と歩みを、諸外国の現状とも比較しながら概観し、公民教育についての重要性の理解を深める。また、高等学校における公民科の学習指導要領に基づく授業内容と学習指導案の作成を通して、公民教育の在り方を探求する。

前期 a

1. 公民教育とは何か
 - (1) 「公民」の概念と「公民的資質」
 - (2) 公民教育における中学校・高等学校との関連
 - (3) 公民教育と道徳との関連
2. 公民教育と諸外国の現状
 - (1) 戦前における公民教育
 - (2) 学習指導要領の変遷と公民教育
 - (3) 諸外国の公民教育
3. 公民科の年間指導計画と学習指導案の作成
 - (1) 中学校社会科の公民分野と高等学校公民科の性格と目標
 - (2) 公民科の年間指導計画と学習指導案の作成

後期 b

1. 学習指導の工夫
 - (1) 学習資料の作成
 - (2) メディアの活用
2. 公民教育の新しい課題
 - (1) 平和教育、人権教育、環境教育
3. 各自が作成した学習指導案に基づく研究授業

【授業計画】

前期 a：講義と学習指導案の作成を基本とする。

後期 b：講義と各自作成の学習指導案に基づく、研究授業を中心とする。

【評価方法】

小テスト、学習指導案、研究授業の評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 公民編 (文部省 実教出版 予価230円)

現代社会 (高等学校教科書 実教出版 予価715円)

教育実習

小木曾通男 富安玲子 加藤文子

4年 通年 必修 2単位

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教員という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業計画】

それぞれの実習校において、教員としての仕事を行う。

- (1) 学級担任、ホームルーム担任として
朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
また、学級(ホームルーム)事務を担当する。
- (2) 教科担任として
前半においては、指導教員の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教員の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
- (3) 特別活動として
学校行事、生徒会活動、H.R活動、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価(生徒指導、学習指導、実習態度)に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』

教育実習指導

加藤文子

4年 前期 必修 1単位

【授業の概要】

教育実習事前指導を通して教育実習生としての心構え、教育実習内容の明確化、実習記録の記入等事務的処理能力を学ぶ。また学校教育全般にわたる基本的理解並びに指導技術を体得し、実習後には実習体験をもとに特殊教育の理解をもふかめる。

【授業計画】

- 1 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習者のアンケート内容
 - ・「先輩からの一言」
- 2 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
- 3 教育実習記録
 - ・記録することの意義
 - ・記録の仕方
- 4 研究授業
 - ・よい発問
 - ・よい板書
 - ・教材・教具の準備
- 5 教育実習への諸注意
- 6 特殊教育の理解
- 7 まとめ・アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習校の評価を参考）で総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず。
必要に応じて資料を配布する。

教職特別演習

小木曾通男 富安玲子 加藤文子 佐藤実芳

集中・オムニバス 3年 後期 選択 1単位

【授業の概要】

既に学習した教職専門科目についての総復習をするともに、次の点を目標にする。

- (1) 教員採用試験への教職専門科目についての対策
- (2) 現在の教育の諸問題について総合的に考える契機
教職課程の担当教員によるオムニバス方式の集中授業で実施する。

【授業計画】

- (1) 一般教養（小木曾通男）
特に教育に視点をあてて、日本及び西洋の近現代史を中心に学習
- (2) 小論文（加藤文子）
教員試験の小論文作成に必要な基本的事項を学習
- (3) 教職専門科目（加藤文子・佐藤実芳）
教育原理、教育法規、生徒指導等の基本的事項を学習
- (4) 教育相談（富安玲子）
教育心理学、発達心理学の基本的事項をふまえて教育相談の基本を学習
- (5) 適性検査（富安玲子）
クレペリン、MMPI、YG等の検査について学習
- (6) 教員採用試験合格者による体験発表

【評価方法】

出席及び小レポートにより評価する。

【テキスト】

プリントを配付する。

教職入門

小木曾通男

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

本講義は、教育という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業計画】

1. 東西の優れた教育者をとりあげ、教育とは何か、教育者とは何かを考える契機とする。
2. 近代市民社会の教育需用の増大と教育養成についてイギリス、アメリカにおける教員養成の概要及び日本における教員養成を歴史的に概観する。
3. 社会構造の変化の著しい現代社会における教員への期待について地域構造、家族構造、職業構造等の変化に伴い教員の役割の変化と多様化・個性化した保護者・生徒の教員への期待と変化とその対応を考える。
4. 中学校、高等学校における望ましい教員像とは何かを学級担任、教科担任、部活顧問、進路指導、生徒指導において各人の体験をもとに考えてみたい。
5. 信頼される教員とはどんな教員か、生徒の人間性の尊重とは何か、生徒との望ましいコミュニケーションのあり方を考えてみたい。
6. 21世紀の教育を担う教員の在り方を求め、社会の進歩と変化に対応する不断の研修と教育技術の開発により、常に新鮮な教育を行う努力を教員にとって不可欠であることを理解する。

【評価方法】

授業中にテキストに添付した用紙に記載する感想文とレポートによる総合評価とする。

【テキスト】

「教職入門」200円

【参考書籍】

授業時に紹介する。

教育原理

佐藤実芳

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。本講義では、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業計画】

- | | |
|--------|--|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 教育とは何か |
| 第3～5回 | 人間と教育 <ul style="list-style-type: none">・動物学からみた人間の特殊性・人間の成長と環境・教育の重要性・人間形成の場 |
| 第6回 | 教育の本質 <ul style="list-style-type: none">・注入主義・開発主義 |
| 第7～10回 | 教育の目的 <ul style="list-style-type: none">・教育目的とは・教育目的の歴史の変遷 |
| 第11回～ | 現代の教育 |

【評価方法】

定期試験、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

教育原理 ー教育の目的・方法・制度ー（教師養成研究会編著 学芸図書出版）

教育思想史

梅村敏郎

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなくて、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあろうが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業計画】

- 1 教育思想史を勉強することの意義
- 2 コメニウスと『大教授学』
- 3 ルソーと『エミール』
- 4 ベスタロッチと『ゲルトルートはいかにその子を教えるか』
- 5 フレーベルと『人間の教育』
- 6 デューイと『民主主義と教育』

【評価方法】

評価はレポートの提出による。

【テキスト】

授業で最初に取り上げられる、コメニウスの『大教授学』1・2（明治図書）を教科書販売時に購入すること。

欧米教育文化史

江藤恭二

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」とは具体的に何を意味するのか、という点に焦点をあて、欧米教育・文化の全体的・構造的な変遷過程に着目しつつ、比較教育史的なアプローチを試みる。

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育・文化
3. ルネサンスと宗教改革
4. 近代教育・文化の生誕と展開
5. 啓蒙思想と教育
6. 市民革命期の教育思想

【授業計画】

講義方式、時折、欧米文化に関するVideo教材を用いる。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

西洋近代教育史（江藤他編 学文社 2,300円）

教育心理学 I

富安玲子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業計画】

テキストと配付する補助資料によって講義を行う。

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
 - ・教育心理学を学ぶ／教育心理学から学ぶ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
一生のストーリーとしての発達
 - ・障害の意味と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達を中心に
3. 学習の過程を考える
 - ・学びのメカニズム
 - ・学ぶ意欲を育てる
4. 集団を通して個を生かす
 - ・学級集団の理解
 - ・学級における人間関係
 - ・教師の影響過程

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

『発達と教育の心理学』 神谷・酒井・杉江・富安編、協同出版

【参考書籍】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

加藤文子

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

心身障害児についての基本的理解をし、その対策の実状を理解する。(教育的環境・福祉施設の役割)

また就学指導の仕組みを理解し、特殊教育の現状・課題を認識するとともに、基本的には人間尊重の精神を涵養する。

【授業計画】

- 1 心身障害児をもつ親の相談事例
 - ・視覚障害児の場合
 - ・聴覚障害児の場合
 - ・病弱・虚弱児の場合
- 2 心身障害の発生原因と早期教育の必要性
 - ・心身障害児とは
 - ・早期教育はなぜ必要か
- 3 心身障害児の教育環境
 - ・就学指導の仕組み
 - ・特殊教育諸学校の教育計画
 - ・福祉施設の役割
- 4 心身障害児(者)教育の歴史
 - ・心身障害児(者)教育を開拓した人々
 - ・それぞれの時代と社会の歴史的状況で成立してきた過程
- 5 心身障害児とのかかわり
 - ・教育診断の在り方
 - ・心身障害児とのかかわり
- 6 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず。
障害児の教育ノートとして資料を配布する。

教育制度

佐藤実芳

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の歴史的類型的比較及び学校教育制度の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の学校教育制度の特徴を考察していく。

【授業計画】

- 第1回 教育制度の意義
- 第2～3回 現代学校教育制度の起源
 - ・大学の成立
 - ・中等学校の成立
 - ・初等学校の成立
- 第4回 学校教育制度の類型
- 第5～6回 外国の学校教育制度
- 第7～9回 日本の学校教育制度
- 第10回～ 教育法規
 - ・教育法規とは
 - ・日本国憲法
 - ・教育基本法
 - ・学校教育法
 - ・学校教育法施行令
 - ・学校教育法施行規則
 - ・その他

【評価方法】

定期試験、平常点などにより総合的に評価する。

【テキスト】

教育原理 ー教育の目的・方法・制度ー (教師養成研究会編著 学芸図書出版)

教育課程

小木曾通男

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1. 教育課程についての考え方を歴史的に考察する。
 - (1) ヨーロッパにおける教育課程の歴史的概観
 - (2) 日本の江戸時代における教育課程の概観
 - (3) 明治以降の日本の近代教育における教育課程の概観
2. 現代の欧米諸国における教育課程の概観
3. 第二次世界大戦後の日本の教育課程の変遷の概観
4. 現在の日本の教育課程の考え方
 - (1) 中学校の教育課程の構造と教育目標
 - (2) 高等学校の教育課程の構造と教育目標
5. 生きた授業のための望ましい教育課程の展開

【評価方法】

授業中にテキストに添付した用紙に記載する感想文と最終レポートによる総合評価とする。

【テキスト】

「教職課程」200円

【参考書籍】

「中学校学習指導要領」文部省
「高等学校学習指導要領」文部省

道徳指導法

加藤文子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

道徳の基本原理を学ぶとともに、わが国における今日の道徳教育の在り方に至るまでの変遷を理解し、道徳教育の重要性を認識する。

また学校教育における道徳授業の指導の実際をVTR視聴、模擬授業により体得する。

授業は講義法で進める。授業内容を道徳教育ノートとして配布する。中一種免取得には必修である。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史
 - ・ 明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
 - ・ 戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際
 - ・ 道徳教育の目標
 - ・ 道徳教育の内容
 - ・ 「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
 - ・ 模擬授業
 - ・ まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

- テキストは使用せず。
- 必要に応じて資料を配布する。

特別活動指導法

小林春治

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事についての指導法を考察する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

1. 教育課程の位置と目標

特別活動は、各教科、道徳とともに教育課程を構成する領域の一つであり、これらそれぞれの充実と相まって、中学校・高等学校の教育目標を達成することができるとを学習する。

2. 戦後の教育状況と教育改革

敗戦直後の教育状況と教育基本法・学校教育法の施行（六・三・三制の実施）にいたる大要を、GHQのとつた教育政策にも注目しながら学習する。

3. 特別活動の変遷

特別活動の変遷を中学校・高等学校の学習指導要領を通じて論じ、その社会的背景についても具体的な資料に基づいて学習する。また、平成12年度から移行措置がとられている新しい学習指導要領にも言及する。

4. 特別活動の基本となる指導法

中学校の学級生活、高等学校のホームルーム活動が、生徒会活動、クラブ活動、学校行事などと相互に関連していることの学習を通して、これらの集団生活の在り方、心身ともに健康で安全な生活習慣の形成などを基本にした指導法を、現状にも注目しながら考察する。

【授業計画】

必要に応じて資料を配付する。また、より理解を深めて欲しい内容についてレポートの提出を求める。

【評価方法】

期末試験の成績とレポートの評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 特別活動編（文部省 東洋館出版 予価 200円）

教育方法

東浦信博

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

前半では、教育方法を歴史的に概観するとともに、学習指導の様々な形態を学ぶ。また、学力や教育評価についてもふれる。後半では、視聴覚教育の手法を学ぶ。

1. 教育方法の歴史的概観
 - ①古代ギリシャの教育
 - ②古代ローマの教育
 - ③中世ヨーロッパの教育
 - ④近世から現代の教育
2. 学習指導の原理
 - ①教育課程・学習指導要領
 - ②学力
3. 教育評価
 - ①教育評価の意義・目的・歴史的概観
 - ②学習評価の方法・種類
4. 視聴覚教育
 - ①戦前の視聴覚教育と戦後の視聴覚教育
 - ②教育工学の手法
 - ③ニューメディアと教育
 - ④視聴覚教育メディア各論
 - ⑤放送教育
 - ⑥コンピュータと教育

【授業計画】

講義中心。OHP・ビデオ等AVメディア使用。

【評価方法】

資料持込不可の論述式定期試験。

【テキスト】

教育の方法、技術を学ぶ。(福村出版 ¥1,700)

学習メディア論

東浦信博

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

わが国の教育においても、従来の視聴覚教育機器からマルチメディア教育機器やネットワークメディア利用の学習まで多様なメディアが活用されている。主要な教育メディアや教育技術の新展開について、その背景となる学習理論やメディア自体のメカニズム・特性、ときには学習事例などもあげて学ぶ。

1. 学習とは (学習とは何か、学習の定義、学習理論、学習条件、主体的学習など)
2. 学習とメディア (学習者-学習素材・教材のコミュニケーションメディア)
3. メディア各論 (集団学習と個別学習、音声・映像・音声映像・コンピュータ・マルチメディア)
4. 遠隔地とのコミュニケーション (通信ネットワーク [=インターネット] による学習)
5. メディアリテラシー (21世紀におけるメディア活用の技術は人間生活の基本技術となる。この技術の欠如は文盲にたとえられる時代がくる。)

【授業計画】

講義中心であるが、可能な限り実物を用意する。OHP、ビデオを多用する。

【評価方法】

テキスト・ノート持ち込み可による論述式定期試験。

【テキスト】

なし。

生徒指導（進路指導を含む）

小林春治

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

生徒指導を生徒の管理監督、青少年非行の防止といった消極的な視点からとらえるのではなく、正しい人間観（生徒観）に基づいて生徒の健全な育成、個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導を基本とする。なかでも進路指導については、その理念及び目的を、学習指導要領に基づいて具体的に学習する。こうした学習をとおして生徒に接する教師の在り方についても具体例を示して指導する。

1. 旧約聖書・新約聖書における人間観（アダムとイブなど）、カントの人格主義における人間観、法然・親鸞はじめその他先哲の人間観を学習する。
2. 戦前の「修身・教育勅語」、昭和初期にはじまる「軍国主義教育」の生徒指導と戦後の「民主主義教育」による生徒指導に視点をあて、その歩みを概観する。
3. 現代社会における社会構造の変化に注目し、社会学的視点から新しい教育観と社会集団のもつ教育機能の変質のなかで、生徒指導が果たす役割を青少年非行の矯正教育の現状にも注目しながら、中学校・高等学校における教育の現状と問題点を考える。
4. 進路指導の基本理念及び目的と内容を学習するなかで、中学校・高等学校における進路指導の現状と問題点に触れながら教師の在り方を、教育相談・カウンセリング・進路情報・言葉遣いなどを通して、具体的に学習する。

【授業計画】

授業においては、中学校・高等学校時代の生活体験を生きた教材として、具体的に学習する。

【評価方法】

期末試験の成績と小テスト・レポートの評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

生徒指導講義ノート（小木曾通男編 250円）

教育相談（カウンセリングを含む）

坪井さとみ

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について先ず考えたい。次に傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業計画】

<国文（前期）、国情・現社（後期）対象>

1. 教育相談とは
 - (1) 教育相談の概念・ねらい
 - (2) 教育相談が扱う問題
2. 児童・生徒の理解
 - (1) 児童期・思春期・青年期の発達課題
 - (2) 理解の方法（行動観察、本人の面接、親面接、心理検査法より）
3. 児童・生徒の問題行動とそれらへの援助
 - (1) 登校拒否
 - (2) いじめ・暴力
 - (3) 非行
 - (4) 精神病圏、神経症的な問題など
4. 教育相談の進め方
 - (1) 学校における相談体制の確立
 - (2) カウンセリングの理論と基本的な技法（傾聴、受容、共感、くり返し、明確化、支持など）
 - (3) カウンセリングの過程（導入から終結まで）
 - (4) 地域・専門機関との連携、協力
 - (5) 教育相談の学び方

【評価方法】

定期試験の成績を中心に、出席状況を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

生涯学習概論

古野有隣

集中 3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～
ユネスコ以降わが国における推移
生涯教育のめざすもの
生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係
生涯教育と社会教育
生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態
行政社会教育の主要領域
社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望
生涯学習関連施設の範囲
社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者
生涯学習指導者の範囲
生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500～700円）を開始時に頒布。

図書館情報学概論 a・b

村主朋英

1年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。前半は、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。後半は、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
2. 情報の概念
3. 情報の流過程
4. 図書館の機能と構造
5. 情報流通の実際
6. 情報サービスと人間
7. まとめ：人とメディアのつくる宇宙の中で

【評価方法】

前期：定期試験

後期：定期試験と夏休みレポート

※なお「図書館情報学概論 a」の単位を取得済でない学生については、「同 b」の単位は認定しない。また、前期末に夏休みレポート課題を提示するので、今年度「同 b」のみ履修予定の学生は問い合わせること。

【テキスト】

『図書館情報学用語辞典』日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 約3,800円

図書館経営論

山本 進

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館の技術的な面－分類・目録等－資料組織とは別に、図書館運営上の諸問題－司書の専門職制の問題・図書館と地域サービスと図書館網計画、図書館経営評価と見直し等を図書館経営論として論述する。

0. オリエンテーション・図書館経営論の意義 1回
1. 図書館館種別の経営上の問題点と管理原則 1回
2. 図書館学の五法則と図書館員のかかわり 1回
3. 図書館の自由に関する宣言 2回
4. 図書館員の倫理綱領 2回
5. 図書館員と労働基準法解説 1回
6. 図書館法規と基準の解説 1回
7. 図書館サービスの測定と評価
(実例課題によるレポート提出) 1回
8. 図書館計画の立案と実例解説 2回
9. 生涯学習と図書館及び利用者教育 2回

講義の中から関心のある事項について2～3回レポート提出。

【授業計画】

【評価方法】

期末テスト実施 記述式 2～3問。
及び提出レポートの査読と記述式試験の採点と併せて総合評価する。

【テキスト】

使用せず。

情報サービス基礎論 a・b

逸村 裕

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスには幅広いものがある。また、これらのサービスはその対象、館種、主題、規模ごとに多くの特徴を持つ。さらに今日、伝統的な図書館サービスに加え、情報技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。

これら図書館情報サービスの紹介と評価の視点から講義を行なう。

前後期は連続する内容である。

1. この講義の対象と範囲
2. パブリック・サービス (奉仕－直接サービス)
 - A. 貸出閲覧
 - B. レファレンス
 - C. 相互協力
 - D. 視聴覚資料
 - E. パブリックサービスの今後
3. テクニカル・サービス (資料組織－間接サービス)
 - A. 選書
 - B. 収書
 - C. 整理
 - D. 雑誌
 - E. テクニカルサービスの今後
4. 評価の視点から見た情報サービス
 - A. 蔵書
 - B. 人的サービス
 - C. その他のサービス

【授業計画】

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

レファレンスサービス論

長澤雅男

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館における情報サービスという広い視点から問題を解説するが、とりわけレファレンスサービスを重点的に取り上げ、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセスのあり方について理解を深めることを主な目的とする。この科目は、後期の「レファレンスメディア論」と相互に補完するものとして扱う。

1. 情報ニーズに応える情報サービス
2. レファレンスサービスから情報サービスへ
3. レファレンス機能に基づくレファレンス業務
4. レファレンスサービスのための情報源
5. レファレンスプロセス
6. 質問の受付から内容の確認へ
7. 質問内容の分析から探索の実行へ
8. 質問回答とレファレンスプロセスの終結
9. レファレンスサービスの組織と運営

【授業計画】

講義を中心に進める。

【評価方法】

期末試験（多肢択一式問題）を予定しているが、出題形式については、試験日の1、2週間前に改めて説明する。

【テキスト】

レファレンスサービス－図書館における情報サービス
(長澤雅男 丸善 2,369円)

レファレンスメディア論

長澤雅男

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

レファレンス質問の処理に役立つ情報源の種類とその特性を理解し、情報と文献の探索技術を習得できるようにするため、各種の参考図書、データベース等、探索ツールとしての印刷メディアと電子メディアの特性を解説したうえで、質問事例を用いて情報および文献の探索方法について演習を行う。

1. レファレンスサービスにおける情報源／問題解決と情報源／記録メディア／参考図書とデータベース
2. 参考図書・データベース関係の情報源／参考図書の解題書誌／書誌の書誌／データベースディレクトリ
3. 図書・叢書関係の情報源／書誌／目録（所蔵目録、総合目録）／叢書合集索引
4. 逐次刊行物関係の情報源／逐次刊行物リスト／新聞雑誌記事索引／抄録誌
5. 人物・団体関係の情報源／人名事典／名鑑／人物文献索引
6. 歴史関係の情報源／歴史事典／年表／年鑑類
7. 地理関係の情報源／地名事典／地図帳／地名索引
8. 事物・事象関係の情報源／事典／便覧類／図鑑類
9. 言語・文字関係の情報源／国語辞書／特殊辞書・諺語辞書／用語索引・詩歌索引

【授業計画】

講義と演習（主として時間外に問題回答演習を行い、レポートを提出）。

【評価方法】

レポート、期末試験（出題形式は試験日の1、2週間前に説明する）。

【テキスト】

情報と文献の探索 第3版（長澤雅男 丸善 3,296円）

情報検索演習 I

逸村 裕

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。また、索引語の付与と抄録の作成による書誌レコード作成過程も習得する。さらに、検索効率やユーザー・インタフェースの検討とともに、各自の情報ニーズに基づくテーマ検索の結果も検討し、システムの評価方法を学ぶ。

1. 情報検索とは

蓄積と検索/索引作業/検索効率/探索コマンドの標準化

2. オンライン情報検索システムとCD-ROM

各種データベースの特徴/検索方法(メニューとコマンド)

3. DIALOGの検索(その1)

通信方法/デモンストレーション(DIALOG)/論理演算子/基本的な検索コマンド

4. DIALOGの検索(その2)

トランケーション/近接演算子/ストップワード/二次検索/フィールド指定子

5. DIALOGの検索(その3) 検索語の列挙/著者名検索

6. JOISの検索

7. 索引・抄録作成作業

索引語の付与とシソーラス/抄録作成の基準(SIST-01)

8. システム評価(DIALOGとJOISの比較)

9. テーマ検索(DIALOGとJOISの活用)

10. 各種システムとDBのデモンストレーション

STN-International/PATOLIS/日経ニューステレコン/MEDLINE/各種CD-ROM

【授業計画】

8号棟情報検索室で実習を中心に進める。実習助手も指導に加わり、受講生の理解度を確認しながら進める。

【評価方法】

サブテーマごとに小テストを行う。また各自のテーマ検索での結果をまとめたレポートも評価の対象とする。

【テキスト】

なし(プリント配布)。

情報検索演習B

逸村 裕

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。また、索引語の付与と抄録の作成による書誌レコード作成過程も習得する。さらに、検索効率やユーザー・インタフェースの検討とともに、各自の情報ニーズに基づくテーマ検索の結果も検討し、システムの評価方法を学ぶ。

1. 情報検索とは

蓄積と検索/索引作業/検索効率/探索コマンドの標準化

2. オンライン情報検索システムとCD-ROM

各種データベースの特徴/検索方法(メニューとコマンド)

3. DIALOGの検索(その1)

通信方法/デモンストレーション(DIALOG)/論理演算子/基本的な検索コマンド

4. DIALOGの検索(その2)

トランケーション/近接演算子/ストップワード/二次検索/フィールド指定子

5. DIALOGの検索(その3) 検索語の列挙/著者名検索

6. JOISの検索

7. 索引・抄録作成作業

索引語の付与とシソーラス/抄録作成の基準(SIST-01)

8. システム評価(DIALOGとJOISの比較)

9. テーマ検索(DIALOGとJOISの活用)

10. 各種システムとDBのデモンストレーション

STN-International/PATOLIS/日経ニューステレコン/MEDLINE/各種CD-ROM

【授業計画】

8号棟情報検索室で実習を中心に進める。実習助手も指導に加わり、受講生の理解度を確認しながら進める。

【評価方法】

サブテーマごとに小テストを行う。また各自のテーマ検索での結果をまとめたレポートも評価の対象とする。

【テキスト】

なし(プリント配布)。

情報メディア基礎論 a・b

菅野育子

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点を考え、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

1. 情報流通と情報メディア

学術情報の生産のメカニズム/学術情報の流通モデル

2. 情報メディアの分類と種類

3. 情報メディアの階層化

物理的階層/書誌的階層/機能的階層

4. 情報メディア 一次情報のためのメディア

図書(定義/出版流過程と関連する制度/学術図書の機能)

雑誌(定義/学術雑誌の機能/雑誌論文の構成)

テクニカルレポート(定義、NTIS)

特許資料(各国の特許制度/特許情報の流過程)

規格資料(国際規格/国内規格/標準化活動)

5. 情報メディア 二次情報のためのメディア

情報の加工(代替、編集、濃縮)/書誌/索引/抄録/百科事典

6. データベース(DB)

DBシステムの歴史/DBの種類と内容/オンライン情報検索とCD-ROMの利用

7. 情報メディアの分析とビブリオメトリックス

ビブリオメトリックスの定義/引用分析

8. 情報流通における標準化と情報メディア

ISBN, ISSN, ISMN/SGMLタグと論理構造

9. 情報の電子化と情報メディア

電子編集と電子出版/電子雑誌/電子図書

【授業計画】

前期はテキストを用い、後期はテキストと配布資料を用いて講義を行なう。

【評価方法】

出席回数と定期試験の成績で評価する。

【テキスト】

『情報の発生と伝達』(上田修一・倉田敬子 勁草書房)

情報メディア論Ⅳ(人文社会情報メディア)

菅野育子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業計画】

1 学問分野と情報メディア

2 自然科学分野と人文・社会科学分野

3 人文・社会情報メディア

3. 1 美術分野

3. 2 音楽分野

3. 3 文学

3. 4 ビジネス分野

3. 5 法律分野

3. 6 心理学

3. 7 図書館情報学

4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

レポートと出席度によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

情報メディア論V (科学技術情報メディア)

山崎茂明

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

自然科学領域における二次情報源としての文献データベースと一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。文献データベースの理解は、情報サービス専門家に欠かさない知識です。また、学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。

1. 文献情報の世界
2. 文献調査
3. 医学情報へのアプローチ
4. 文献データベースの世界
5. 癌領域のデータベース
6. 引用索引データベース
7. 学術雑誌の歴史と生態
8. 総合科学雑誌とはなにか
9. レビュー誌とレター誌の重要性
10. 電子ジャーナルと電子出版
11. 電子情報環境と電子メディア (データベース、一次雑誌)

参考資料：

Lambert, J. 『電子時代の学術雑誌』日本図書館協会
Thompson, J.W. 『出版産業の起源と発達』出版同人
中山茂 『歴史としての学問』中央公論社
山崎茂明 『生命科学論文投稿ガイド』中外医学社

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート (授業時間内)。

【テキスト】

山崎茂明 『医学文献サーチガイド』第2版、日本医書出版協会

資料組織論

山本 進

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館利用者が、どんな手がかりから図書館資料を求め、図書館は速やかに的確に提供する義務がある。そのためには、個々の図書資料を一定のシステムに基づいて組織化—分類・目録・装備・配架および各種の目録を編成する。これら一連の組織過程を論述する。図書資料の分類と資料の配架、及び目録の編成。

【授業計画】

0. オリエンテーション・図書資料組織化の過程1回
 1. 書架上の図書配列法・書架分類と書誌分類1回
 2. 分類と図書の分類2回
 3. 図書分類の特異性・図書分類表・分類記号1回
 4. 日本十進分類法 (NDC) と主題の把握・分類規定等
 5. 分類作業1回
- 以上分類と資料配架
6. 目録法総論1回
 7. 目録の種別と目録の編成1回
 8. 図書館目録の変遷と現在に至った経過1回
 9. 著者名、タイトルからアプローチ1回
 10. 集中・共同目録作業とオンライン目録2回

【評価方法】

期末テスト実施、記述式及び穴埋め問題4～5問。

【テキスト】

資料組織法 第Ⅲ版 (木原通夫他 第一法規)

資料組織演習

山本 進

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

個々の図書の内容を把握し、それに最も適切な分類記号を与える分類作業及び検索に必要な目録作業について実例演習を行う。

分類課題 分類演習プリント10枚程度

目録課題 カード目録の作成演習と課題レポート3～4回出題

【授業計画】

0. オリエンテーション、分類法総論・目録法総論 1回
1. 分類と目録との関係
 - 1.1 NDCとNCR 2回
2. 分類演習（課題20題の事例演習） 2回
 - 2.1 分類規程・特殊分類規程 1回
3. 目録作成の意義と書誌情報標準化の経過 1回
 - 3.1 西洋における目録と目録規則
 - 3.2 日本における目録と目録規制 1回
 - 3.3 目録規制による（カード目録作成演習） 2回
4. 目録作業における集中・共同目録作業の意義 1回
 - 4.1 「書誌ユーティリティ」利用の分担目録作業 1回
5. 目録に関する課題レポート

【評価方法】

期末テストは実施せず、3回の分類演習と、3回の目録に関する課題レポートにより評価する。

【テキスト】

資料組織論 前期使用の『資料組織法 第Ⅲ版』を使用。

資料組織演習

岡澤和世

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間が他の動物と決定的に異なる点は、人間が時間と空間を越えて、情報を蓄積して、必要な時に再現する能力を持っていることである。それを体内（脳）だけでなく、体外の貯蔵庫（図書館）に蓄えることを学んだことである。もう一つ特筆すべき人間の知恵は、その体外貯蔵庫の中身を簡単に再現できるように整理したことである。人間のインテリジェンスの始まりであり、専門職としてのライブラリアンの誕生である。本講義では演習問題を中心に、分類と目録の目的・機能を明らかにし、現在使われている分類・目録の問題点を通して図書の実態に即した分類法を与える。

【授業計画】

オリエンテーション 図書館における図書の分類前期の講義についての復習テスト

1. 分類とは何か（2回）
 1. 1 基本用語の整理
 1. 2 分類と図書の歴史
2. 図書分類とその基本的条件（2回）
 2. 1 分類表の種類とその特性
 2. 2 基本的条件
3. 特殊分類法（3回）
 3. 1 十進分類法
 3. 2 ファセット分類法
 3. 3 その他
4. 目録とは何か（2回）
 4. 1 目録の機能
 4. 2 目録作業
5. 現代図書館と情報サービス（2回）
 5. 1 自動目録
 5. 2 図書の検索法

オリエンテーション後に基本的な知識を確認するテストを各授業毎に実施し、NDC、UDCその他の分類法を使っての出題を出し翌週回収し、問題点を説明する。目録作業を最初の授業時から指示し毎週各自の興味のある図書の目録（10枚）を作成し、最終的に100枚の目録カードを提出する。

【評価方法】

試験は行わない。各週毎の宿題及び作成した目録カード、小テスト、レポートで評価する。

【テキスト】

プリント。

【参考書籍】

情報学講義ノート〈1〉（岡澤和世著 敬文堂）1987。
情報学講義ノート〈2〉（岡澤和世著 敬文堂）1989。
情報検索理論の基礎（中村幸雄著 共立出版株式会社）1998。
目録と分類（L.M.チャン上田修一他訳 勁草書房）1987。
図書館のサービスの再構築（M.K.バックランド 高山正也他訳 勁草書房 1994。

資料組織演習

渡辺智山

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

必要な情報へ安易にアクセスできるためには、常に「組織化」とはどうあるべきかを考える必要がある。本演習では、図書館における分類・目録作業とおし、実際の資料組織の技法を理解してもらう。『日本目録規則』『日本十進分類法』などを利用し、組織化の演習を行なうが、組織化という行為自体、コンピュータとも深く関連（情報検索、データベース等）することから、「資料の組織化とコンピュータ処理のあり方」をも考察することにする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
 2. 目録規則と分類法
 3. 『日本十進分類法』新訂9版を用いた図書分類の実習
 4. 『日本目録規則』1987年改訂版を用いた目録作成の実習
 5. 『基本件名標目表』第3版と『国立国会図書館件名標目表』第5版を用いた件名標目作成の実習
 6. 資料と主題分析（シソーラス）
 7. 書誌コントロールと書誌ユーティリティ（NACSIS-CAT、NACSIS-WEBCAT、OCLCなど）
 8. その他の『分類法』『標目表』を用いた実習
 9. 簡易データベースと目録データ（実習）
- 分類法・目録法など、資料組織に関する復習を踏まえた上で（講義）、実際に分類・目録の演習をしてもらう（実習）。

【評価方法】

平常点（出席・レポート・臨時試験等）で「総合評価」する。

【テキスト】

使用せず。適宜、資料を配布する。

【参考書籍】

適宜、提示する。

図書館学特殊Ⅲ（児童サービス論）

岩崎れい

集中 4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

1. 児童サービスの理念及び基本的な事項をしっかりと把握する。
2. 児童サービスに深く関連する子どもの心理、子どもの読書、子ども観の移り変わり、児童書などについても併せて学ぶ。
3. ブックトークやストーリーテリングなど児童サービスにおける重要なサービスを学ぶ。

【授業計画】

1. 児童サービス概論
2. 児童サービスにおける業務と技術
3. 児童資料論
4. 児童書選択
5. 子どもと読書

【評価方法】

平常点及び筆記試験。

【テキスト】

『児童図書館サービス論』（赤星隆子・荒井督子編著 理想社・新図書館情報学シリーズ12）

【参考書籍】

- ライオネル・R・マッコール著『児童のための図書館奉仕』日本図書館協会 1973
- ハリエット・G・ロング著『児童図書館への道』日本図書館協会 1966
- ポール・アザール著『本・子ども・大人』紀伊國屋書店 1957
- リアン・H・スミス著『児童文学論』岩波書店 1964
- 全国SLAブックトーク委員会編『物故トーク理論と実践』全国学校図書館協議会 1990
- 日本図書館協会図書館の自由に関する調査委員会編『子どもの権利と読む自由—図書館と自由第13集』日本図書館協会 1994
- 児童図書館研究会編『年報こどもの図書館1992-1997 1998年版』日本図書館協会 1998
- ※上記以外は授業中に紹介

情報学Ⅱ a・b (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。

【授業計画】

0. オリエンテーション 歴史を学ぶ意義／情報化社会論と情報史
1. 図書館・情報サービスの起源と学術情報
 1. 1 古代・中世の知識と図書館
 1. 2 近代における学術情報流通システム
 1. 3 近代公共図書館と図書館界の成立
 1. 4 図書館学とドキュメンテーション
2. 現代の図書館・情報サービス
 2. 1 ドキュメンテーション運動その後
 2. 2 情報技術の起源
 2. 3 情報検索サービスの成立
 2. 4 情報学の成立
 2. 5 図書館情報学の環境の変化
3. 理想の情報検索システムを求めて
Vannevar BushとそのMemex構想／Memex, World Brain, インターネット
4. 総括
情報学と情報サービスの今後

【評価方法】

定期試験。※穴埋め・訂正問題、論述問題。

【テキスト】

『図書及び図書館史』新現代図書館学講座13、東京書籍
『図書館情報学用語辞典』日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 約3,800円

個人コミュニケーション論1 a・b (認知心理学)

吉崎一人

2年後期 3年前期 選択 2単位

【授業の概要】 a

外界の情報を人間がどのように処理しているのかを解説する。具体的には、人間の記憶の仕組み、注意と意識のしくみ、日常生活での記憶、推論過程等である。

【授業計画】 a

1. 記憶のボックスモデル① (短期記憶と長期記憶)
2. 記憶のボックスモデル② (リハーサル)
3. 処理水準と情報の精緻化
4. 符号化と検索の関係
5. 知識と表象① (意味記憶の構造と語の処理)
6. 知識と表象② (スキーマとスクリプト)
7. 潜在記憶と顕在記憶
8. 注意と自動制御
9. 日常生活の認知①
10. 日常生活の認知②
11. 日常生活の認知③

【授業の概要】 b

人間の認知活動と脳機能の関連性について解説する。ヒトを情報处理的な観点でとらえる立場をとる。その視点から、脳の部位と機能との対応関係を論じる。

【授業計画】 b

認知を支える生理学的基礎

1. 神経心理学の研究法
2. ラテラルティ
3. 物体認知と脳
4. 記憶機能と脳
5. 言語機能と脳
6. 注意機能と脳
7. 情動と脳
8. 脳機能の発達と可塑性

【評価方法】

期末テスト、中間テスト (またはレポート) さらには実験への参加 (被験者) 回数によって行われる。

【テキスト】

使用せず。授業ごとにプリント (A4) を配布する。

情報メディア論I a・b (通信・マルチメディア)

東浦信博

3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

司書・学芸員の資格取得に必要な視聴覚教育メディア論を主としてI a (前期)で、図書館情報学科の学生にとって必要と思われる情報通信のメディアと仕組みの概観をI b (後期)で扱う。

1. 視聴覚教育メディアの意義・目的

- ① 図書館・博物館とメディア② コミュニケーションとメディア
- ③ 具象的記号としての視聴覚教育メディア④ 視聴覚教育メディアのもつ特性

2. 視聴覚教育メディア各論

- ① 領域と種類② 音声メディア
- ③ 映像メディア④ 音声映像メディア

3. マルチメディア

- ① マルチメディアとは② 要素技術
- ③ アナログとデジタル
- ④ レーザー光線と光ファイバー
- ⑤ デジタル通信のメリット

4. 情報通信のメディアとシステム

- ① 電気通信事業 (情報産業) ② VAN (付加価値の意味等)
- ③ CATV (初期の意義、現在の意義) ④ 衛星通信・衛星放送
- ⑤ HDTV⑥ 移動体通信
- ⑦ 情報ハイウェイ⑧ マルチメディア

【授業計画】

図・表を多用する。主として OHP を用いて授業を進める。

【評価方法】

論述式定期試験 (テキスト・ノート持ち込み可)。

【テキスト】

新訂視聴覚教育 (学芸図書 ¥1,800)

情報通信とマルチメディア (共立出版 ¥2,835)

博物館概論

長谷川鏑治

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

博物館とは何かからはじめて、その発達の歴史をたどり、日本と世界の博物館を概観する。

- ア はじめに…学芸員の資格、博物館学とは何かなど学習の基礎となる事項を説明する。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に「博物館」とは何かを考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の歴史を概観するにあたって、その始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの人々の文芸に対する態度の探求と博物館的な施設の形式を探る。
- オ 近代博物館の出發Ⅰ…王権の誇示の手段としての財宝の展示などから博物館を考える。
- カ 近代博物館の出發Ⅱ…市民革命などの動きにあわせて市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…近世から現代までの主要な博物館を例にとり、その特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…独立から現代までをヨーロッパの博物館と対比しつつ、その特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど、今後の博物館の形態をみすえて、新しい動きをひろってみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・大陸文化の請来から床の間の普及まで
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の出發
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館
 - ・戦後の再出發

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

【評価方法】

- ・小テストと数回にわたるレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

改訂博物館学論考（長谷川鏑治 戸谷印刷 2,000円）

博物館概論

早川正一

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるための基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。十分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業計画】

- 博物館や美術館の基本概念と必要性
- 専門職員としての「学芸員」とは何か
- 博物館と美術館の発達とその時代背景
- 博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
- 博物館の分類と現代性
- 博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかり方、そして館外活動への配慮
- 博物館の相互協力と情報の活用

毎時間、入念にノートをさせる。

無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。

長谷川鏑治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。

【テキスト】

未定。

博物館学各論Ⅰ

長谷川銑治

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

博物館について、その機能、役割、組織、運営、学芸員、施設・設備、情報化、協力などにふれ、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

- ア 博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義づけられていることを念頭におき、その機能について考える。
- イ 博物館の分類…種類別、設置者別、制度別などの分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織の状態をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…現在、学芸員のおかれている地位、実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。外国のCURATORとも比較してみる。
- カ 予算など…博物館のマネジメントについて、予算を中心に考える。
- キ 博物館の施設・設備…人文系博物館・動物園・植物園・水族館などについて、その設置規準をもとに施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…博物館はもちろんのこと、大学・研究機関などとの連携について考える。

【授業計画】

授業概要の展開順によって講義する。

【評価方法】

- ・小テストと数回にわたるレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

改訂博物館学論考（長谷川銑治 戸谷印刷 2,000円）

博物館学各論Ⅰ

早川正一

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。
博物館や美術館の展示と陳列構造
博物館がとり扱う資料の収集と保存
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
文化財の種類と保護にかかわる諸問題
生涯学習の必要性と博物館の関連事業

毎時間、入念にノートさせる。
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。

博物館学論考（長谷川銑治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】

未定。

博物館学各論Ⅱ

長谷川銹治

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

博物館は「もの」による生涯学習の機関である。そこで、博物館資料とは何かの定義づけからはじめ、資料の取扱い方を含めて学習する。また、博物館の調査・研究についても考えるとともに、文化財の保護についても考察してみる。

- ア 博物館の資料…「物」が博物館資料と位置づけられるのはどのようなことかを考え、1次資料、2次資料の具体的な内容を知る。
- イ 博物館資料の実際…資料について実技を含めて具体的に学ぶ。
 - 1 資料の収集
 - 2 資料の取扱い
 - ・掛軸
 - ・古文書
 - ・和装本
 - ・茶碗
 - ・瓦など
 - 3 資料の整理・保存
 - 4 資料の保全
- ウ 資料情報の管理…資料情報の管理についてその実際と今後の方向を探る。
- エ 調査・研究…博物館における調査と研究、成果の公表などについて考えていく。
- オ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状、実態、問題点などについて考察する。
あわせて世界遺産についても考えてみる。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義し、実技も行う。

【評価方法】

- ・小テストと数回にわたるレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

改訂博物館学論考（長谷川銹治 戸谷印刷 2,000円）

博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的な事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業計画】

- ①博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
- ②資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
- ③資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。
やきもの、和装・巻子本、掛け軸その他で実習する。
- ④資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
- ⑤資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
- ⑥資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
- ⑦資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、準備について説明する。

【評価方法】

実習態度、小テストおよび数回のレポートで評価する。

【テキスト】

改訂『博物館学論考』長谷川銹治 戸谷印刷 2,000円。
必要に応じてプリントを配布し、スライド等も利用する。

博物館学各論Ⅱ

川合 剛

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

博物館は「もの（物）」「ひと（人）」「ば（場）」という三つの要素で構成されるといわれている。この授業では、そのうちの「もの」＝博物館資料について、博物館活動のなかでの役割を考える。

博物館資料の定義、収集、整理・分類、保管・保存、調査・研究、実際の取扱いなどについて、基礎的な知識と技術を学ぶ。

【授業計画】

「もの」に触れる実技の時間をできるだけ多くしたい。そして、ビデオ・スライドなど視聴覚教材を用い、「もの」についての具体的なイメージを得ることができるようにする。

- (1) 博物館と資料（博物館の機能と目的、博物館資料とはなにか、資料収集の方法など）
- (2) 「もの」はどのように取扱うのか（資料を取扱う知識と技術、和本・軸物・陶磁器など）
- (3) 「もの」はどのような手続きを経て、博物館資料となるのか（資料を記録する技術、ドキュメンテーションなど）
- (4) 「もの」を守るには（資料の保管と保存、防虫・防霉対策、地震や火災などの災害対策など）
- (5) 「もの」をどのように利用するのか（資料の活用方法など）
- (6) 調査・研究と博物館
- (7) 文化財の保護と博物館

【評価方法】

実技をおこなうので出席状況を重視する。あわせて、レポートの提出、（時間内の）小テストの結果などにより評価をする。

【テキスト】

『改訂博物館学論考』（長谷川銑治 戸谷印刷）。
プリントを配付する。

【参考書籍】

『市民のなかの博物館』（伊藤寿朗 吉川弘文館）ほか、随時、紹介する。

博物館実習

長谷川銑治

4年 通年 必修 3単位

【授業の概要】

学芸員の基本的な役割について、人文系博物館に例をとり、展示演習、博物館見学などを通して、実践的に学習する。

ア 展示論……展示とは何かからはじめて、展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。

- 1 展示とは
- 2 展示のポイント
・動線 ・視線
・照明
・温度 ・湿度
- 3 展示の施設
- 4 展示のプロセス
- 5 展示と保全

イ 普及・教育論……生涯学習が重要課題となっている現代社会にあって、博物館が果たす役割はどんなものかを探っていく。

ウ 博物館見学……土・日曜日に展覧会、施設見学に出かける。

エ 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。

オ 海外特別実習……夏休み中に希望者と海外の博物館の見学に出かけ現地で学習する。

カ 県外実習……エ、オに参加できない者は、9月に県外へ博物館の見学に出かける。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義・実習・見学をすすめる。

【評価方法】

- ・実習はもちろん、学外での研修にかならず参加し、それぞれレポートを提出する。
- ・実習にあたってはすすんで学習する姿勢で臨む。
- ・その都度、提出されるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】

改訂博物館学論考（長谷川銑治 戸谷印刷 2,000円）

博物館実習

秋元悦子

4年 通年 必修 3単位

【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業計画】

- ①展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
- ②展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的な事例をふまえながら、学んでゆく。
- ③展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
- ④展示の実習……模擬展示の計画書を作成し、展示方法やその活用法を実習する。
- ⑤展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後になう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】

授業および学外での研修の出席、レポートで評価する。

【テキスト】

改訂『博物館学論考』長谷川鏑治 戸谷印刷 2,000円。
必要に応じてプリントを配布し、スライド等も利用する。

博物館実習

竹内弘明

4年 通年 必修 3単位

【授業の概要】

博物館・博物館資料と利用者を結ぶ教育普及事業の意味と、そこで学芸員が果たすべき役割について、実践的に学習する。また被災地における博物館の役割も考える。

【授業計画】

博物館における教育普及事業とはなにかを考えながら、主として展観事業について具体的・実践的に学習をすすめてゆく。

- (1) 教育普及論
 - ①生涯学習と博物館・学芸員
 - ②博物館における教育普及事業
- (2) 展示論
 - ①展覧会とはなにか
 - ②展覧会の企画
 - ③展示配置と動線・視線
 - ④照明と温湿度などの管理
 - ⑤展示室の位置・施設・設備
 - ⑥学芸員の役割と倫理
- (3) 災害と博物館
 - ①博物館資料及び被災文化財の保全
 - ②被災地における博物館の役割
- (4) 博物館見学
土曜日に展覧会、施設見学に出かける。
- (5) 館務実習
夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行なう。
- (6) 海外特別実習
夏休み中に希望者と海外の博物館の見学に出かけ、現地で学習する。
- (7) 県外見学
(5)(6)に参加しなかった者は、9月に県外へ博物館の見学に出かける。

【評価方法】

- ・見学及び実習に際してのレポートにより評価する。
- ・出席及び実習に臨む姿勢を重視する。

【テキスト】

- ・とくになし。
- ・『改訂博物館学論考』（長谷川鏑治著）があれば持参。

【参考書籍】

- ・とくになし。（その都度、紹介）

生涯学習概論

渡辺かよ子

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

生涯教育ないしは生涯学習とは、従来の学校教育・家庭教育・社会教育を垂直的水平的に統合してとらえ、生涯発達を支援しようとする教育学の一分野である。本講義では、生涯教育ないしは生涯学習に関する理論、ならびに各国における生涯学習の実態と問題点の理解を通じて、人間が学ぶことの社会的意味、生涯発達と自己形成における生涯学習の意義を概説し、社会教育施設の独自の教育的役割とその可能性を論究する。

【授業計画】

- 第1-2講 オリエンテーション、生涯学習の理念
- 第3-5講 社会教育の伝統と生涯学習の現状(先進国、発展途上国、日本)
- 第6-7講 現代日本の学習機会と生涯学習に関する法制
- 第8-11講 生涯発達と生涯学習の内容と方法
- 第12-13講 生涯学習における教養・人権と社会改革
- 第14講 生涯学習の今後の課題、総括

【評価方法】

平常レポート、書評、学期末試験。

【テキスト】

生涯発達と生涯学習 (麻生誠・堀薫夫 放送大学教育振興会)

【参考書籍】

- 社会教育基礎論 (小林文人・末本誠編 国土社)
- 苦悩する先進国の生涯学習 (黒沢唯昭他編 社会評論社)
- 生涯教育 (ジェルビ 東京創元社)
- 被抑圧者の教育学 (フレイレ 亜紀書房)
- 国際成人教育論 (ポーラ 東信堂)
- 高齢者教育論 (松井政明他編 東信堂)
- 「わざ」から知る (生田久美子 東京大学出版会)
- 学びの復権 (辻本雅史 角川書店)
- 学問のすすめ (福沢諭吉 岩波文庫)
- 水と原生林のはざままで (シュヴァイツエル 岩波書店)
- 大学改革と生涯学習 (宮坂広作 明石書店)
- 消費社会の神話と構造 (ボードリヤール 紀伊国屋書店)
- ハマータウンの野郎ども (ウィリス ちくま文芸文庫)

視聴覚教育メディア論

東浦信博

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

「学芸員のための」を前提としながらも幅広く視聴覚教育メディア全般の特性を検討し、最近のマルチメディアまでの各視聴覚教育メディアを論ずる。

1. 視聴覚教育の意義と効果
2. 博物館と視聴覚教育メディア (手段としてのメディア、目的物としてのメディア)
3. 視聴覚教育メディア各論
領域と種類
録音メディア (レコード・テープ・CD等)
映像メディア1 (スライド・OHP等)
映像メディア2 (映画・ビデオ等)
マルチメディアと情報ネットワーク

【授業計画】

講義中心であるが、OHP、ビデオを多用する。

【評価方法】

論述式定期試験 (ノート持込み可。)

【テキスト】

新訂視聴覚教育 (学芸図書 ¥1,800)

教育学概論M

渡辺かよ子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

国際化多文化化の進展する現代社会は南北問題、環境問題、人権問題等、多くの問題を抱えている。文化としての教育そのものが深刻な社会問題の一つであると同時に、またこれらの社会問題に対する有効な必須の解決方法の一つでもある。本講義では、人類の普遍的文化としての教育の意義とその営みの概要の理解を促進する。そしてこれらの学習を通じて自らのこれまでの教育経験を歴史的社会的に相対化し、これからの大学内外での学びと自己形成に意欲的に取り組めるようになることを目指す。

【授業計画】

講義を中心に、グループ討議等も行いながら進める。

- 第1講 オリエンテーション（教育学の課題と方法）
- 第2講 教育の歴史（近代以前）
- 第3講 教育の歴史（近代以後）
- 第4講 教育制度
- 第5講 教育内容・教育課程
- 第6講 教育方法（学習指導・生活指導）
- 第7講 家庭教育
- 第8講 社会教育
- 第9講 生涯学習
- 第10講 教育組織の経営と管理
- 第11講 専門職と教育
- 第12講 人権としての教育
- 第13講 総括

【評価方法】

平常レポート、書評、学期末試験。

【テキスト】

教育への問い（天野郁夫編著 東京大学出版会）

【参考書籍】

- 現代教育の思想と構造（堀尾輝久 岩波書店）
シリーズ 学びと文化（佐伯胖他編 東京大学出版会）
学歴社会—新しい文明病（ドーア 岩波書店）
脱学校の社会（イリッチ 東京創元社）
子どもの教育の歴史（江藤恭二他編 名古屋大学出版会）

民俗学

谷沢 明

2年 前・後期 必修 2単位

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業計画】

- 1、民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
- 2、稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
- 3、農耕儀礼～田遊びを中心に～
- 4、年中行事～正月行事を中心に～
- 5、年中行事～盆行事を中心に～
- 6、人生儀礼～人生の折り目にあたって～
- 7、暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
- 8、暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
- 9、庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
- 10、日本民俗学のあゆみ～柳田国男の役割～
- 11、日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

【評価方法】

中間レポート及び試験による。

【テキスト】

『フィールドワークで探る民俗と地域文化』

日本美術史

小池富雄

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

学芸員が知っておくべき日本美術の内容は複雑多岐にわたっている。掛物や屏風といった絵画作品のみならず、「蒔絵」という日本独自の漆工芸品をはじめ刀剣や茶陶などの工芸品にも注目し、通史的に論じる。また単に名品の諸作品を追うのではなく背景となった社会や建築様式との関連について述べたい。展覧会の見学のしかた、作品論レポートの書き方も指導します。

ビデオやスライドで各時代を代表する作品を見ます。配布プリントでは、文献史料を講読します。予習・復習をしておいて下さい。

【授業計画】

- 1 学芸員のための日本美術史概論 日本美術史の方法・領域など、作品論レポートの書き方を指導
- 2 原始・古代 縄文以降奈良・平安時代の美術と工芸
- 3 原始・古代 寝殿造と平安貴族の生活の中で生み出された日本独自の仮名や蒔絵の意匠
- 4 原始・古代 蒔絵の発達と調度、日本の伝統家具の祖型がなぜこの時期に発生したのか
- 5 中世 鎌倉時代の美術、絵画、彫刻、建築、蒔絵
- 6 中世 書院造りと会所のかざり、この時代の建築、生活様式の中で生み出された室内装飾美術の諸相
- 7 中世 『君台観左右帳記』にみる 室町將軍家の部屋かざり、用いられた諸美術品
- 8 中世 海外から輸入された請来美術である唐絵（からえ）、唐物（からもの）
- 9 近世 安土桃山時代の美術と工芸
- 10 近世 近世大名婚礼調度と幸阿弥派の蒔絵
- 11 近世 菊の白露蒔絵調度、1633年加賀前田家四代光高夫人の婚礼調度
- 12 近世 初音の調度、1639年尾張徳川家二代光友夫人の婚礼調度
- 13 試験

【評価方法】

定期試験と作品論レポートによる。レポートは参考図書の転載では不可です。自ら考え感じた内容を評価します。量より質、あなたが何をどう見るか、を注目します。

【テキスト】

使用教科書：日本の国宝 81（週刊朝日百科 徳川美術館。1998年9月 朝日新聞社 560円）

日本考古学概論

柴垣勇夫

集中 3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

考古学は、遺跡・遺物をもとに人間の営んできた歴史を明らかにする学問である。その研究方法には、層位学や型式学、分類学などの科学的方法論がとられ、人文科学の中でもとりわけ自然科学との結びつきが強い学問でもある。そうした学問の基本を学び、考古学が明らかにしてきた日本の歴史の一面を把握する。特に、全国各地で行われている遺跡の発掘調査によって、知られるようになった最近の新しい遺構、遺物を紹介し、学際的な研究の進展を学ぶ。また遺跡調査への関心を高め、文化財の保存という現代的課題についても考える。現代に生きる我々がどのような社会を築くかを、歴史の中から学ぶ際に、考古学の果たす役割と受け継ぐべき文化遺産の重要性を認識する。

まず、考古学の方法を学び、世界の考古学研究の発展過程を眺める。次に日本の旧石器時代から近世に至る、日本考古学の研究成果を把握する。なかでも原始・古代遺跡における最近の新発見や社会構造の捉え方の変化、中世から近世の城館や都市遺跡の発掘調査から判明してきた当時の生活様式などに理解を深める。また日本考古学の研究対象が近世・近代にまで広がっていることを認識するとともに、遺跡や遺物の文化財としての保存の必要性とその活用方法についても考える。

【授業計画】

各時代毎の解説の後、スライド・OHPなどにより視覚的に確認し、次の時代に進める。新聞記事等最近のニュースも逐次取り入れる。旧石器時代から近世の江戸時代まで12章にて構成する。

【評価方法】

講義内容から出題するテスト。集中授業での欠席1/3を越えたものは受験資格を失うこととする。

【テキスト】

印刷物をテキストとして配布する。

ドイツ語 a・b

浜田義孝

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得することを目標とする。

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（あるいはテープ）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツ語圏の生活と文化に触れることもできる。

【授業計画】

テキストは、全12課で各課とも基本的な文法事項、練習問題、そしてドイツの学生生活をテーマにした読本（ディアローク）で構成されている。

また別冊問題集を宿題として課し、二三週毎に提出してもらい添削する。

【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

いかがですか大学生活（森田／田村／川上共著 朝日出版社）

フランス語 a・b

清水ベアトリックス

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

この授業は初級者を対象とし、フランス語の習得だけでなく、フランスの風俗、文化、習慣も「味わいながら」学ぶことを意図する。担当講師はフランス語の授業を通じて受講者の対仏国理解を深める手助けをすることを切に望む。

前期

日本で出版された平易なフランス語テキスト（CD付き）、漫画、ポップス、ビデオなどを使用する。

前期には、テキストの目次に沿って進み、フランス人講師が直接教えるので、受講者は「フランスに浸り」、「純粋な」フランス語の発音と文法の基礎を身に付ける。

できる限り前期では、下記の文法を学ぶ：

発音、名詞の『性』と『数』、冠詞、不定詞と動詞の活用：直接法現在形、疑問文：疑問代名詞と疑問形容詞、否定文、品質形容詞。

後期

前期に引き続き同じテキストを使用し、より高レベルの文法・語彙を学ぶ。しかし、特にコミュニケーションに重点を置くので、「純粋なフランスの環境」の中で簡単な作文を書いたり、寸劇をすることにより、受講者自身の考えをフランス語で表現する能力を養成することを主目的とする。

後期では、下記の文法事項を学ぶ：

目的語となる人称代名と強勢形、指示形容詞、所有形容詞、冠詞の縮約、半過去、複合過去。

【授業計画】

毎回学んだフランス語を会話練習に積極的に使用するとともに、文法を体系的に学んだり、平易なフランス語の文章を和訳する。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

Mini de concert (Centre Franco-Japonais d'Osaka 朝日出版)

ロシア語 a・b

杉本一直

1年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができる場所は本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？

この授業では、初歩のロシア語を学びながらロシアの芸術や文化や街について楽しく紹介していきます。映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

【授業計画】

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなかがすいたら...
- g. 自分について話してみよう
- h. 好きな音楽について
- i. 手紙を書こう(本当にロシアへ送るぞ！)

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

「パスポートロシア語辞典」(白水社)

Intensive English 2000

デイビッド・C. ダイカス ポール・ルイス ポール・C. リンガー ジョアン・M. ウッドマン

デイビッド・レヴィ ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス

2~4年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This unique course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills-including vocabulary, comprehension, and grammar-will also be cultivated.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching on this course, providing a well-rounded perspective of the contemporary themes found in the text and encouraging critical thinking.

Students will have a choice of four two-day courses of study (see student handbook for more detailed information).

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

Examples of such themes include the following:

- 1) GENDER STEREOTYPES AND WORK
- 2) THE AFFECT OF FOOD ON MOOD
- 3) VACATION SPOTS AROUND THE WORLD
- 4) STAYING HEALTHY
- 5) UNEXPLAINED PHENOMENA
- 6) OUTDOOR LEISURE ACTIVITIES

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

- * ATTENDANCE
- * CLASS PARTICIPATION/EFFORT
- * HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
- * END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

TO BE ANNOUNCED.

英文学海外セミナーⅠ

大野光子 キース・イーズリー

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

＜アイルランド文化・英語夏期研修＞

夏期休暇期間中に、本学交流提携大学である北アイルランドのアルスター大学において、アイルランドの歴史・文化・文学及び英語の総合指導を受けた後、アイルランド国内等の研修旅行を行う。修了者には、2単位が認定される。

2000年度の予定は下記の通り。

8月中旬～9月初旬

3週間のアルスター大学等での英語・英国文化研修
その後1週間のアイルランド国内バス旅行

午前及び午後：主に教室内学習

午後または夜：見学または観劇等

合計約40時間の学習

週末はベルファースト等視察

現地では、大学内寮に滞在

【授業計画】

アルスター大学CELTによる本学学生用特別プログラムで、本学教員は同行しない予定。従って、全期間にわたり、全ての指導は現地教員により英語で行われる予定。

【評価方法】

CELT教員の評価により本学が単位を認定する。

【テキスト】

現地にて指示。

本プログラムに参加するには、前期開講の「アイルランド文化」を受講し、単位を取得することが条件となる。

英文学海外セミナーⅡ

大野光子 キース・イーズリー

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

＜イギリス文化・英語春期研修＞

春期休暇期間中に、本学交流提携大学であるイギリスのイースト・アングリア大学において、英国の歴史・文化・文学及び英語の総合指導を受けた後、英国内等の研修旅行を行う。修了者には、2単位が認定される。

2000年度の予定は下記の通り。

2月中旬～3月初旬

3週間のUEA 英語・英国文化研修
その後1週間の英国・アイルランド国内バス旅行

午前及び午後：主に教室内学習

午後または夜：見学または観劇等

合計約40時間の学習

週末はロンドン、ケンブリッジ大学等視察

現地では、ひとりずつホームステイ

【授業計画】

イースト・アングリア大学 CEB による本学学生用特別プログラムで、本学教員は同行しない。従って、全期間にわたり、全ての指導は現地教員により英語で行われる。

【評価方法】

CEB 教員の評価により本学が単位を認定する。

【テキスト】

現地にて指示。

本プログラムに参加するには、後期開講の「イギリス文化」を受講し、単位を取得することが条件となる。

言語文化海外セミナーⅠ

馮富榮

集中 1~4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において3週間の中国語研修を行う。

◎月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。

◎午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。

◎夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。

◎土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう！

◎風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州へ、庭園で知られている蘇州への一日旅行。

2. 言語文化論Ⅰの講義内容と呼応した1週間旅行。

3. 定員は20名程度。

4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実施する。

5. 修了者には2単位を認定する。

【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、参加希望者は履修登録を必ずする。9月下旬頃、参加者最終決定。10月中旬頃、第1回説明会。11月下旬頃、第2回説明会。1月下旬頃、オリエンテーションを実施する。2月中旬頃に出発し、3月中旬頃に帰国する。費用は30万円程度。

【評価方法】

引率者が平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

言語文化海外セミナーⅡ

窪田守弘

集中 1~4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

韓国の大邱市にある大邱暁星カトリック大学で、3週間の語学研修を行なう。参加学生は、必ずしも韓国語の知識は必要でなく、意欲的に異文化体験しようとする者であれば、だれでも自由に参加出来る。ただ、キャンパス内の寄宿舎では規則正しい時間を送りながら語学中心の勉強生活となるので、事前の心構えがしっかり定まっている人が望ましい。

この研修は単に語学や文化の研修をするだけでなく、韓国の学生との交流を通じて相互理解を図り、多くの新しい友人を得ることも大きな目的の一つである。

期間：8月6日～8月25日（予定）

内容：

A. 韓国語研修（月～金）

◎毎朝3コマ（1コマ50分）

B. 文化研修（午後週1～2回）

◎陶磁器実習

◎韓国料理実習

◎韓国伝統舞踊鑑賞

C. 文化講座（午後週1回）

◎韓日文化比較論

◎韓日文化交流論

【授業計画】

参加学生は、必ず事前研修（週1回）を受けて、韓国語、文化、歴史などの基礎知識を得ることとする。

なお、参加希望者は、4月より始まるNHKのハンゲル講座を受講することが望ましい。

【評価方法】

研修後にレポートを提出し、全員で報告書を作成する。

【テキスト】

ムクゲと桜（日韓異文化コミュニケーション）窪田守弘著 見学出版 350円

英語海外セミナー

石橋千鶴子 ジョナサン・E. ロング

集中 2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

ウエスト・バージニア大学が本学のために用意する英語研修プログラム。現地キャンパスにおいて実施される。ESL専門教員が担当する約4週間の集中授業のほかに、小旅行、ホームステイ、在学生との交流などが用意されている。すべてを終了すれば、本学の単位が与えられる。本年は、8月下旬から9月下旬の約1ヶ月間を予定している。定員は約40名。

【評価方法】

ウエスト・バージニア大学授業担当者の評価による。